

令和4年度 教育委員会点検・評価報告書



令和5年3月



浜松市教育委員会

目 次

I 点検・評価の概要	
1 経 緯	1
2 目 的	1
3 点検・評価の対象	1
4 学識経験を有する者の知見の活用	1
II 教育委員会の活動状況	
1 教育委員会定例会・臨時会	2
2 教育委員会協議会	2
3 移動教育委員会	3
4 総合教育会議	5
5 三遠南信教育サミット	6
6 その他会議	6
7 会議以外の活動	7
8 広報活動	8
III 点検・評価の結果	
1 第3次浜松市教育総合計画 後期計画 体系図	9
2 各政策・施策の評価・検証	10
政策1 自分らしさを大切にする子供を育てます	
政策2 夢と希望を持ち続ける子供を育てます	
政策3 これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供を育てます	
政策4 一人一人の可能性を引き出し伸ばします	
政策5 園・学校や教職員の力を向上させます	
政策6 子供の生活や学びを支える教育環境づくりを進めます	
政策7 家庭や地域の力を生かした取組を推進します	
3 重点施策に関する調査結果の分析	80
IV 教育長・教育委員、有識者の意見	
1 教育長・教育委員の意見	86
2 有識者の意見	88
V 令和4年度の評価と今後の方向性	
令和4年度の評価と今後の方向性	97
VI 【参考】教育委員会議案等と附属機関及び庁内会議	
1 教育委員会議案・報告事項	98
2 教育委員会の活動状況	102
3 附属機関及び庁内会議	104

I 点検・評価の概要

1 経緯

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下、地教行法という。)が一部改正され、すべての教育委員会は、平成20年4月から「毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、公表すること」が義務づけられました。

また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

2 目的

主要な施策の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育施策の推進を図ります。

また、教育委員会の活動状況と併せた報告書を作成し、議会への提出や公表をすることで、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進します。

3 点検・評価の対象

本報告書では、教育委員会の活動状況、教育施策の推進や改善のために設置されている附属機関、庁内会議の活動状況などのほか、「第3次浜松市教育総合計画 後期計画～はままつ人づくり未来プラン～」(以下、後期計画という。)に掲載の施策や取組を点検・評価の対象とします。

施策の点検・評価は、後期計画の令和4年度における成果指標の達成状況や取組状況調査等に基づいた、評価・検証の結果を活用します。

《第3次浜松市教育総合計画 後期計画》

第3次浜松市教育総合計画 《基本構想10年》									
H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
前期5年					後期5年				

《取組状況調査 調査対象》

- ・市立小中学校 144校(小学校96校、中学校48校)
- ・第3次浜松市教育総合計画 後期計画 関係課 25課

《実態把握調査 調査対象》

年度	R2	R3	R4	R5	R6
調査方法	抽出	抽出	全校	抽出	抽出
児童	G1(48校)	小4	小5	小6	
	G2(48校)			小4	小5 小6
生徒	G1(24校)	中1	中2	中3	
	G2(24校)			中1	中2 中3
保護者	調査対象校の児童生徒の保護者				
地域住民	調査対象校の地域住民				
教員	校長、教頭、主幹教諭、通常学級において授業を担当する教諭				

4 学識経験を有する者の知見の活用

「はままつ人づくり未来プラン推進委員会※」や重点施策について協議する推進部会※に参加する有識者から意見をいただきました。

※後期計画の施策推進や教育課題について協議する会議。推進委員会の下部組織としてキャリア教育や教育の情報化など、重点施策に関する6つの推進部会を設置。

II 教育委員会の活動状況

1 教育委員会定例会・臨時会

教育委員会は、毎月1回の定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催しました。

会議では、市議会上程議案に対する意見聴取をはじめ、教育委員会規則の改正等の審議のほか、全国学力・学習状況調査の調査結果や博物館・美術館の事業等に関する報告に対して、各委員から様々な視点で意見が出され、活発な協議が行われました。

(1)開催回数等

年度等	令和3年度	令和4年度
開催回数	15回 (定例会12回、臨時会3回)	13回 (定例会12回、臨時会1回)
開催時間	1時間10分(平均)	1時間4分
傍聴者数	48人(延べ人数)	34人(延べ人数)

(2)審議案件 ※審議・報告案件の詳細はP98参照

内容	令和3年度	令和4年度
①議会提出議案等に対する意見	18	19
②人事に関する事	15	17
③教育委員会規則・規程等の制定・改廃	11	18
④教科書採択	2	2
⑤計画の策定	0	1
⑥教育委員会点検・評価等	1	1
⑦文化財の指定・解除	1	0
計	48	58

2 教育委員会協議会

教育委員会協議会は、定例会に合わせて開催し、教育課題などに対する国・県の動向や本市の状況、今後の方向性などについて、事務局から適宜報告を行いました。

(1)開催回数等

年度等	令和3年度	令和4年度
開催回数	14回	12回

(2)主な報告事項

- ・いじめ問題への対応に関する事
- ・放課後児童会の運営委託化に関する事
- ・全国学力・学習状況調査に関する事
- ・幼稚園・保育園の適正化等に関する事 など



7月 教育委員会定例会

3 移動教育委員会

教育長の講話や参加者との意見交換を通じ、開かれた教育行政の推進を図るとともに、本市が推進する教育について理解を深め、いただいた意見を今後の教育施策に反映させることを目的に毎年度開催しています。

今年度は、外国人児童生徒への支援やICTを活用した教育の現状等をテーマに、移動教育委員会を開催しました。

(1)開催回数 3回 (R3 : 2回)

(2)参加者 92人 (R3 : 45人) ※第1回1部を除く

(3)開催内容

	会場	日時	参加者	内容等
第1回	1部 江南中 初期日本語指導拠点校「江南教室」	6月14日(火) 10:40～ 11:50	教育長 教育委員 6人	今年度設置した初期日本語指導拠点校「江南教室」の参観。 (3時限目社会科)
	2部 教育センター ・2階研修室	10月24日(月) 16:00～ 16:30	外国人児童生徒指導担当者 42人	各学校における外国人児童生徒の実態や支援の状況などについて意見交換を実施。(6グループ)
第2回	教育会館 ・2階会議室	9月3日(土) 13:30～ 15:00	浜松市 PTA 連絡協議会 (保護者代表) 33人	キャリア教育をはじめ不登校児童生徒への支援や部活動の地域移行などについて意見交換を実施。(2グループ)
第3回	東区役所 ・3階会議室	12月6日(火) 19:00～ 20:30	市民(公募) 17人	教育長の講話の後、「ICTを活用した教育の現状と今後について」をテーマに意見交換を実施。 (2グループ)

(4)参加者からの主な意見(意見交換、アンケートより)

	主な意見
第1回	<p>○通訳や支援員が不足している状況ではあるが、外国人児童生徒に対してより良い支援を行うために、教員や教育委員会が連携し、指導を工夫していくことが必要と感じた。</p> <p>○外国人児童生徒が自立できるよう、高校進学なども含め、長期間に渡って細やかな支援を行っていく必要があると感じた。</p> <p>○外国人児童生徒が、将来に希望がもてるような取組が必要である。社会で働く外国人ロールモデルの姿を発達段階の早期に知ることが重要ではないか。</p> <p>○江南教室の在籍期間延長や、教室設置場所または通学方法の検討が必要ではないか。</p> <p>○外国人児童生徒の取り出し指導における設備・機器が不足している。</p>

主な意見	
第 2 回	<p>○キャリア教育の取組内容が保護者に伝わっていない。内容がイメージしやすい名称に変更してはどうか。</p> <p>○不登校の子供は学習が遅れてしまいやすいため、教育委員会で学習プログラムを用意することはできないか。</p> <p>○幼稚園や保育園の段階のうちに発達支援教育の説明をしてほしい。また、各学校でどのように支援をしているか、保護者に分かるようにしてほしい。</p> <p>○中学校の部活動が無くなると聞いていたが、地域に移行していく方向性なのだということがわかった。</p> <p>○各学校でタブレット型端末を活用した授業が行われているが、専門人材の配置や、教員が新しい取組に専念できる環境を整えるなど、教育委員会が支援してほしい。</p> <p>○意見交換のテーマを事前に示していただいたが、学校の現状を知ったうえで意見交換に臨めるとよいと感じた。</p> <p>○コロナ禍によりオンラインが主流であった中、やはり対面の方が様々な意見が出やすいと感じた。</p>
第 3 回	<p>○教育委員会の方針、計画など目指すところは共感できるものがあった。ICT活用は、進んでいる所ばかりではなく、進んでいない所にも目を向けてほしいと感じた。</p> <p>○不登校や、新型コロナウイルス感染・濃厚接触者となった際の欠席期間中に家庭でタブレット型端末を活用した学習ができるようにしてほしい。</p> <p>○失敗を恐れずにトライアンドエラーを繰り返すことが重要である。完璧であることに捉われず柔軟な発想や大胆な取組をしてほしい。</p> <p>○学校や教室に行くことが困難な子供に対して、オンラインで学校と家庭をつなぐだけでなく、校内の別教室でオンライン授業を受けられるような方法も検討してはどうか。</p> <p>○学校と保護者が双方向にやり取りができる手段を検討してほしい。さくら連絡網のアンケート機能を活用して配付物を減らしてはどうか。</p> <p>○今後導入されるデジタル教科書に期待している。授業の内容が深まることはもちろん、教科書の持ち帰り負担が軽減されるのは大きい。</p> <p>○デジタル教材の長時間使用に対する健康被害に配慮してほしい。</p> <p>○いろいろな立場の参加者から、様々な視点で考えを知ることができてよかった。ICTの活用が不登校や発達障害などの子供たちへ有効に活用できると良いと思った。</p>



9/3 第2回移動教育委員会



12/6 第3回移動教育委員会

4 総合教育会議 2回 (R3: 2回)

市長と教育委員会が、円滑に意思疎通を図り、本市における教育の課題及び目指す姿等を共有し、連携して効果的に教育行政を推進するため、以下のとおり会議を開催しました。

第1回	日時	令和4年7月11日(月) 15:00 ~ 16:30
	傍聴者	11人
	テーマ	「いじめ問題への対応について」 ～いじめ未然防止及び早期発見に向けた取組～ ・相談手法の拡充と周知について ・いじめへの組織的な対応について
	主な意見	○児童生徒に配付のタブレット型端末を活用できないか。発達段階に応じた使いやすさにも配慮することが大切。 ○SNSやLINEの活用も有効ではないか。 ○即時に相談できるチャットのようなものを活用し、教育委員会が対応できる仕組みはどうか。 ○学校や教員だけでは抱えきれない状況もある。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家をぜひ活用いただきたい。 ○文科省では、スクールロイヤー制度の導入を進めている。試行的でもよいので制度の導入を強く希望する。 ○教員の初期対応がすごく大切。初期対応について実践を踏まえた研修の強化が必要ではないか。 ○事例研究を組り入れた教員研修は充実した研修になるのではないか。 ○教員の時間的・精神的負担を軽減することも大切。さらに民間委託や地域との連携を進めていくべきではないか。
第2回	日時	令和4年12月15日(木) 15:00 ~ 16:30
	傍聴者	3人
	テーマ	「放課後の居場所づくりについて」 ・待機児童解消に向けた子供の居場所について
	主な意見	○民間企業が夏休み期間だけでも子供の居場所を確保するような取組を促進・支援することで、女性の社会進出にもつながるのではないか。 ○子供が高齢者とふれ合うことも大切であると感じている。ふれあい交流センターも居場所として活用できないか。 ○子ども食堂は、課題を抱える家庭と新たな接点を持つことができると聞いている。子ども食堂への支援は重要であるとする。 ○協働センターの活用は学校からの移動などの課題もある。学校施設の活用は、学校もメリットがあるような整備としてはどうか。
	テーマ	「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」
主な意見	○大規模な改築や改修も大切だが、職員室のリノベーションなど教員の職場環境の整備を進めることも大切ではないか。 ○民間の力を取り入れて全国に誇れる施設をモデル的に整備してはどうか。 ○協働センターを複合化することで、地域と連携した教育活動が活性化するのはないか。	

教育委員会、総合教育会議の会議録は、浜松市ホームページで公開しています。以下の二次元コードからご覧ください。

《教育委員会定例会》《移動教育委員会》《総合教育会議》



5 三遠南信教育サミット

三遠南信地域が一体となって、教育分野での連携と広域交流を図る三遠南信教育サミットを本市で開催しました。（本市での開催はH9. H14 に続き 3 回目）

日時	参加者	内容等
7月8日（金） 13:30 ~ 16:10	70人 26市町村	講演「公教育を捉え直す～リーガルマインドを軸に～」 講師：静岡大学教育学部准教授 島田桂吾氏 <<事例発表>> ○豊根村教育委員会 「ICT教育×キャリア教育×コミュニティ・スクール」 愛知県一小さな自治体と学校のチャレンジ ○根羽村教育委員会 「義務教育学校“根羽学園”について」 ○浜松市教育委員会 「一人一人の可能性を引き出し伸ばす学びの実現に向けて」 ～特別な支援を要する子供への支援充実～



宮崎教育長挨拶



本市 事例発表

6 その他会議 6回（R3: 9回）

月日	会議名
4月 26日	浜松市奨学生選考委員会
10月	11日 浜松市奨学生選考委員会
	19日 第1回はままつ人づくり未来プラン推進委員会
11月	25日 指定教育研究報告会
	30日 第61回静岡県市町教育委員会研修会（WEB会議）
2月 14日	第2回はままつ人づくり未来プラン推進委員会

7 会議以外の活動 24回 (R3:28回)

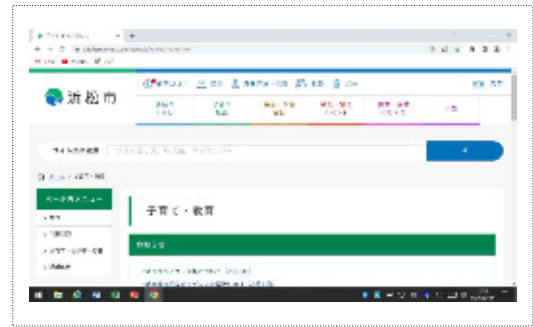
月日		会議名
4月	8日	校長会議
	26日	第1回総合教育会議勉強会
5月	6日	第1回総合教育会議勉強会
	10日	浜松教師塾開講式
	25日	第1回総合教育会議勉強会 三遠南信教育サミット実行委員会
6月	16日	ピア・サポート研修視察
	29日	第1回総合教育会議勉強会 三遠南信教育サミット実行委員会
7月	25日	三遠南信教育サミット実行委員会
8月	25日	人事関係業務（幼稚園教諭採用試験3次面接）
	26日	人事関係業務（幼稚園教諭採用試験3次面接）
9月	22日	第2回総合教育会議勉強会
10月	25日	第2回総合教育会議勉強会
11月	22日	第2回総合教育会議勉強会
12月	7日	人事関係業務（管理職登用選考試験）
	9日	人事関係業務（管理職登用選考試験） 第2回総合教育会議協議関連事業視察（子ども食堂・学習支援教室）
	11日	人事関係業務（幼稚園教諭採用試験面接）
1月	8日	浜松市はたちの集い
	24日	指定研修幼稚園（万斛幼稚園、初生幼稚園）
2月	3日	研究員研究発表会
	24日	浜松教師塾発表会・修了式
3月	13日	臨時校長会議



8 広報活動

(1) 浜松市ホームページ

就学に関する手続きをはじめ、各種相談窓口の案内や教育施策などについて情報発信を行いました。



《浜松市ホームページ 子育て・教育》

(2) リーフレットの発行・配付

●第3次浜松市教育総合計画 後期計画 ～はままつ人づくり未来プラン～

第3次浜松市教育総合計画 後期計画の概要や、主な取り組み内容を理解していただくため、市立小中学校の全ての保護者へ配付しました。

●コミュニティ・スクール

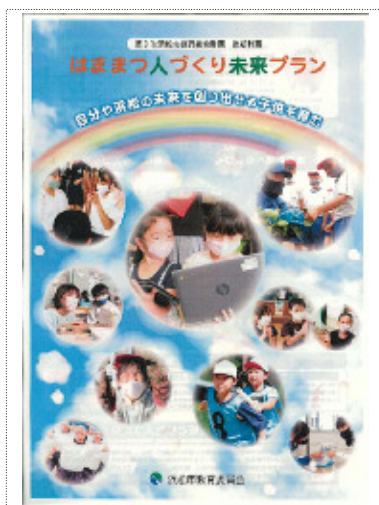
コミュニティ・スクールの仕組みや、取組の様子を理解していただくリーフレットを発行し、学校運営協議会未導入校の保護者や地域の方へ配付しました。

●発達支援教育

支援を必要とする子供の社会自立を目指して、中学校卒業後の進路先や相談窓口に関するリーフレットを発行し、保護者へ周知を行いました。

●全国学力・学習状況調査

今年度の全国学力・学習状況調査の結果や本市の取組をまとめたリーフレットを発行し、保護者へ周知を行いました。



《はままつ人づくり未来プラン》



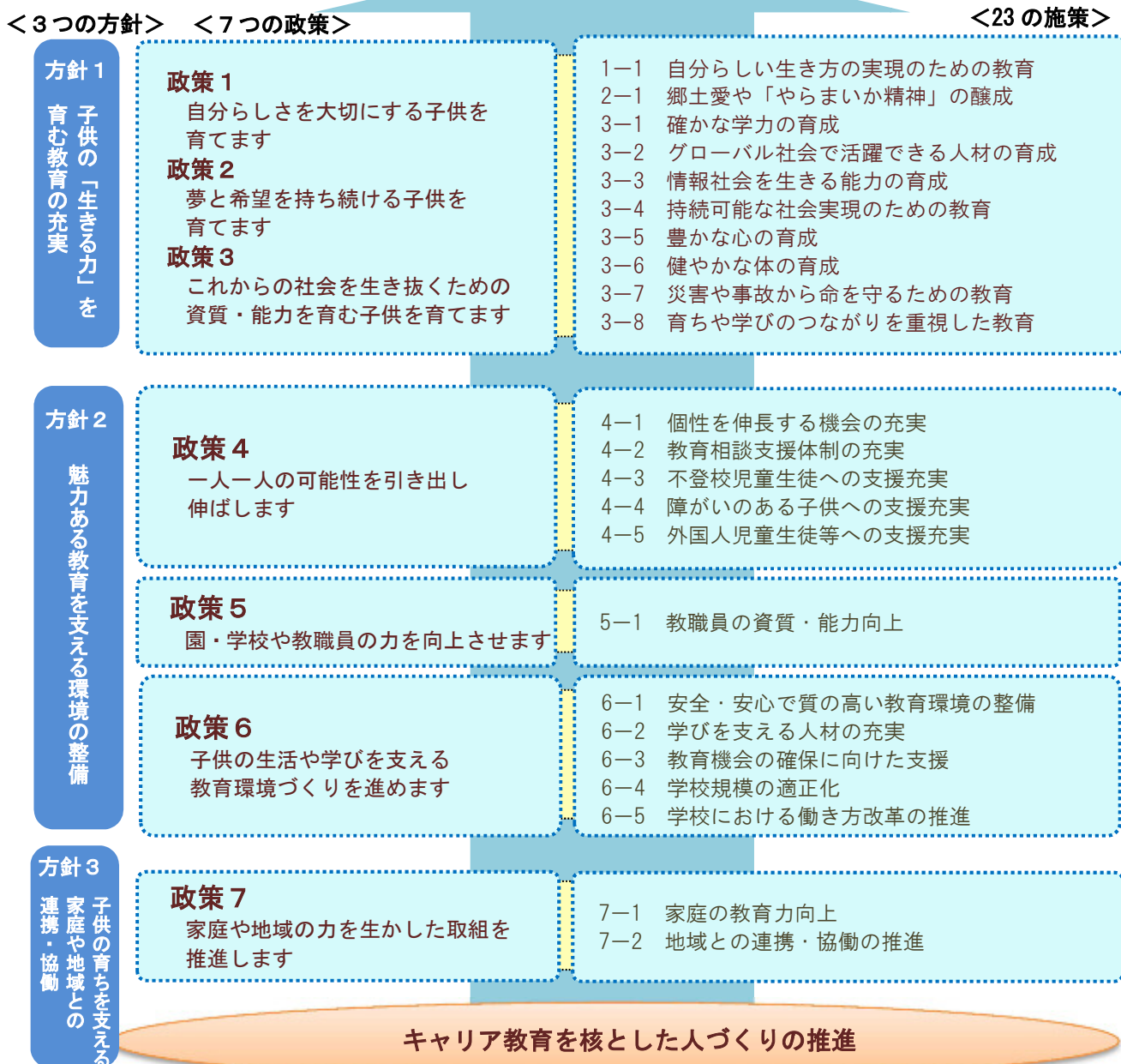
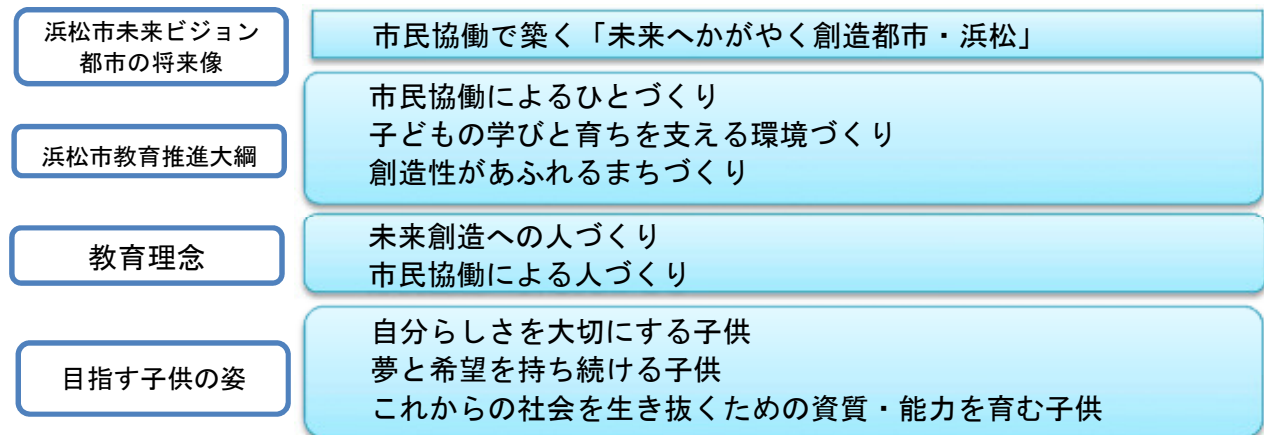
《発達支援教育》



《全国学力・学習状況調査》

Ⅲ 点検・評価の結果

1 第3次浜松市教育総合計画 後期計画 体系図





2 各政策・施策の評価・検証

政策 1

自分らしさを大切にする子供を育てます

施策 1-1 自分らしい生き方の実現のための教育

成果指標

※R4 年度数値…G1全体の数値

将来の夢を持っている子供の割合	R6 年度 90%	R4 年度 → 77.8%
自分にはよいところがあると思う子供の割合	R6 年度 85%	R4 年度 → 77.9%
自分のよいところを生かしながら活動している子供の割合	R6 年度 80%	R4 年度 → 74.7%

■1-1-1 キャリア教育の推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 一…年度内算定不可

R4 年度 取組内容	評価	担当
キャリア教育実践に実践事例、先進事例の情報発信	A	教育総務課
計画訪問や研修会における、教科等の目標やねらいとキャリア教育で育てたい力の重なりを意識したキャリア教育実践への支援	A	指導課
計画訪問や研修会における、キャリア・パスポートの効果的な活用の啓発	A	指導課
キャリア教育推進教師研修の実施（年2回）	A	教育センター
2年目経験研修でのキャリア教育に関する講座実施（年1回）	A	教育センター
小中学校からの要請による、キャリア教育に関する校内研修支援の実施	-	教育センター
幼児教育の指針『幼児期に育てたい力(教職員用指導資料)』の配付及び活用事例の紹介による啓発	A	幼児教育・保育課
小中高校生を対象とした「次世代起業家育成講座」の実施（32回）	B	産業振興課
農業振興ビジョンに基づく職業としての農業の魅力を伝える出前講座の実施（4校）	B	農業水産課

《学校の取組》

(1) キャリア教育を核とした人づくりの推進のためにどのような取組をしましたか(複数回答)

(単位：%、比較：Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
「本市がキャリア教育を核とした人づくりを推進する意義」を、全職員で共通理解した	81.3	87.5	88.2	6.9	83.8	90.6	6.8	77.1	83.3	6.2
自校のキャリア教育で育てたい力を、職員間で共通理解する場を設けた	86.1	98.6	97.2	11.1	86.5	97.9	11.4	85.4	95.8	10.4
キャリア教育を意図的・計画的に実践するために、年間指導計画を作成（見直し）した	78.5	95.8	92.4	13.9	85.4	96.9	11.5	64.6	83.3	18.7
キャリア教育で育てたい力を家庭や地域と共有するために、情報発信した	36.1	49.3	59.7	23.6	40.6	65.6	25.0	27.1	47.9	20.8
キャリア教育年間指導計画に位置付けられている教科学習や教科外活動の中で、子供にキャリア教育で育てたい力を育む指導を行った	72.2	82.6	90.3	18.1	74.0	93.8	19.8	68.8	83.3	14.5
子供が、新たな学習や生活の意欲につながり、将来の生き方を考えたりすることができるよう、キャリア・パスポートを活用した	77.8	84.0	93.1	15.3	82.3	94.8	12.5	68.8	89.6	20.8
家庭や地域と連携・協働しながら、キャリア教育を推進した	33.3	40.3	51.4	18.1	35.4	60.4	25.0	29.2	33.3	4.1
その他	6.9	4.2	4.2	△2.7	6.3	4.2	△2.1	8.3	4.2	△4.1

《教員への調査》

1 自校のキャリア教育で育てたい力を踏まえて実践していますか (単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	90.4	89.6	91.9	1.5
小学校	92.1	91.3	93.0	0.9
中学校	87.5	86.7	90.0	2.5

- ・ R3 との比較では、小中ともに 2～3Pt の上昇が見られる。
- ・ 全体で約 9 割の肯定的回答が維持できている。

2 今年度、発達支援学級や複式学級、学年(団)の教員と協働して、キャリア教育年間指導計画を作成(見直し)していますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	76.5	81.7	80.9	4.4
小学校	80.8	87.6	85.6	4.8
中学校	68.9	71.6	72.7	3.8

- ・ R3 との比較では、全体で約 1 Pt の減少が見られる。
- ・ 小学校は、R3 と比較してやや減少が見られるが、中学校は緩やかに上昇が見られる。

3 自校のキャリア教育で育てたい力を子供と共有し、実践していますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	84.0	84.1	86.2	2.2
小学校	85.8	87.4	89.4	3.6
中学校	81.1	78.5	80.4	△0.7

- ・ 全体では年々上昇が見られる。
- ・ 小学校は年々緩やかな上昇が見られ、中学校は R3 と比較して上昇が見られた。

4 キャリア教育年間指導計画に位置付けられている教科学習や教科外活動の中で、子供にキャリア教育で育てたい力を育む指導を行っていますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	89.1	88.2	89.7	0.6
小学校	91.0	90.0	91.2	0.2
中学校	85.5	85.0	87.0	1.5

- ・ 全体、小中ともに R3 と比較して上昇が見られ、約 9 割の高い値となっている。

5 自校のキャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立てを工夫していますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	80.2	78.7	83.4	3.2
小学校	81.3	80.7	85.4	4.1
中学校	78.2	75.1	80.0	1.8

- ・ 全体、小中ともに R3 と比較して上昇が見られる。
- ・ 小中学校ともに R3 と比較して約 5Pt の上昇が見られる。

6 子供が、子供同士や大人(教員・保護者等)と対話的に関わり、成長を促すことができるよう、キャリア・パスポートを活用していますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	68.9	73.4	76.2	7.3
小学校	72.3	78.6	80.3	8.0
中学校	62.9	64.6	69.0	6.1

- ・ 全体、小中ともに年々上昇が見られる。
- ・ 小中の比較では、で約 11Pt の差が見られる。

7 子供一人一人がよさを発揮できるよう、場を工夫して設定していますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	96.2	96.0	96.4	0.2
小学校	96.8	96.6	97.1	0.3
中学校	95.0	95.0	95.2	0.2

- ・ 全体、小中ともに 95%を超える高い数値が保たれている。

《児童生徒への調査》

1 キャリア教育で育てたい力を知っていますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		46.9		63.1		65.3	18.4
	小学校	4年	52.5	5年	76.1	6年	75.3	22.8
	中学校	1年	41.4	2年	49.7	3年	55.0	13.6
G2	区分	R4						
	全体		61.1					
	小学校	4年	70.5					
	中学校	1年	50.2					
差	区分	G2-G1						
	全体		14.2					
	小学校		18.0					
	中学校		8.8					

- ・ 【G1】R2との比較において、全体で約18Ptの上昇が見られる。小学校の方が中学校より上昇幅が大きく見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、全体で約14Ptの差が見られる。小学校では18Ptの差が見られ、中学校よりも差が大きくなっている。

2 キャリア教育で学んだことは、日常生活や将来につながると感じますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		85.3		89.5		87.8	2.5
	小学校	4年	87.3	5年	92.2	6年	90.5	3.2
	中学校	1年	83.4	2年	86.7	3年	85.0	1.6
G2	区分	R4						
	全体		90.2					
	小学校	4年	92.1					
	中学校	1年	88.0					
差	区分	G2-G1						
	全体		4.9					
	小学校		4.8					
	中学校		4.6					

- ・ 【G1】全体では約9割の値となっているが、R3との比較では、小中ともに約2Ptの減少が見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、約5Ptの差が見られ、小中ともに同様の傾向が見られる。

3 キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと思いませんか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		75.6		79.7		77.7	2.1
	小学校	4年	78.1	5年	83.0	6年	81.0	2.9
	中学校	1年	73.2	2年	76.4	3年	74.4	1.2
G2	区分	R4						
	全体		81.1					
	小学校	4年	83.6					
	中学校	1年	78.1					
差	区分	G2-G1						
	全体		5.5					
	小学校		5.5					
	中学校		4.9					

- ・ 【G1】全体では約7割から8割の値となっており、R3との比較では、小中ともに約2Ptの減少が見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、約5～6Ptの差が見られ、小中ともに同様の傾向が見られる。

4 どんな大人になりたいのかという目標を持っていますか(将来の夢を持っていますか)

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		85.2		80.1		77.8	△7.4
	小学校	4年	91.8	5年	90.0	6年	87.7	△4.1
	中学校	1年	78.6	2年	69.9	3年	67.5	△11.1
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに年々数値の減少が見られる。小中の差はR2では13Pt程度であったものがR3以降は20Pt程度に広がっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、調査対象者が異なるが、数値の低下が見られ、中学校の低下が著しく見られる。 				
	全体		81.2					
	小学校	4年	89.3					
	中学校	1年	71.7					
差	区分	G2-G1						
	全体		△4.0					
	小学校		△2.5					
	中学校		△6.9					

＜参考＞全国学力・学習状況調査			R1	R3	R4
将来の夢や目標を持っていますか	全国	小6	83.8	76.9	79.8
		中3	70.5	68.6	67.3
	本市	小6	86.9	83.4	84.0
		中3	74.5	72.0	69.8

※R2は中止

5 自分にはよいところがあると思いますか

成果指標 R6 年度 85%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		80.8		76.1		77.9	△2.9
	小学校	4年	83.7	5年	77.8	6年	77.8	△5.9
	中学校	1年	77.9	2年	74.4	3年	78.0	0.1
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は、R2との比較では低下しているが、R3との比較では横ばいとなっている。 中学校は、R3に低下が見られたが、R2と同等の数値へ回復が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、調査対象者が異なるが、数値の低下が見られ、小中ともに同様の傾向が見られる。 				
	全体		77.4					
	小学校	4年	80.1					
	中学校	1年	74.3					
差	区分	G2-G1						
	全体		△3.4					
	小学校		△3.6					
	中学校		△3.6					

＜参考＞全国学力・学習状況調査			R1	R3	R4
自分には良いところがあると思いますか	全国	小6	81.2	76.9	79.3
		中3	74.1	76.2	78.5
	本市	小6	86.5	82.5	84.3
		中3	81.6	82.0	82.9

※R2は中止

6 自分のよいところを生かしながら活動していますか

成果指標 R6 年度 80%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		77.0		74.1		74.7		△2.3
	小学校	4年	81.2	5年	77.2	6年	75.6	△5.6	
	中学校	1年	72.9	2年	70.9	3年	73.7	0.8	
G2	区分	R4							
	全体		77.2						
	小学校	4年	81.6						
	中学校	1年	72.1						
差	区分	G2-G1							
	全体		0.2						
	小学校		0.4						
	中学校		△0.8						

- ・ 【G1】 小学校は、年々数値の減少が見られる。中学校は、R3に減少したものの、R4はR2以上の数値へ上昇している。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、調査対象者が異なるが、ほぼ同等の数値となっている。

《保護者への調査》

1 学校では、キャリア教育で子供にどのような力を育てようとしているか知っていますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		27.2		33.2		38.5		11.3
	小学校	4年	30.8	5年	36.5	6年	43.6	12.8	
	中学校	1年	23.9	2年	29.6	3年	33.8	9.9	
G2	区分	R4							
	全体		31.5						
	小学校	4年	33.5						
	中学校	1年	29.2						
差	区分	G2-G1							
	全体		4.3						
	小学校		2.7						
	中学校		5.3						

- ・ 【G1】 小中ともに年々数値の上昇が見られるが、肯定的回答は約3割～4割と低くなっており、小中の比較では、約10Ptの差が見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、G2の数値が上回っている。小4と小6の保護者では約10Ptの差、中1と中3の保護者では約5Ptの差が見られる。

2 キャリア・パスポートを通して、お子さんが何をがんばったか、またはがんばりたいと思っているか知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		22.9		29.8		35.7		12.8
	小学校	4年	26.9	5年	35.7	6年	44.6	17.7	
	中学校	1年	19.1	2年	23.6	3年	27.5	8.4	
G2	区分	R4							
	全体		32.8						
	小学校	4年	34.6						
	中学校	1年	30.6						
差	区分	G2-G1							
	全体		9.9						
	小学校		7.7						
	中学校		11.5						

- ・ 【G1】 小中ともに年々数値の上昇が見られ、特に小学校の数値が著しく上昇している。
- ・ 数値の上昇が見られるが、肯定的回答は約3割～4割と低い状況となっている。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、G2の数値が上回っている。小4と小6の保護者では約10Ptの差が見られる。

《地域への調査》

1 学校では、キャリア教育で子供にどのような力を育てようとしているか知っていますか

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	77.7	85.4	88.1	10.4
小学校	76.3	85.0	90.4	14.1
中学校	80.3	86.3	83.2	2.9

- ・ 全体では年々数値の上昇が見られる。
- ・ 小中の比較では、R2は4Pt中学校が上回っていたが、R4では約7Pt小学校が上回っている。



成果

○全市的なキャリア教育の推進

- ・ 学校の取組では、すべての項目で数値の上昇が見られ、全市的にキャリア教育の実践が進んでいる状況が確認できました。特に昨年度、課題として挙げられた家庭や地域への情報発信やキャリア・パスポートの活用において数値が大きく上昇しました。
- ・ 教員への調査では、キャリア教育で育てたい力を踏まえた実践や指導の項目において約9割の教員から肯定的な回答が得られ、その他項目についても、多くの項目で数値が上昇し、8割以上の肯定的回答が得られました。特に、子供の一人一人のよさを発揮できるための場の工夫の項目は、R2年度から高い数値が維持できています。
- ・ 児童生徒への調査では、キャリア教育に関する項目において、昨年度との比較において約2Pt程度数値の低下が見られるなか、中学校では、キャリア教育で育てたい力の認識に関する項目において約5Ptの上昇が見られ、中学校での実践の浸透が確認できました。

○キャリア・パスポートの活用

- ・ 学校のキャリア・パスポート活用に関する取組の数値は、昨年度と比較して約9Ptの上昇が見られ、教員への調査においても約7割～8割の教員から活用に関して肯定的な回答が得られました。
- ・ 児童生徒への調査(質問3)では、約2Pt程度の数値低下が見られましたが、グループ1とグループ2の同一学年での比較では、グループ2の方が約5～6Pt数値が上回っていることから、これまで着実に活用が進められてきている状況が確認できました。
- ・ 保護者への調査(質問2)では、年々数値の上昇が見られ、活用が図られている状況が確認できました。特に小学校は、昨年度から約9Ptの上昇が見られたことから、家庭への持ち帰りなどにより、パスポートを通して保護者が子供の様子を確認できている様子が伺えます。

○家庭や地域への情報発信

- ・ 学校の取組では、家庭・地域への情報発信の項目において、昨年度から約10Ptの上昇が見られ、積極的に情報発信に取り組んだ状況が確認できました。
- ・ 保護者や地域住民への調査では、キャリア教育で育てたい力の認識に関する項目で、数値の上昇が見られ、コロナ禍によりPTA総会等が実施できない状況の中、学校だよりやホームページなどを通して学校が情報発信に努めた成果を確認できました。



課題

○キャリア教育で育てたい力の明確化・共有

- ・ 教員への調査、キャリア教育で育てたい力を子供と共有した実践(質問3)と、キャリア教育で育てたい力を子供が自覚することができる手立ての工夫(質問5)の項目の肯定的回答はともに約8割と高い値を示しているのに対し、児童生徒への調査、キャリア教育で育てたい力の認識(質問1)の肯定的回答は、特に中学校では約6割となっており、小学校と比較すると約20Ptの差が見られ、教員の取組と生徒の表れに乖離が見られました。
- ・ 保護者への調査では、キャリア教育で育てたい力の認識に関する項目で、数値の上昇が見られたものの、数値は依然、約3割～4割と低い値となっています。
- ・ 各学校では、キャリア教育で育てたい力を分かりやすい言葉に置き換えて明確に示し、具体的な行動目標として、子供、家庭、地域と共有することが必要だと考えます。

○家庭や地域との連携・協働

- ・ 学校の取組では、家庭や地域との連携・協働の項目において、昨年度との比較では約11Ptの上昇が見られ、連携・協働しながらキャリア教育が進められている状況が確認できましたが、肯定的回答は約5割であり、小中の差も大きく開いている状況となっています。
- ・ 家庭や地域と連携・協働したキャリア教育を進めていくために、キャリア・パスポートを保護者と共有したり、学校運営協議会を活用してキャリア教育で育てたい力を周知したりするなど、様々な手法や場を通じて、学校の取組への理解や周知を図っていく必要があります。

○成果指標の経過観察

- ・ 成果指標のうち、将来の夢に関する項目は、小中学校ともに低下が見られました。全国学力学習状況調査においても全国的に低下が見られていることから、コロナ禍による生活環境なの変化や発達段階によるものなどの影響が推測されます。
- ・ 今後の調査の動向を見守っていくとともに、今後も学校、家庭、地域が一体となって子供に関わり、温かい言葉掛けや大人がロールモデルとなることなどが大切と考えます。

政策 2

夢と希望を持ち続ける子供を育てます

施策 2-1 郷土愛や「やらまいか精神」の醸成

成果指標

※R4 年度数値…G1全体の数値

自分が住んでいるまち(地域)が好きな子供の割合	R6 年度 95%	R4 年度 → 92.8%
住んでいる地域の行事に参加している子供の割合	R6 年度 80%	R4 年度 → 59.9%
難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している子供の割合	R6 年度 80%	R4 年度 → 69.1%

■2-1-1 特色ある園・学校づくりの推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組内容	評価	担当
市立小中学校の特色ある学校づくりに向けた取組への支援	A	指導課
市立幼稚園の特色ある園づくりに向けた取組への支援	A	幼児教育・保育課

■2-1-2 郷土を愛する子供の育成

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組内容	評価	担当
全市立小学校5年生への浜松市への理解や関心を高める講座の実施	A	教育総務課
中学生の代表者による「はままつ未来議会」の開催	A	広聴広報課
都市部の小学校等と中山間地域住民との交流を含めた体験活動の実施(6校)	S	市民協働・地域政策課
市内外の企業、団体等による、業務内容や働く意義などに関する講話及び浜松にゆかりのある芸術家による講話の実施	A	市立高等学校
市民団体への無形民俗文化財継承活動に係る学校との連絡調整等の支援、新規活動希望校への情報提供	A	文化財課
受け入れた学校への無形民俗文化財継承活動に係る情報提供、市民団体との連絡調整等の支援、活動状況の調査	A	文化財課
新型コロナウイルス感染拡大防止など、社会情勢の変化に対応した活動についての助言・支援	A	文化財課

《学 校の取組》

(2)「郷土愛や『やらまいか精神』の醸成」を図るために、どのような取組をしていますか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R3比	R3	R4	R4-R3比	R3	R4	R4-R3比
地域住民と連携した体験活動(例 農業体験等)	-	65.3	75.0	9.7	67.7	79.2	11.5	60.4	66.7	6.3
地元企業や大学等と連携した体験活動(例 ものづくり、プログラミング教育等)	-	41.7	41.0	△0.7	42.7	43.8	1.1	39.6	35.4	△4.2
地域の伝統芸能・伝統行事の体験や継承活動(例 神楽、おくない、田楽等)	-	19.4	22.2	2.8	18.8	24.0	5.2	20.8	18.8	△2.0
浜松市への理解や関心を高める講座の実施(例 はままつ人づくりネットワークセンターの講座等)	-	51.4	51.4	0	55.2	57.3	2.1	43.8	39.6	△4.2
地域に貢献する活動(例 奉仕作業、クリーン作戦等)	-	36.1	34.7	△1.4	21.9	25.0	3.1	64.6	54.2	△10.4
その他	-	6.3	5.6	△0.7	7.3	4.2	△3.1	4.2	8.3	4.1

《教員への調査》

8 子供が地域の魅力を発見する、または、地域の将来を考える機会を設けている

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	79.3	76.3	81.4	2.1
小学校	81.4	77.9	82.7	1.3
中学校	75.7	73.5	79.1	3.4

・ 昨年度は、小中ともに数値の低下が見られたが、今年度は R2 を上回る数値へ上昇している。

9 子供が難しいことでも失敗を恐れず挑戦することができるよう支援している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	96.5	96.9	97.2	0.7
小学校	97.5	98.0	97.9	0.4
中学校	94.7	95.0	96.0	1.3

・ 小中ともに R2 からの数値の大きな差は見られず、高い数値が維持されている。

《児童生徒への調査》

7 自分が住んでいるまち(地域)は好きですか

成果指標 ▶ R6 年度 **95%**

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	92.7		92.6		92.8		
小学校	4年	93.9	5年	93.6	6年	93.9	0.0	
	中学校	1年	91.5	2年	91.5	3年	91.6	0.1
G2	区分	R4						
	全体	94.0						
小学校	4年	94.7						
	中学校	1年	93.2					
差	区分	G2-G1						
	全体	1.3						
小学校	0.8							
	中学校	1.7						

・ 【G1】小中ともに R2 から数値の大きな差は見られず、高い数値が維持されている。

・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、若干【G2】の数値が上回っているものの、大きな差は見られず、小中学校ともに高い数値となっている。

8 住んでいる地域の行事に参加していますか

成果指標 ▶ R6 年度 **80%**

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	77.7		66.9		59.9		
小学校	4年	81.2	5年	70.9	6年	64.2	△17.0	
	中学校	1年	74.1	2年	62.8	3年	55.5	△18.6
G2	区分	R4						
	全体	62.4						
小学校	4年	65.5						
	中学校	1年	58.9					
差	区分	G2-G1						
	全体	△15.3						
小学校	△15.7							
	中学校	△15.2						

・ 【G1】小中学校ともに年々数値の低下が見られ、低下率も同様の傾向となっている。

・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の数値が大幅(約15Pt)に低くなっている。

9 難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか

成果指標 R6 年度 80%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		73.0		70.0		69.1		△3.9
	小学校	4年	76.1	5年	72.4	6年	70.0	△6.1	
	中学校	1年	70.0	2年	67.7	3年	68.2	△1.8	
G2	区分	R4							
	全体		73.0						
	小学校	4年	77.5						
	中学校	1年	67.8						
差	区分	G2-G1							
	全体		0.0						
	小学校		1.4						
	中学校		△2.2						

- ・ 【G1】小学校は、年々低下の傾向が見られるが、中学校は、昨年度と比較して数値が微増した。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差は見受けられないが、小中では約10Ptの差が見られる。

《保護者への調査》

3 住んでいる地域の行事に参加するよう、お子さんを促していますか (単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		71.7		67.1		66.7		△5.0
	小学校	4年	72.7	5年	68.9	6年	69.2	△3.5	
	中学校	1年	70.8	2年	65.2	3年	64.4	△6.4	
G2	区分	R4							
	全体		63.0						
	小学校	4年	64.4						
	中学校	1年	61.3						
差	区分	G2-G1							
	全体		△8.7						
	小学校		△8.3						
	中学校		△9.5						

- ・ 【G1】中学校は、年々低下の傾向が見られるが、小学校は、昨年度と比較して数値が微増した。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の数値が約8~9Pt低くなっている。

4 難しいことでも失敗を恐れず挑戦することができるようお子さんを認め励ましていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		94.8		94.5		94.2		△0.6
	小学校	4年	95.6	5年	95.2	6年	95.0	△0.6	
	中学校	1年	94.0	2年	93.8	3年	93.6	△0.4	
G2	区分	R4							
	全体		94.5						
	小学校	4年	94.7						
	中学校	1年	94.1						
差	区分	G2-G1							
	全体		△0.3						
	小学校		△0.9						
	中学校		0.1						

- ・ 【G1】小中ともにR2から数値の大きな差は見られず、高い数値が維持されている。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、若干【G2】の小学校数値が低下しているものの、大きな差は見られず、小中学校ともに高い数値となっている。



成果

○地域住民・地元企業と連携した体験活動の実施

- ・ 学校の取組では、昨年度と比較して数値が約 10Pt の上昇が見られ、感染症対策を講じながら、積極的に活動が行われたことが確認でき、郷土愛や「やらまいか精神」の醸成を図るために、積極的に地域住民・地元企業と連携した体験活動などが実施されている状況が確認できました。

○児童生徒の郷土愛

- ・ コロナ禍により地域行事等が中止となる状況は今年も同様となり、地域行事への参加に関する児童生徒、保護者への設問では数値の低下がみられましたが、教員への調査では、地域の魅力を発見する機会や、地域の将来を考える機会を設ける機会の設定に関する数値は上昇が見られました。
- ・ 浜松市への理解や関心を高める講座を小学校全校で実施したほか、小学校等を対象とした都市部の学校と中山間地域住民との交流は、計画を上回る 6 校が活動へ参加しました。事後のアンケートでは、「わかりやすかった」「次年度も実施してほしい」など、高い満足度を得ることができました。
- ・ 今年度の調査においても、児童生徒の 9 割以上から「自分が住んでいるまち(地域)は好きである」と回答が得られており、地域行事は減少しているものの、学校での教育活動などにより、地域に愛着をもった児童生徒が育まれている状況が確認できました。



課題

○「やらまいか精神」の醸成

- ・ 教員、保護者ともに、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦できるよう認め励ましている（支援している）」の設問に対する肯定的回答は継続して高い数値が保たれていますが、「挑戦している」と回答した児童生徒の数値は減少傾向となっています。
- ・ 子供の発達段階によるものであるとの推測もできますが、今後も、保護者と教員が連携しながら児童生徒が失敗を恐れず挑戦できるよう支援していくことが大切です。

政策 3


これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供を育てます

施策 3-1 確かな学力の育成

成果指標

※R4 年度数値…G1全体の数値

自分が決めたことは最後までやり遂げるようにしている子供の割合

R6 年度 90% R4 年度 → 83.9% 

自分で計画を立てて勉強している子供の割合

R6 年度 75% R4 年度 → 58.8%

■3-1-1 これからの社会に必要な学力の育成

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組内容	評価	担当
計画訪問における、授業改善のための指導	A	指導課
計画訪問や研修会における、「浜松市学力調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析に基づいた指導	A	指導課
計画訪問や研修会における、『家庭学習の手引き 参考資料』を活用した家庭学習の啓発	A	指導課
確かな学力を育成するための指導指針『教職員版「はままつ教育」』の発行	A	指導課
子供の学力向上や喫緊の課題を解決するための指定教育研究校の指定	A	指導課
各教科等授業改善に関する悉皆研修の実施（社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間 各1回）	A	教育センター
教務主任または研修主任を対象とした、資質・能力の育成の向上を図る悉皆研修の実施（各年1回）	A	教育センター
最新の教育事情を理解する「令和の日本型学校教育」に関する研修（希望）の実施	A	教育センター
小学校を対象とした移動博物館の実施（8校）※2/15 時点	B	博物館
小中学校の教材利用件数（93件）※2/15 時点	A	博物館
「学習支援パック」に関する資料貸出（年間12,051冊）※2/15 時点	B	中央図書館
「授業支援カード」による貸出資料の質の向上	A	中央図書館

《学校の取組》

(3) 確かな学力を育成するために、どのような取組をしましたか（複数回答）

（単位：%、比較：Pt）

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、指導力向上のための授業研究の実施	93.8	98.6	97.2	3.4	93.8	96.9	3.1	93.8	97.9	4.1
子供や保護者に対する、家庭学習の啓発	62.5	72.2	73.6	11.1	72.9	78.1	5.2	41.7	64.6	22.9
各種調査結果の分析	31.3	75.0	79.2	47.9	26.0	83.3	57.3	41.7	70.8	29.1
貸出教材等の活用	20.8	29.9	31.3	10.5	26.0	38.5	12.5	10.4	16.7	6.3
外部人材の活用	60.4	60.4	64.6	4.2	70.8	76.0	5.2	39.6	41.7	2.1
「はままつ教育」の活用（校内研修での活用）	28.5	57.6	60.4	31.9	24.0	63.5	39.5	37.5	54.2	16.7
その他	9.0	2.8	0.7	△8.3	9.4	0.0	△9.4	8.3	2.1	△6.2

《教員への調査》

10 自分で決めた時間に(自分で計画を立てて)勉強するよう子供に指導している

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	85.4	83.0	81.9	△3.5
小学校	83.5	80.7	79.9	△3.6
中学校	89.0	86.7	85.2	△3.8

- ・ 小中ともに緩やかに数値の低下が見られる。
- ・ 小中の比較では、約5Ptの差が見られる。

11 教科の学習や特別活動において、子供が決めたことを最後までやり遂げられるよう支援している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	97.7	97.4	97.6	△0.1
小学校	98.3	97.8	98.2	△0.1
中学校	96.6	96.7	96.6	0.0

- ・ 小中ともに R2 から大きな変化は見られず、高い数値が維持されている。

12 (単元や1時間の授業において)子供にとって切実感や必要感のある学習課題を設定するようにしている

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	93.8	94.0	94.4	0.6
小学校	95.1	94.8	95.7	0.6
中学校	91.5	92.7	92.1	0.6

- ・ 小中ともに R2 から大きな変化は見られず、高い数値が維持されている。

13 子供が学習の見通しをもって粘り強く取り組んだり、自己の学習活動を振り返って次につなげたりできるように、学習過程を工夫している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	95.3	95.3	95.9	0.6
小学校	95.9	95.7	96.3	0.4
中学校	94.3	94.7	95.2	0.9

- ・ 小中ともに R2 から大きな変化は見られず、高い数値が維持されている。

14 子供同士の協働、教職員や地域の人々との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、子供が自己の考えを広げ深めることができるように、学習過程を工夫している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	86.1	86.1	89.0	2.9
小学校	87.5	86.2	89.9	2.4
中学校	83.5	86.0	87.5	4.0

- ・ 小学校は昨年度減少したが、R2以上の数値へ上昇が見られる。
- ・ 中学校は年々上昇の傾向が見られる。

15 子供が、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせられるように、学習過程を工夫している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	91.7	93.1	92.8	1.1
小学校	90.9	92.3	92.7	1.8
中学校	93.2	94.4	93.1	△0.1

- ・ 数値の微増減が見られるが、9割を超える高い数値が保たれている。

《児童生徒への調査》

10 自分で決めた時間に勉強していますか(自分で計画を立てて勉強していますか)

成果指標 R6 年度 75%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		63.4		59.9		58.8	△4.6
小学校	4年	66.2		5年	66.5	6年	63.4	△2.8
	中学校	1年	60.6	2年	53.1	3年	54.0	△6.6
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに年度で増減が見られるが、R2との比較では、数値は減少している。特に中学校では約7Ptの減少が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、約2Ptの差が見受けられ、小中ともに同様の傾向となっている。 				
	全体		65.5					
小学校	4年	68.1						
	中学校	1年	62.5					
差	区分	G2-G1						
	全体		2.1					
小学校			1.9					
	中学校		1.9					

11 自分で決めたことは最後までやりとげようとしていますか

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		82.6		83.8		83.9	1.3
小学校	4年	82.5		5年	83.1	6年	83.5	1.0
	中学校	1年	82.7	2年	84.4	3年	84.4	1.7
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は増加傾向が見られるが、中学校は昨年度と同様の数値であり横ばいの状況となっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校では約2Ptの差が見られ、中学校はほぼ同様の傾向となっている。 				
	全体		83.3					
小学校	4年	84.4						
	中学校	1年	82.1					
差	区分	G2-G1						
	全体		0.7					
小学校			1.9					
	中学校		△0.6					

12 授業では、課題の解決に向けてねばり強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		77.8		75.7		78.6	0.8
小学校	4年	80.0		5年	78.0	6年	78.7	△1.3
	中学校	1年	75.5	2年	73.4	3年	78.5	3.0
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに昨年度は減少したが、今年度は同様の数値へ上昇が見られる。 中学校はR2以上の数値となったが、小学校はR2の数値より下回っている状況となっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、若干減少が見られるが同様の数値となっている。 				
	全体		77.4					
小学校	4年	79.8						
	中学校	1年	74.6					
差	区分	G2-G1						
	全体		△0.4					
小学校			△0.2					
	中学校		△0.9					

13 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	82.4		82.6		85.6		3.2
小学校	4年	81.7	5年	79.9	6年	83.2	1.5	
中学校	1年	83.1	2年	85.4	3年	88.0	4.9	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに数値の上昇が見られ、R2と比較すると、中学校は約5Pt上昇している。 【G1】【G2】の同一学年比較では、若干の差が見られるが同様の数値となっている。 				
	全体	82.6						
	小学校	4年	81.3					
中学校	1年	84.2						
差	区分	G2-G1						
	全体	0.2						
	小学校	△0.4						
	中学校	1.1						

《保護者への調査》

5 お子さんが決めた時間に(自分で計画を立てて)勉強に取り組めるよう、認め励ましていますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.6		83.9		84.2		△1.4
小学校	4年	86.1	5年	84.3	6年	82.6	△3.5	
中学校	1年	85.1	2年	83.5	3年	85.6	0.5	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は、減少傾向が見られるが、中学校は、昨年度の減少からR2を上回る数値へ上昇が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、約2~3Ptの低下が見られる。 				
	全体	83.4						
	小学校	4年	83.4					
中学校	1年	83.3						
差	区分	G2-G1						
	全体	△2.2						
	小学校	△2.7						
	中学校	△1.8						

6 お子さんが決めたことを最後までやり遂げられるよう認め励ましていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	95.3		94.7		95.0		△0.3
小学校	4年	95.6	5年	95.5	6年	95.8	0.2	
中学校	1年	95.0	2年	93.8	3年	94.3	△0.7	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は、ほぼ横ばいの状況となっている。中学校は、数値が上昇しているが、R2の数値までは及ばない状況となっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、1Ptの低下が見られるが、同様の数値となっている。 				
	全体	94.4						
	小学校	4年	94.6					
中学校	1年	94.0						
差	区分	G2-G1						
	全体	△0.9						
	小学校	△1.0						
	中学校	△1.0						



成果

○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

- ・ 学校の取組では、各種調査の分析や指導指針である「はままつ教育」の活用の数値が令和2年度との比較において、大幅に上昇しています。各種調査の分析に基づいて、目の前の子供の実態を捉え、その実態に応じた支援していこうとする学校の姿勢が確認できました。
- ・ 教員への調査では、子供同士の協働、教職員等との対話に関する設問(14)において数値の上昇が見られ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に継続して取り組んでいることが伺えます。
- ・ 児童生徒の調査では、「話し合う活動を通して、考えを深めたり、広げたりできているか」の設問(13)において、小中ともに数値の上昇が見られ、日々の授業での主体的・対話的で深い学びに向けた実践の成果であると考えられます。

○決めたことを最後までやりとげるための支援

- ・ 児童生徒の調査において、「自分で決めたことは最後までやりとげるようにしている」児童生徒の肯定的回答割合は、8割以上の高い数値が維持されており、教員の支援と保護者の励ましの項目についても、9割以上の高い数値が保たれています。
- ・ 保護者や教員の継続的な支援や励ましによって、最後まで粘り強く取り組もうとする児童生徒の良い表れにつながっているものと推測されます。



課題

○計画的な学習への支援

- ・ 学校の取組の「家庭学習の啓発」、教員への調査「計画的な学習に対する指導」、保護者への調査「決めた時間に（自分で計画を立てて）勉強に取り組むための励まし」に対する肯定的回答は、高い数値で推移している一方で、児童生徒の肯定的回答割合は緩やかに低下しており、約6割と数値も低くなっています。
- ・ 学校の取組を見直し、児童生徒が見通しを持ちながら計画的に学習に取り組めるような支援の在り方を検討し、基本的な学習習慣を確立していく必要があります。

施策 3-2 グローバル社会で活躍できる人材の育成

※R4 年度数値…G1全体の数値

成果指標

外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思う子供の割合

 R6 年度 70% R4 年度 → 74.0% 

日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う子供の割合

 R6 年度 75% R4 年度 → 77.6%

■3-2-1 外国語教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R4 年度 取組内容	評価	担当
小中高等学校へのALT配置	A	指導課
ALT（JET）の指導力向上のための研修の実施（月1回）	A	指導課
「聞く・読む・話す・書く」の4技能の英語力を測定するスコア型検定の実施及び検証	A	指導課
外国語担当教員を対象とした外国語教育に関する悉皆研修の実施（年2回）	A	教育センター
小中学校教員を対象とした外国語教育に関する希望研修の実施（年2回）	A	教育センター
小中学校からの要請による外国語教育に関する校内研修支援	-	教育センター

《学校の取組》

(4) 外国語教育の充実のために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
「聞く・読む・話す・書く」の4技能をバランスよく育成するための、指導力向上を目指した校内研修の実施	42.4	36.8	36.8	△5.6	34.4	25.0	△9.4	58.3	60.4	2.1
ALTと連携した授業構想の工夫	93.8	100.0	97.9	4.1	93.8	97.9	4.1	93.8	97.9	4.1
外国人との交流、または、外国の文化に触れる機会の設定	11.1	16.7	17.4	6.3	10.4	17.7	7.3	12.5	16.7	4.2
その他	9.7	6.3	6.3	△3.4	11.5	7.3	△4.2	6.3	4.2	△2.1

《教員への調査》

16 自国の文化及び異文化に対する理解を深める機会を設けている

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	76.4	76.3	74.7	△1.7
小学校	78.4	77.7	76.1	△2.3
中学校	72.8	74.0	72.1	△0.7

・ 小中ともに昨年度から約2Ptの低下が見られる。

《児童生徒への調査》

14 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いませんか

成果指標 R6 年度 70%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		74.2		73.3		74.0	△0.2
	小学校	4年	74.5	5年	74.2	6年	73.4	△1.1
	中学校	1年	73.8	2年	72.3	3年	74.7	0.9
G2	区分	R4						
	全体		75.4					
	小学校	4年	75.3					
	中学校	1年	75.5					
差	区分	G2-G1						
	全体		1.2					
	小学校		0.8					
	中学校		1.7					

- ・ 【G1】 小学校では、年々減少の傾向が見られる。中学校は、昨年度に減少したが、R2を上回る数値へと上昇した。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、約1～2Pt 数値の差が見受けられる。

15 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いませんか

成果指標 R6 年度 75%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		80.7		79.0		77.6	△3.1
	小学校	4年	82.5	5年	83.1	6年	81.0	△1.5
	中学校	1年	78.9	2年	74.7	3年	74.0	△4.9
G2	区分	R4						
	全体		81.0					
	小学校	4年	82.4					
	中学校	1年	79.4					
差	区分	G2-G1						
	全体		0.3					
	小学校		△0.1					
	中学校		0.5					

- ・ 【G1】 小学校は、昨年度上昇が見られたが、R2を下回る数値へ減少が見られる。中学校は、年々減少傾向が見られる。
- ・ 小中の比較では、R2は約4Ptであったものが、昨年度から差が広がり、7Ptの差となっている。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、ほぼ同様の数値となっている。



成果

○外国語指導助手(ALT)との連携

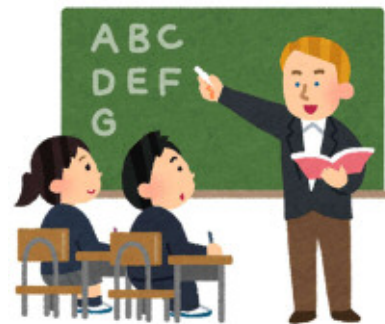
- ・ 学校への調査では、「ALTと連携した授業実践の工夫」が、ほぼ全ての小中学校で実施されています。また、児童生徒への調査では、2つの設問ともに増減は見られましたが、今年度も成果指標を達成することができました。
- ・ ALTと授業の時間だけでなく、日常生活や会話を通じてネイティブに触れることは、子供の国際感覚を醸成していくために大変効果的であると推察されます。



課題

○外国語教育のさらなる充実

- ・ 学校への調査では、「『聞く・読む・話す・書く』の4技能をバランスよく育成するための、指導力向上を目指した校内研修の実施」について、全体の数値は横ばいとなっていますが、小学校は年々数値が減少しており、R2との比較では約9Ptの減少が見られます。
- ・ 学校への調査、「外国人との交流、外国の文化に触れる機会の設定」に関する設問では、肯定的回答が約2割となっているなか、教員への調査、「自国の文化及び異文化に対する理解を深める機会の設定」の設問への肯定的回答は、7割を超えている状況となっていることから、設問の意図等について精査し、乖離の要因を確認することが必要です。
- ・ 成果指標を達成することができましたが、児童生徒への調査では、数値の低下が多く見られました。外国のことを知りたい・日本のことを伝えたいという意欲をもち、グローバル社会で活躍できる人材を育成するためにも、現在の取組を充実させていくことが必要です。



施策 3-3 情報社会を生きる能力の育成

成果指標

※R4 年度数値…G1全体の数値

インターネットやゲームをするときの(情報をやり取りするときの)ルールやマナーを守ることができる子供の割合
R6 年度 100% R4 年度 ➡ 94.5%

自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができる子供の割合
R6 年度 70% R4 年度 ➡ 81.0%

■3-3-1 情報活用能力の育成

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組内容	評価	担当
情報教育実践事例等の情報発信	A	教育施設課
学校のニーズに応じたICT機器・ICT支援員等の活用に関する指導	A	教育施設課
プログラミング教育や授業におけるICT活用に関する指導	A	指導課
生徒一人一台端末(スマホ等)の活用促進及び研修の実施	A	市立高等学校
プログラミング教育、授業におけるICT活用、情報モラルに関する教職員向け研修の実施	A	教育センター
小中学校からの要請による情報教育に関する校内研修支援	A	教育センター
学校、中学校区健全育成会での情報モラル講座の実施 (要望に対する実施率 100%)	A	青少年育成センター

《学校の取組》

(5) 情報社会を生きる能力を育成するために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
教員のICT活用指導力向上をねらいとした校内研修の実施	93.1	100.0	98.6	5.5	90.6	99.0	8.4	97.9	97.9	0
プログラミング教育の実施	30.6	56.9	53.5	22.9	38.5	60.4	21.9	14.6	39.6	24.9
情報モラル教育の実施	63.2	86.8	96.5	33.3	58.3	96.9	38.6	72.9	95.8	22.9
その他	4.9	2.8	3.5	△1.4	5.2	2.1	△3.1	4.2	6.3	2.1

(6) 情報モラルへの意識を向上させるために、どのような取組をしましたか(複数回答)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
教職員を対象とした校内研修の実施	56.9	73.6	82.6	25.7	54.2	84.4	30.2	62.5	79.2	16.7
児童生徒を対象とした講座等の実施	62.5	75.0	79.9	17.4	59.4	77.1	17.7	68.8	85.4	16.6
保護者を対象とした講座等の実施、または、たより等による啓発	46.5	46.5	45.8	△0.7	44.8	47.9	3.1	50.0	41.7	△8.3
その他	6.9	2.8	1.4	△5.5	7.3	0.0	△7.3	6.3	4.2	△2.1

《教員への調査》

17 「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	70.3	70.4	0.1
小学校	-	74.8	75.3	0.5
中学校	-	62.5	62.0	△0.5

- ・ 昨年度から数値に大きな変化は見られない。

18 教科指導において、単元の中で計画的に子供がタブレット型端末を活用する授業を実施している

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	69.7	80.2	10.5
小学校	-	80.0	87.1	7.1
中学校	-	52.2	68.3	16.1

- ・ 小中ともに数値が上昇し、特に中学校の上昇が著しく見られる。
- ・ 小中学校で約 19Pt の差が見られる。

19 調べたことをまとめるときは、収集した情報の中から目的に合ったものを選んで使うよう子供に指導している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	89.4	84.6	87.2	△2.2
小学校	89.9	85.4	87.0	△2.9
中学校	88.4	83.4	87.6	△0.8

- ・ 小中ともに昨年度から数値が上昇したが、R2 の数値を下回っている。

20 インターネットやゲームをするときの(情報をやり取りするときの)ルールやマナーについて日常的に子供に指導している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	86.2	85.8	86.1	△0.1
小学校	86.3	88.6	88.5	2.2
中学校	86.0	80.9	82.0	△4.0

- ・ 小学校は昨年度から横ばいの状況となっている。
- ・ 中学校は、昨年度より数値が上昇したものの、R2 を4Pt 下回っている。

21 情報モラルについて、子供にわかりやすく指導している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	89.0	90.1	90.7	1.7
小学校	88.7	91.3	91.9	3.2
中学校	89.6	88.2	88.5	△1.1

- ・ 小中ともに昨年度から微増となっており、大きな数値の変化は見られない。

22 授業において、ICT支援員を活用している

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	60.0	59.0	△1.0
小学校	-	70.2	65.8	△4.4
中学校	-	42.6	47.1	4.5

- ・ 小学校は約4Pt 低下が見られ、中学校は約5Pt 上昇が見られる。
- ・ 小中の比較では約19Pt の差が見られる。

23 ICT支援員による支援は、子供の学びの充実につながっている

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	85.8	87.4	1.6
小学校	-	91.7	91.5	△0.2
中学校	-	75.9	80.3	4.4

- ・ 小学校は昨年度から横ばいの状況となっているが、中学校では約4Pt の上昇が見られる。
- ・ 小中の比較では約11Pt の差が見られる。

《児童生徒への調査》

16 タブレット型端末(タブレット)を使う授業はわかりやすいと思いますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		91.1		90.4		88.0	△3.1
小学校	4年	89.4	5年	90.9	6年	89.8	0.4	
中学校	1年	92.8	2年	89.8	3年	86.1	△6.7	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 【G1】小学校は昨年度から数値の減少が見られるものの約9割の数値で推移している。 ・ 中学校は、年々数値の減少が見られる。 ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校は数値が上回っているが、中学校は約8Pt低くなっている。 				
	全体		88.0					
	小学校	4年	91.2					
中学校	1年	84.4						
差	区分	G2-G1						
	全体		△3.1					
	小学校		1.8					
	中学校		△8.4					

17 自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができますか

成果指標 R6年度 70%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		68.9		75.3		81.0	12.1
小学校	4年	66.1	5年	73.7	6年	81.6	15.5	
中学校	1年	71.8	2年	76.8	3年	80.4	8.6	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 【G1】小中ともに年々数値が上昇傾向にある。特に小学校の上昇が著しく見られる。 ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】が数値を上回っている。中学校の数値の差が小学校と比較して大きくなっている。 				
	全体		73.3					
	小学校	4年	70.0					
中学校	1年	77.1						
差	区分	G2-G1						
	全体		4.4					
	小学校		3.9					
	中学校		5.3					

18 インターネットやゲームをするときのルールやマナーを守ることができますか

成果指標 R6年度 100%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		92.7		94.5		94.5	1.8
小学校	4年	89.2	5年	91.0	6年	91.0	1.8	
中学校	1年	96.2	2年	98.0	3年	98.0	1.8	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 【G1】小中ともに昨年度から横ばいの数値となっている。 ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】が数値を上回っている。【G1】同様に中学校の数値が小学校を上回っている。 				
	全体		93.9					
	小学校	4年	91.0					
中学校	1年	97.1						
差	区分	G2-G1						
	全体		1.2					
	小学校		1.8					
	中学校		0.9					

19 情報を活用した場面(情報を集める・まとめる・発表する)を振り返り、次にやってみたいこと(よりよい活用方法)を考えることができましたか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R3
	全体	-		79.6		81.9		2.3
小学校	4年	-		5年	74.7	6年	77.2	2.5
中学校	1年	-		2年	84.6	3年	86.7	2.1
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中学校ともに数値の上昇が見られるが、小中の比較では、約10ptの差が見られる。 				
	全体	77.5						
	小学校	4年	75.2					
中学校	1年	80.1						
差	区分	G2-G1						
	全体	-						
	小学校	-						
	中学校	-						

《保護者への調査》

7 インターネットやゲームをする(情報をやり取りする)ときの、家庭内での使い方のルールをお子さんと決めていきますか (単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	87.0		85.6		83.7		△3.3
小学校	4年	92.0		5年	90.3	6年	87.7	△4.3
中学校	1年	82.2		2年	80.6	3年	80.0	△2.2
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに年々減少の傾向が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G1】が数値を上回っているが、今年度の【G1】との比較では、【G2】の数値が上回っている。 				
	全体	86.0						
	小学校	4年	89.6					
中学校	1年	81.7						
差	区分	G2-G1						
	全体	△1.0						
	小学校	△2.4						
	中学校	△0.5						

8 情報モラルについて、お子さんと話をすることがありますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	81.9		82.7		83.8		1.9
小学校	4年	79.0		5年	81.9	6年	84.4	5.4
中学校	1年	84.7		2年	83.5	3年	83.2	△1.5
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は年々上昇の傾向が見られるが、中学校は減少の傾向となっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、若干【G2】の数値が下回っている。 				
	全体	80.3						
	小学校	4年	77.3					
中学校	1年	83.9						
差	区分	G2-G1						
	全体	△1.6						
	小学校	△1.7						
	中学校	△0.8						



成果

○情報モラル教育

- ・ 1人1台タブレット型端末の整備等による情報モラルに対する意識の高まりから、校内研修や情報モラル教育に関する学校の取組数値が大きく上昇し、各学校が積極的に情報モラル教育に取り組んでいる状況が確認できました。
- ・ 教員への調査では、約9割から「情報モラルについて分かりやすく指導している」との回答が得られたほか、「日常的に子供に指導している」と回答した教員も約8～9割となっており、高い数値となっています。
- ・ 児童生徒への調査では、「ルールやマナーを守ることができる」と回答した児童生徒は小中学校ともに9割を超え、昨年度から高い数値を維持できていることから、学校の取組や教員の指導により情報モラル教育が浸透してきていると考えられます。また、【G1】【G2】の同一学年比較においても、【G2】の数値が高くなっており、これまでの取組によって底上げがされている状況が確認できました。
- ・ 保護者への調査では、小学校において子供と情報モラルについて話をする機会の上昇が今年度も確認でき、小学校段階におけるスマートフォンなどの普及により保護者の意識も高まっているものと推測されます。

○児童生徒のICT活用能力の向上

- ・ ICT活用指導力向上をねらいとした校内研修をほぼ全ての学校が実施しており、教員のICT指導力向上に努めていることが確認でき、教育の調査では、タブレット型端末を活用する授業を実施している教員が特に中学校において大きく上昇が見られました。
- ・ 児童生徒への調査では、「パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができる」と回答した児童生徒の数値が、年々上昇している傾向にあり、タブレット型端末の活用機会の増加、教員のICT指導力の向上により児童生徒のICT活用能力が向上しているものと考えられます。



課題

○タブレット型端末を活用した分かりやすい授業の実施

- ・ タブレット型端末を活用する授業を実施する教員が増えている一方で、「タブレット型端末を使う授業は分かりやすい」と回答した児童生徒の値は、特に中学校において減少が見られることから、要因を調査し必要に応じて改善していく必要があります。

○ICT支援員の活用

- ・ 支援員を活用している教員の割合は、小学校では減少し、中学校では上昇しているものの、5割に満たない状況となっています。要因を調査し必要に応じて支援体制を改善していく必要があります。

「はままつ人づくり未来プラン 教育の情報化編」目標達成状況

1 情報活用能力の育成

- 自分の考えや思いをパソコンを使った資料や新聞にまとめ発表することができる子供の割合

推進目標 R6年度 70%

校種・年度	R 2	R 3	R 4	前年度比
小学校	66.1%	73.7%	81.6%	7.9Pt
中学校	71.8%	76.8%	80.4%	3.6Pt
全体	68.9%	75.3%	81.0%	5.7Pt

- インターネットやゲームをするときのルールやマナーを守ることができる子供の割合

推進目標 R6年度 100%

校種・年度	R 2	R 3	R 4	前年度比
小学校	89.2%	91.0%	91.0%	0.0Pt
中学校	96.2%	98.0%	98.0%	0.0Pt
全体	92.7%	94.5%	94.5%	0.0Pt

- 「浜松市情報活用能力育成目標」に基づいて子供への指導を行っている教員の割合

推進目標 R6年度 100%

校種・年度	R 3	R 4	前年度比
小学校	74.8%	75.3%	0.5Pt
中学校	62.5%	62.0%	△0.5Pt
全体	70.3%	70.4%	0.1Pt

- 授業においてICT支援員を活用している教員の割合

推進目標 R6年度 100%

校種・年度	R 3	R 4	前年度比
小学校	70.2%	65.8%	△4.4Pt
中学校	42.6%	47.1%	4.5Pt
全体	60.0%	59.0%	△1.0Pt

2 教員に求められるICT活用指導力の向上

- 教科指導において単元の中で計画的にICTを活用している教員の割合

推進目標 R6年度 100%

校種・年度	R 3	R 4	前年度比
小学校	80.0%	87.1%	7.1Pt
中学校	52.2%	68.3%	16.1Pt
全体	69.7%	80.2%	10.5Pt

- 「授業にICTを活用して指導する能力※」の調査項目に肯定的な回答をした教員の割合

推進目標 R6年度 80%

校種・年度	R 2	R 3	前年度比
小学校	68.3%	74.0%	5.7Pt
中学校	60.6%	60.9%	0.3Pt
全体	65.4%	69.1%	3.7Pt

※文科省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」

3 学校のICT環境整備

- 児童生徒へのタブレット型端末1人1台整備

推進目標 R4年度 100%

R3年度に達成

- インターネットアクセス回線(1 Gbps程度)の整備

推進目標 R2年度 100%

R2年度に達成



4 教育情報セキュリティの確保

- 情報漏洩等の教育情報セキュリティ事故

推進目標 各年度 0件

R4年度 0件



施策 3-4 持続可能な社会実現のための教育

※R4 年度数値…G1全体の数値

成果指標

地域や社会をよりよくすることを考えることがある子供の割合

R6 年度 70% R4 年度 → 66.7%

■3-4-1 持続可能な社会の担い手づくりの推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R4 年度 取組 内容	評価	担当
計画訪問や研修会等における、持続可能な社会づくりの視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の実施支援	A	指導課
高校生の視点から浜松のSDGsに関する政策に係る協議・政策提言の実施	A	市立高等学校
環境学習プログラム「Eスイッチプログラム」を受講した子供の数 (年5,872人) ※2/15時点	-	環境政策課
小学校での消費者教育出前講座(SDGsとエシカル消費)の実施	A	くらしのセンター
UD学習を支援した学校割合(目標:年52%)	-	UD・男女共同参画課
小学校4年生及び中学校1年生を対象としたUDに対する理解を深める啓発冊子の配付	A	UD・男女共同参画課
学校等への「こらぼ講座」(男女共同参画に関する講座)講師の派遣	A	UD・男女共同参画課
生涯学習施設における地域を活用した「子ども講座」実施 (目標:年300講座以上)	-	創造都市・文化振興課
こどもモットイナイ大作戦事業の実施(小学生参加率40%)	B	ごみ減量推進課
小学4年生への社会科副読本の配付	A	ごみ減量推進課

《学校の取組》

(7)SDGsやESDを推進するために、どのような学習に取り組みましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
環境学習	68.8	84.0	90.3	21.5	80.2	99.0	18.8	45.8	72.9	27.1
エネルギー学習	9.7	27.1	30.6	20.9	7.3	26.0	18.7	14.6	39.6	25.0
国際理解学習	17.4	29.9	33.3	15.9	17.7	31.3	13.6	16.7	37.5	20.8
防災学習	59.0	67.4	77.8	18.8	55.2	71.9	16.7	66.7	89.6	22.9
世界遺産や地域の文化財等に関する学習	27.1	26.4	27.8	0.7	29.2	26.0	△3.2	22.9	31.3	8.4
平和学習	9.7	21.5	27.1	17.4	7.3	25.0	17.7	14.6	31.3	16.7
その他	8.3	11.1	5.6	△2.7	6.3	3.1	△3.2	12.5	10.4	△2.1

《教員への調査》

24 単元構想の中に、地域や社会をよりよくするための視点を取り入れている (単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	64.9	64.4	65.1	0.2
小学校	66.3	66.3	67.5	1.2
中学校	62.4	61.0	61.1	△1.3

・ 小中ともに昨年度から数値の微増が見られる。

《児童生徒への調査》

20 地域や社会をよりよくすることを考えることがありますか

成果指標 R6 年度 70%

(単位:%、比較:Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	70.1		69.4		66.7		△3.4
小学校	4年	70.1	5年	74.4	6年	69.9	△0.2	
	中学校	1年	70.2	2年	64.2	3年	63.5	△6.7
G2	区分	R4						
	全体	70.5						
小学校	4年	73.9						
	中学校	1年	66.4					
差	区分	G2-G1						
	全体	0.4						
小学校	3.8							
	中学校	△3.8						

・ 【G1】 小学校は、昨年度から減少し、R2 と同様の数値となったが、中学校は年々数値の減少が見られる。

・ 【G1】 【G2】 の同一学年比較では、小学校は数値が上回っているが、中学校は約4Pt 低くなっている。

《保護者への調査》

9 地域社会をよりよくすることについて、お子さんと話をすることがありますか (単位:%、比較:Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	53.5		54.4		56.1		2.6
小学校	4年	51.4	5年	54.7	6年	57.0	5.6	
	中学校	1年	55.5	2年	54.1	3年	55.2	△0.3
G2	区分	R4						
	全体	50.4						
小学校	4年	50.6						
	中学校	1年	50.1					
差	区分	G2-G1						
	全体	△3.1						
小学校	△0.8							
	中学校	△5.4						

・ 【G1】 R2 との比較において小学校は、約6Pt の上昇がみられるが、中学校に変化は見られない。

・ 【G1】 【G2】 の同一学年比較では、小学校に大きな差は見られないが、中学校は約5Pt 低下が見られる。



成果

○SDGsやESDを意識した学習

- ・ 環境学習をはじめ、エシカル消費やユニバーサルデザインなど所管する各課が講座等を提供する取組によって各学校では、SDGsやESDを意識した学習が実施されていることが確認できました。特に環境学習や防災学習は、8割から9割の学校が取り組んでおり、地球規模の課題に対する意識の高さが伺えます。
- ・ 「地域や社会をよりよくすることを考えることがある」児童生徒の割合は、小学校は横ばい、中学校は減少傾向にあるなか、小学校において地域社会をよりよくすることについて子供と話す保護者が増えています。



課題

○地域や社会をよりよくするための視点



- ・ 教員への調査において、単元構想の中に、地域や社会をよりよくするための視点の項目は、小学校ではわずかに上昇、中学校では減少が見られました。
- ・ SDGs推進の取り組みは充実してきていますが、子供の実態や生活と結び付け、課題解決的な学習に取り組むなど、単元構想の中に、地域や社会をよりよくするための視点を取り入れていくことが必要です。



施策 3-5 豊かな心の育成

成果指標

※R4 年度数値…G1全体の数値

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う子供の割合 R6 年度 100% R4 年度 → 95.4%
 人が困っているときは、進んで助けている子供の割合  R6 年度 90% R4 年度 → 90.5% 

■3-5-1 道徳教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
道徳教育に関する指導力向上研修の実施	A	指導課
『はままつマナー』の活用促進	A	指導課

■3-5-2 人権教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
市内全校での人権教育の実施、子供理解に関する教職員研修の実施	A	指導課
幼稚園・小中学校の保護者を対象とした、家庭における子どもへの人権教育の一助となる講座の実施	A	人権啓発センター
人権啓発絵本の作成及び幼稚園、小中学校などへの配付	A	人権啓発センター
校長・園長を対象とした人権教育指導者研修の実施	A	教育センター
初任者研修での人権教育講座の実施	A	教育センター

■3-5-3 読書活動の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
必読図書、推薦図書を含む学級文庫の設置促進	A	指導課
読書活動推進に関する取組事例の紹介	A	指導課
「学校図書館支援センターだより」の発行（年3回）	A	中央図書館

■3-5-4 芸術に親しむ機会の提供

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「子どもの市展」・「地下道ギャラリー」の開催	A	指導課
音響設備が整った地域施設を活用した音楽発表会の開催 (小学校 97 校、中学校 14 校)	A	指導課
オーケストラ鑑賞教室「こんにちはオーケストラ」の開催	A	創造都市・文化振興課
小中学校や音楽団体への音楽指導者の派遣（年間 357.75 時間） ※2/15 時点	A	創造都市・文化振興課
展覧会ワークショップへの小中学生参加（35 人）	S	美術館
ギャラリートーク（ワークショップ等教育普及プログラムを含む）の実施 （年間 22 回）	B	美術館

《学校の取組》

(8) 子供の豊かな心を育成するために、どのような取組をしましたか(複数回答)(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
道徳教育に関する指導力向上のための校内研修の実施	46.5	55.6	47.9	1.4	41.7	49.0	7.3	56.3	45.8	△10.5
「はままつマナー」を活用した指導実践	50.0	54.2	52.8	2.8	59.4	64.6	5.2	31.3	29.2	△2.1
いじめ対策に関する校内体制の整備	89.6	91.7	93.8	4.2	90.6	93.8	3.2	87.5	93.8	6.3
生徒指導、人権課題に関する教員研修への参加促進	36.8	45.8	51.4	14.6	37.5	52.1	14.6	35.4	50.0	14.6
人権教育講座の開催	4.9	13.2	10.4	5.5	6.3	10.4	4.1	2.1	10.4	8.3
読書活動推進に関する取組	75.7	83.3	82.6	6.9	80.2	88.5	8.3	66.7	70.8	4.1
文化・芸術に触れる機会の設定	47.9	63.9	76.4	28.5	44.8	86.5	41.7	54.2	56.3	2.1
その他	9.7	3.5	1.4	△8.3	8.3	1.0	△7.3	12.5	2.1	△10.4

(9)【新規】いじめ対応への理解を深め、組織的な対応を促すためにどのような取組をしましたか(複数回答)

取組内容	全体		
	小学校	中学校	
いじめ防止基本方針を理解し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応について共通理解した	94.4	95.8	91.7
たよりや懇談会、学校運営協議会などの機会を活用して保護者や地域にもいじめ防止基本方針や、その取組及び対応を周知した	45.8	49.0	39.6
教育委員会主催の生徒指導研修等の内容について、校内でも周知を図った	81.9	89.6	66.7
定期的なアンケート等に記載された内容や子供や児童からの相談について、複数で確認し、対応を協議したり進捗状況を共有したりした	95.8	95.8	95.8
事例研究等いじめに関する研修を行い、未然防止・早期発見・早期対応の視点から成果と課題を明らかにし、改善点について話し合った	65.3	70.8	54.2
その他	2.1	3.1	0.0

《教員への調査》

25 いじめはどんな理由があってもいけないことだと指導している

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	99.8	99.7	99.8	0.0
小学校	99.9	99.7	99.8	△0.1
中学校	99.6	99.6	99.9	0.3

・ 小中ともに概ね 100%の数値が保たれている。

26 【新規】学校のいじめ防止基本方針を理解し、それに沿って行動するよう心掛けている

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	-	-	99.4	-
小学校	-	-	99.4	-
中学校	-	-	99.2	-

・ 小中ともに概ね 100%の数値が保たれている。

27 道徳科の授業等で、「はままつマナー」を活用して、命を大切にする心や規範意識について指導している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	75.4	72.6	68.6	△6.8
小学校	84.0	80.5	78.2	△5.8
中学校	60.3	59.1	52.2	△8.1

・ 小中ともに年々数値の減少が見られる。
・ 小中の比較では26Ptの差が見られる。

《児童生徒への調査》

21 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

成果指標 R6 年度 100%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		96.4		96.6		95.4	△1.0
	小学校	4年	96.6	5年	96.4	6年	95.6	△1.0
	中学校	1年	96.2	2年	96.7	3年	95.2	△1.0
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに高い数値が保たれている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差も見られず、【G1】同様に高い数値となっている。 				
	全体		96.1					
	小学校	4年	96.0					
中学校	1年	96.2						
差	区分	G2-G1						
	全体		△0.3					
	小学校		△0.6					
	中学校		0.0					

22 【新規】いじめなど困ったことがあった時、先生に相談しやすいですか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		-		-		67.7	-
	小学校	4年	-	5年	-	6年	66.6	-
	中学校	1年	-	2年	-	3年	68.8	-
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに同様の数値(約7割)となっている。 【G1】【G2】の比較では、小学校に大きな差は見受けられないが、【G2】中1の数値が【G1】中3に比べてやや低くなっている。 				
	全体		66.9					
	小学校	4年	68.9					
中学校	1年	64.5						
差	区分	G2-G1						
	全体		-					
	小学校		-					
	中学校		-					

23 人が困っているときは、進んで助けていますか

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		89.5		89.9		90.5	1.0
	小学校	4年	87.9	5年	89.2	6年	89.3	1.4
	中学校	1年	91.2	2年	90.5	3年	91.8	0.6
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は年々数値が上昇、中学校は昨年度と比較して上昇が見られ、小学校よりも中学校の方が若干数値が高い傾向が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな数値の差は見られない。 				
	全体		89.9					
	小学校	4年	89.1					
中学校	1年	90.8						
差	区分	G2-G1						
	全体		0.4					
	小学校		1.2					
	中学校		△0.4					

24 学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日にどれくらいの時間、読書をしていますか
(1時間以上の割合)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	15.3		13.5		13.4		△1.9
小学校	4年	14.9	5年	15.4	6年	13.7	△1.2	
中学校	1年	15.6	2年	11.6	3年	13.0	△2.6	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】年度によって増減があるものの、小中ともに同様の数値となっている。 R2との比較では小中ともに数値が減少し、「全くしない」の数値が小中ともに上昇している。 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】中1の数値が低い状況となっている。 				
	全体	14.0						
	小学校	4年	15.4					
中学校	1年	12.4						
差	区分	G2-G1						
	全体	△1.3						
	小学校	0.5						
	中学校	△3.2						

【参考】G1：1時間未満の割合

区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
30分～1時間	26.9	24.9	26.0	22.2	23.3	18.1	△3.6	△6.7
30分未満	36.6	32.6	35.0	35.9	34.1	36.1	△2.5	3.5
全くしない	21.6	26.9	23.6	30.3	28.9	32.8	7.3	5.9

《保護者への調査》

10 相手の立場や気持ちを大切にした行動をするよう、お子さんに話をしていますか

(単位：%、比較：Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	98.3		98.0		97.7		△0.6
小学校	4年	98.7	5年	98.4	6年	98.2	△0.5	
中学校	1年	97.9	2年	97.7	3年	97.2	△0.7	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに高い数値が保たれている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな数値の差は見られない。 				
	全体	98.2						
	小学校	4年	98.3					
中学校	1年	98.1						
差	区分	G2-G1						
	全体	△0.1						
	小学校	△0.4						
	中学校	0.2						

11 命の大切さやきまりを守ることの必要性を、お子さんに話をしていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		98.5		98.4		97.9	
	小学校	4年	99.0	5年	98.5	6年	98.2	△0.8
	中学校	1年	98.0	2年	98.2	3年	97.5	△0.5
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに高い数値が保たれている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな数値の差は見られない。 				
	全体	98.3						
	小学校	4年	98.3					
中学校	1年	98.3						
差	区分	G2-G1						
	全体	△0.2						
	小学校	△0.7						
	中学校	0.3						

12 【新規】いじめはどんな理由でもいけないことだと、お子さんに話していますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		-		-		97.4	
	小学校	4年	-	5年	-	6年	97.9	-
	中学校	1年	-	2年	-	3年	97.0	-
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに高い数値となっている。 【G1】【G2】の比較では、大きな数値の差は見られない。 				
	全体	97.4						
	小学校	4年	96.9					
中学校	1年	98.0						
差	区分	G2-G1						
	全体	-						
	小学校	-						
	中学校	-						

13 【新規】学校のいじめ防止基本方針を知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		-		-		42.8	
	小学校	4年	-	5年	-	6年	42.2	-
	中学校	1年	-	2年	-	3年	43.4	-
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】【G2】との比較では、やや【G2】の数値が低いものの、大きな差は見られず約4割程度の数値となっている。 				
	全体	40.3						
	小学校	4年	40.4					
中学校	1年	40.2						
差	区分	G2-G1						
	全体	-						
	小学校	-						
	中学校	-						

14 【新規】学校のいじめ防止等の取組(いじめについて考える授業や集会・いじめアンケートなど)を知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	-		-		67.2		-
小学校	4年	-	5年	-	6年	67.1	-	
中学校	1年	-	2年	-	3年	67.3	-	

G2	区分	R4	
	全体	67.8	
小学校	4年	69.1	
中学校	1年	66.3	

差	区分	G2-G1	
	全体	-	
小学校	-		
中学校	-		

・ 【G1】【G2】との比較では、大きな差は見られず約7割程度の数値となっている。

《地域住民への調査》

2 【新規】学校のいじめ防止基本方針を知っていますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	-	-	72.8	-
小学校	-	-	71.3	-
中学校	-	-	75.6	-

・ 小中ともに保護者の数値を上回っている。

 **成果**

○いじめに対する認識

- ・ 教員・児童生徒・保護者への調査において、いじめはいけないことであるという認識が共有されていることが確認できました。今後は、学校の取組について保護者や地域住民に周知を図ったり、人権に対する意識を高める活動を検討したりしながら、保護者・地域・学校が協働して、いじめに対処していくことが期待されます。

 **課題**

○読書活動の推進

- ・ 学校の取組では、読書活動を推進している状況が確認できる一方、児童生徒の調査において、授業以外で1時間以上読書をすると回答した子供の割合は、ほぼ同数で推移していますが、全くしないと回答した子供の割合は増加しており、2極化の傾向にあります。授業以外における読書習慣の定着に引き続き取り組んでいく必要があります。

○「はままつマナー」の活用

- ・ 「はままつマナー」の活用について、学校の取組では横ばいですが、教員の調査では数値が年々減少しています。現行の活用方法について周知したり、内容の見直しを図ったりするなど改善が必要です。

施策 3-6 健やかな体の育成

成果指標

※R4 年度数値…G1全体の数値

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きな子供の割合

R6 年度 90% R4 年度 → 78.9%

体育の授業以外で、平均して1日に1時間以上体を動かす活動をしている子供の割合

R6 年度 70% R4 年度 → 29.3%

■3-6-1 健康教育の推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
教職員を対象とした学校保健に関する研修の実施（年1回）	A	健康安全課
がん教育に係る小中学校への外部講師派遣（10人）	A	健康安全課

■3-6-2 安全・安心な給食の提供

《関係課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施 —…年度内算定不可

R4 年度 取組 内容	評価	担当
学校給食における地場産品（主要10品目）の活用（目標：34.7%）	-	健康安全課
給食調理場の施設点検の実施促進（月4回）	A	健康安全課
各調理場の衛生管理責任者による日頃の衛生管理の徹底促進	A	健康安全課

■3-6-3 食に関する指導の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
学習指導要領に沿った食指導の実際についての研修会の実施（年1回）	A	健康安全課
朝食摂取啓発に関するリーフレットの配付と朝食摂取指導の啓発	A	健康安全課

■3-6-4 アレルギー対応の徹底

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
アレルギー対応委員会及び食物アレルギーに関する校内研修の実施促進	A	健康安全課
栄養教諭・学校栄養職員、養護教諭等を対象とした研修会での、食物アレルギーに関する研修の実施（年1回）	A	健康安全課
食物アレルギーに関する小中学校間の情報交換会の実施促進	A	健康安全課

■3-6-5 運動習慣の確立と体力の向上

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度取組内容	評価	担当
計画訪問や研修会等における、「新体力テスト」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析に基づく指導	A	指導課
保健体育科の教員を対象とした指導者研修会の実施	A	指導課
計画訪問や研修会等における、体力向上に関する取組事例の紹介	A	指導課
学校における課題克服に向けた取組表による、各校の取組状況の確認・指導	A	指導課

《学校の取組》

(10) 子供の健やかな体の育成のために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
学校保健に関する校内研修の実施	52.1	61.8	61.8	9.7	42.7	54.2	11.5	70.8	77.1	6.3
がん教育の実施	12.5	27.1	18.8	6.3	8.3	14.6	6.3	20.8	27.1	6.3
保護者・子供に対する朝食摂取率向上のための啓発	58.3	75.7	83.3	25.0	59.4	84.4	25.0	56.3	81.3	25.0
「食物アレルギー対応マニュアル」に基づく校内研修の実施	85.4	88.2	84.7	△0.7	81.3	82.3	1.0	93.8	89.6	△4.2
健全な食生活を育む食育の実施	67.4	75.7	78.5	11.1	69.8	82.3	12.5	62.5	70.8	8.3
児童生徒の体力・運動能力の向上のための取組の実施(授業、部活動以外)	43.8	43.8	45.8	2.0	58.3	59.4	1.1	14.6	18.8	4.2
その他	6.9	1.4	3.5	△3.4	7.3	3.1	△4.2	6.3	4.2	△2.1

《教員への調査》

28 運動することの必要性を子供に指導している

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	90.5	90.4	89.2	△1.3
小学校	94.4	94.3	93.6	△0.8
中学校	83.6	83.6	81.5	△2.1

- ・ 小中ともに若干減少が見られる。
- ・ 小中の比較では、約12Ptの差が見られる。

《児童生徒への調査》

25 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きですか

成果指標 R6 年度 90%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		84.0		81.0		78.9	△5.1
	小学校	4年	86.8	5年	81.7	6年	78.2	△8.6
	中学校	1年	81.1	2年	80.3	3年	79.6	△1.5
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに年々数値の減少傾向が見られる。小学校は、R2との比較で約9Ptの減少が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、数値に大きな差は見られない。 				
	全体		84.1					
	小学校	4年	86.8					
中学校	1年	80.8						
差	区分	G2-G1						
	全体		0.1					
	小学校		0.0					
	中学校		△0.3					

26 体育の授業以外で、平均して1日に1時間以上、運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをしていますか (1時間以上の割合)

成果指標 R6 年度 70%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		55.6		53.6		29.3	△26.3
	小学校	4年	41.2	5年	39.4	6年	35.5	△5.7
	中学校	1年	70.0	2年	68.2	3年	23.0	△47.0
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は、年々数値の減少傾向が見られる。中学校は、大きく数値が減少している。 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校は同様の数値となっているが、中学校に低下が見られる。 				
	全体		52.9					
	小学校	4年	42.6					
中学校	1年	64.8						
差	区分	G2-G1						
	全体		△2.7					
	小学校		1.4					
	中学校		△5.2					

【参考】G1:1時間未満の割合

区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
30分~1時間	31.7	10.4	28.6	8.2	28.1	21.5	△3.6	11.1
30分未満	20.9	11.8	24.2	13.9	26.1	33.6	5.2	21.8
全くしない	6.2	7.8	7.8	9.7	10.3	21.9	4.1	14.1

27 食事のときは、好き嫌いをなく食べていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	78.0		81.2		81.7		3.7
小学校	4年	76.6	5年	78.3	6年	80.1	3.5	
中学校	1年	79.4	2年	84.1	3年	83.4	4.0	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は年々数値が上昇している。R2との比較では、小中ともに約4Ptの上昇が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差は見られない。 				
	全体	79.3						
	小学校	4年	78.7					
中学校	1年	80.0						
差	区分	G2-G1						
	全体	1.3						
	小学校	2.1						
	中学校	0.6						

<参考>全国学力・学習状況調査			R1	R3	R4
朝食を毎日食べていますか	全国	小6	95.3	94.9	94.4
		中3	93.1	92.8	91.9
	本市	小6	96.4	95.7	96.3
		中3	95.3	94.2	94.4

※R2は中止

《保護者への調査》

15 心身の健康のため、できるだけ運動やスポーツをするようお子さんに働きかけていますか

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	85.6		84.5		80.7		△4.9
小学校	4年	85.9	5年	84.8	6年	82.6	△3.3	
中学校	1年	85.3	2年	84.2	3年	79.0	△6.3	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに年々数値の低下が見られる。R2との比較では、中学校の減少率が小学校と比べて大きくなっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、小中ともに低下が見られる。 				
	全体	84.1						
	小学校	4年	83.8					
中学校	1年	84.4						
差	区分	G2-G1						
	全体	△1.5						
	小学校	△2.1						
	中学校	△0.9						

16 お子さんは、学校(部活動)が休みの日に、1日にどれくらい運動やスポーツをしていますか
(1時間以上の割合)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	24.0		23.7		20.9		△3.1
小学校	4年	29.4	5年	28.6	6年	28.6	△0.8	
中学校	1年	18.8	2年	18.6	3年	13.8	△5.0	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 【G1】 小学校は同様の数値(約 29%)で推移しているが、中学校は大きく数値が減少している。 ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差は見られない。 				
	全体	26.0						
	小学校	4年	30.9					
中学校	1年	20.2						
差	区分	G2-G1						
	全体	2.0						
	小学校	1.5						
	中学校	1.4						

【参考】 G1 : 1時間未満の割合

区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
30分~1時間	31.2	21.1	28.7	20.4	25.0	17.9	△6.2	△3.2
30分未満	29.0	30.3	28.5	29.3	29.1	34.3	0.1	4.0
全くしない	10.4	29.8	14.2	31.7	17.3	34.0	6.9	4.2

17 お子さんに、食事は好き嫌いなく食べるよう促していますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体	90.2		90.8		89.7		△0.5
小学校	4年	90.9	5年	91.6	6年	90.2	△0.7	
中学校	1年	89.6	2年	90.0	3年	89.2	△0.4	
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> ・ 【G1】 小中ともにわずかな減少が見られるが、高い数値が保たれている。 ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差は見られず、【G1】同様に高い数値となっている。 				
	全体	90.0						
	小学校	4年	89.7					
中学校	1年	90.3						
差	区分	G2-G1						
	全体	△0.2						
	小学校	△1.2						
	中学校	0.7						



成果

○食に関する指導の充実

- ・ 学校の取組では、保護者・子供に対する朝食摂取率向上のための啓発や食育の実施において数値の上昇が見られました。 関係課の取組では、栄養教諭や学校栄養職員、調理主任等を対象とした研修の実施、朝食摂取啓発リーフレット配付などにより、家庭と連携して食に関する指導の充実に取り組んでいる状況が調査から確認できました。
- ・ 児童生徒への調査では、好き嫌いなくものを食べている子供は8割を超えており、朝食をきちんと食べている子供も9割を超えていることから、学校での指導や保護者の声掛けなどにより、望ましい食習慣が定着していることが確認できました。



課題

○運動習慣の確立と体力の向上

- ・ 教員への調査での「運動の必要性を指導している教員」や児童生徒への調査での「運動やスポーツをすることが好きな子供」の割合は高い数値となっている一方で、体育の授業以外で、平均して1日に1時間以上、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをしている児童生徒は約3割と低い状況となっています。
- ・ グループ1の中学校では、1時間以上、運動している子供の割合が大きく減少しており、中学3年生は、部活動終了後に運動やスポーツをする時間が短くなる、もしくは全くなくなる実態を確認できました。
- ・ 学校の取組では、授業、部活動以外に児童生徒の体力・運動能力の向上のための取組を実施している学校が約4割、特に中学校では約2割と低い状況となっています。
- ・ 1日に1時間以上、運動している子供は減少傾向にあることから運動能力や体力の低下が懸念されることから、日常生活において運動習慣の確立をし、体力の向上を図っていくこと手立てが求められます。



施策 3-7 災害や事故から命を守るための教育

※R4 年度数値…G1全体の数値

成果指標

学校にいるときに地震が起きたら、どのように避難するか知っている子供の割合

R6 年度 90% R4 年度 → 92.6%

災害が起こったときのことについて家族と話し合った子供の割合

R6 年度 80% R4 年度 → 60.1%

■3-7-1 防災・減災教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
防災ノートの活用（活用率 100%）	A	健康安全課
教職員を対象とした、防災や学校安全に関する研修会の実施（年 1 回）	A	健康安全課

《学校の取組》

(11) 子供を災害や事故から守るための教育として、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2 比	R2	R4	R4-R2 比	R2	R4	R4-R2 比
校内における実践的な防災訓練の実施	92.4	93.1	98.6	6.2	91.7	99.0	7.3	93.8	97.9	4.1
防災ノートを活用した、自助力・共助力の醸成	90.3	89.6	91.7	1.4	91.7	95.8	4.1	87.5	83.3	△4.2
家庭における防災意識向上のための啓発	22.9	36.1	33.3	10.4	27.1	37.5	10.4	14.6	25.0	10.4
通学路における危険個所の確認	77.8	84.7	84.7	6.9	77.1	87.5	10.4	79.2	79.2	0
交通安全教室の開催	65.3	96.5	97.9	32.6	65.6	97.9	32.3	64.6	97.9	33.3
その他	6.3	6.9	2.8	△3.5	5.2	2.1	△3.1	8.3	4.2	△4.1

《教員への調査》

29 災害や事故から命を守り、安全を確保するための方法について、子供に指導している

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	98.8	98.3	98.0	△0.8
小学校	99.1	98.8	98.9	△0.2
中学校	98.3	97.7	96.5	△1.8

・ 小中ともにわずかに数値が減少しているが、高い数値が保たれている。

《児童生徒への調査》

28 学校にいるときに地震が起きたら、どのように避難するか知っていますか

成果指標 R6 年度 90%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		91.2		92.6		92.6	1.4
	小学校	4年	93.1	5年	94.5	6年	94.7	1.6
	中学校	1年	89.4	2年	90.5	3年	90.5	1.1
G2	区分	R4						
	全体		89.6					
	小学校	4年	92.2					
	中学校	1年	86.7					
差	区分	G2-G1						
	全体		△1.6					
	小学校		△0.9					
	中学校		△2.7					

- ・ 【G1】小中ともに昨年度から横ばいの状況となっている。小中の比較ではR2から約4Ptの差が生じており、変化が見られない。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校はほぼ同様であるが、中学校では約3Ptの差が見られ、小中の差も【G2】の方が大きい。

29 災害が起こったときのこと(避難する場所など)について家族と話し合いましたか

成果指標 R6 年度 80%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		61.8		57.7		60.1	△1.7
	小学校	4年	62.3	5年	58.2	6年	60.3	△2.0
	中学校	1年	61.4	2年	57.2	3年	59.9	△1.5
G2	区分	R4						
	全体		58.4					
	小学校	4年	60.6					
	中学校	1年	56.0					
差	区分	G2-G1						
	全体		△3.4					
	小学校		△1.7					
	中学校		△5.4					

- ・ 【G1】小中ともに昨年度から数値の上昇が見られ、同様の傾向となっている。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、小中ともに低下が見られ、小学校に比べ中学校の方が低下率が大きい。

《保護者への調査》

18 災害が起こったときのことについて、お子さんと話し合いましたか

(単位:%、比較:Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		79.5		77.1		78.9	△0.6
	小学校	4年	78.8	5年	76.8	6年	79.0	0.2
	中学校	1年	80.0	2年	77.4	3年	78.8	△1.2
G2	区分	R4						
	全体		77.7					
	小学校	4年	78.4					
	中学校	1年	76.9					
差	区分	G2-G1						
	全体		△1.8					
	小学校		△0.4					
	中学校		△3.1					

- ・ 【G1】小中ともに昨年度より数値が上昇しているが、R2から数値の大きな変化は見られない。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校はほぼ同様の数値であるが、小学校に比べ中学校の方が低下率が大きい。



成果

○防災教育・交通安全教育の充実

- ・ 学校の取組では、学校における防災教育に関する項目が昨年度と同様に高い数値となり、交通安全教育に関する項目は大幅な上昇が見られ、防災・交通安全教育に取り組んでいる状況が確認できました。
- ・ 教員への調査では、防災や事故防止に関する指導の項目が、3年間に渡り全体で約98%以上の教員から肯定的な回答が得られています。継続して学校全体で防災教育・交通安全教育に取り組んでいることが確認できました。
- ・ 児童生徒への調査では、学校での避難行動に関する項目において、令和2年度から継続して高い数値が保たれており、継続的な指導や訓練などにより、高い防災意識や地域の定着が図られています。



課題

○家庭における防災意識の向上

- ・ 家庭での災害に関する話し合いの項目について、継続して保護者と児童生徒の意識に約20Ptの乖離が生じています。
- ・ 学校による、家庭における防災教育の重要性の保護者への啓発も徐々に値が向上していますが、保護者と児童の認識の差を埋めるまでには至っていません。啓発に取り組んでいる学校はその内容の見直しを、未実施の学校には児童生徒の安全に対して保護者とどのような共通認識を持つ必要があるか検討するなど、手立てを工夫していく必要があります。

施策3-8 育ちや学びのつながりを重視した教育

■3-8-1 園・学校の連携

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R3年度取組内容	評価	担当
中学校区幼小中合同研修会の実施を促進	B	教育総務課
園と小学校の職員間の連携体制強化に向けた啓発	A	幼児教育・保育課
園児と児童の交流の啓発	B	幼児教育・保育課

政策 4

一人一人の可能性を引き出し伸ばします

施策 4-1 個性を伸長する機会の充実

■4-1-1 子供の才能を伸ばす学びの場の提供

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「浜松 I T キッズプロジェクト」の開講（受講修了者延 197 人）	A	創造都市・文化振興課
浜松 RAIN 房事務局と連携した理科・ものづくりに関するプログラムの開発と学校への提供	A	指導課
トップアスリートやプロスポーツチーム等の派遣によるスポーツ教室等の実施（23 回）	A	スポーツ振興課

施策 4-2 教育相談支援体制の充実

■4-2-1 専門スタッフ等と連携した教育相談の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
スクールカウンセラーの配置・派遣（17,526 時間）※2/15 時点	A	教育総合支援センター
スクールカウンセラーの資質向上のための研修の実施（年 5 回）	A	教育総合支援センター
教育相談員及び心理相談員、スーパーバイザーの教育委員会相談窓口への配置	A	教育総合支援センター
スクールソーシャルワーカーの配置・派遣（16 人）	A	指導課

施策 4-3 不登校児童生徒への支援充実

■4-3-1 不登校児童生徒の状況に応じた体制づくり

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
校内適応指導教室の設置（30 か所）	S	教育総合支援センター
校外適応指導教室の設置（9 教室）	A	教育総合支援センター
個別対応型校外適応指導教室指導員の配置（指導員 5 人・2 教室）	A	教育総合支援センター

施策 4-4 障がいのある子供への支援充実

■4-4-1 教育的ニーズに応じた多様で柔軟な教育の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
子供の教育的ニーズに応じた就学教育相談の実施	A	教育総合支援センター
サテライト方式による通級指導教室の実施	A	教育総合支援センター
作業療法士、言語聴覚士等の巡回指導、医療的ケアを必要とする児童生徒のための看護師の配置	A	教育総合支援センター
教員に対する発達支援学級在籍児童生徒への進路に関する情報提供	A	教育総合支援センター
発達支援学級の設置拡充（404 学級・11 学級新設）	A	教育総合支援センター
発達支援教室の設置拡充（107 教室・5 教室新設）	A	教育総合支援センター
発達支援教室支援員の配置拡充（6 人増）	A	教職員課
スクールヘルパーの配置拡充（4 人増）	A	教職員課

施策 4-5 外国人児童生徒等への支援充実

■4-5-1 不就学ゼロに向けた支援の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
教育委員会、外国人学校、各種支援団体等の関係団体と連携した不就学を生まない「浜松モデル」の実施	A	国際課

■4-5-2 日本語能力に応じた支援の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
市立小中学校への就学を希望する外国人保護者にガイダンスの実施	S	教育総合支援センター
日本の学校へ初めて就学する児童生徒への初期適応指導者の派遣と中学生を対象とした初期日本語指導拠点校の開設	A	教育総合支援センター
相談員による教科指導員への巡回指導（1 校につき 1～2 回）	A	教育総合支援センター
3 言語による母国語教室の実施	A	教育総合支援センター
「プレスクール」の実施（8 回）	A	教育総合支援センター
教科指導員への研修実施（6 回、特別の教育課程に係る研修含む）	A	教育総合支援センター
日本語指導加配教員への研修実施（4 回、希望研修含む）	A	教育総合支援センター
バイリンガル支援者への研修実施（5 回）	A	教育総合支援センター

■4-5-3 進路に対する支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度取組内容	評価	担当
進路について語る会の開催（2回）	A	教育総合支援センター
ロールモデル派遣（1校）	B	教育総合支援センター
中学生のためのステップアップクラスの開催（58回）	A	教育総合支援センター

《学校の取組》

(12) 子供一人一人の可能性を引き出し伸ばすために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位:%、比較:Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
職員会議や学年会等での、教職員間における子供のよい表れについての情報共有	-	92.0	90.3	-	-	88.5	-	-	93.8	-
子供同士が互いのよさを認め合う場の設定	-	90.0	92.4	-	-	92.7	-	-	91.7	-
SCやSSWと連携した教育相談の実施	100.0	96.5	99.3	△0.7	100.0	99.0	△1.0	100.0	100.0	0
不登校児童生徒のための学びの場の提供	64.6	68.8	70.8	6.2	56.3	65.6	9.3	81.3	81.3	0
個別の支援が必要な児童生徒のための校内体制や環境の整備	92.4	93.8	92.4	0	93.8	92.7	△1.1	89.6	91.7	2.1
外国人児童生徒の個々の日本語能力に応じた支援の工夫	53.5	50.0	59.0	5.5	53.1	54.2	1.1	54.2	68.8	14.6
その他	5.6	0.0	0.0	△5.6	4.2	0.0	△4.2	8.3	0.0	△8.3

《教員への調査》

30 個々の児童生徒の状況に応じて、多様で柔軟な指導・支援を行っている

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	98.0	98.1	97.8	△0.2
小学校	98.6	98.8	98.2	△0.4
中学校	97.0	96.9	96.9	△0.1

・ 小中ともに R2 から数値の大きな変化は見られず、高い数値が保たれている。



成果

○将来を担う人材の育成

- ・ 「浜松！Tキッズプロジェクト」による特別課外講座を実施し、中学生7名、小学生22名の修了生を輩出しました（小学生は見込）。

○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携

- ・ スクールカウンセラー54人、スクールソーシャルワーカー16人を配置し、複雑化・多様化している子供や保護者の相談に対応しました。
- ・ 学校の取組から、小中学校とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携がとれており、子供や保護者に寄り添った相談体制を構築していることが確認できました。

○校内適応指導教室の増設

- ・ 校内適応指導教室を希望する児童生徒の増加に対応するため、5教室（小学校3校・中学校2校）を新設しました。次年度に向けて、さらに15か所の増設に取り組んでいます。

○障がいのある子供への支援充実

- ・ 支援が必要な子供の増加に対応するため、発達支援学級を小学校271学級（前年比21学級増）、中学校133学級（前年比12学級増）を設置拡充しました。
- ・ 通常の学級に在籍する支援が必要な子供に対応するため、発達支援教室を5教室（小学校3校、中学校2校）に新設、発達支援教室支援員を小学校70人、中学校37人配置しました。
- ・ スクールヘルパーを小学校105人（前年比2人増）、中学校38人（前年比2人増）配置し、適切な指導や支援を受けられる体制を整備しました。
- ・ 発達支援学級の児童生徒や保護者が求めている教育的ニーズを的確に把握し、適切な進路指導が行えるよう、令和2年度に作成した発達支援学級担任のための進路指導Q&Aを改訂しました。

○初期日本語指導拠点校の開設

- ・ 日本の学校へ初めて就学する中学生を対象とした、初期日本語指導拠点校「江南教室」を開設しました。きめ細かな支援を初期段階から行うことで、在籍校での学びにも良い影響が出ています。



課題

○特別な支援を必要とする子供への支援の充実について

- ・ 不登校児童生徒、障がいのある児童生徒、外国人の児童生徒など、特別な支援を必要とする児童生徒は年々増加しています。
- ・ 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現に向けて、子供たちにとって望ましい教育環境の整備やきめ細やかな支援、指導の在り方を検討していく必要があります。

政策5

園・学校や教職員の力を向上させます

施策5-1 教職員の資質・能力向上

成果指標

※R4年度数値…G1全体の数値

先生が自分のよいところを認めてくれていると思う子供の割合

R6年度 90% R4年度 → 91.2%

学校や子供に関することを教職員に気軽に相談できる保護者の割合

R6年度 70% R4年度 → 72.4%

■5-1-1 たゆまぬ自己改革のための支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4年度取組内容	評価	担当
キャリア段階に応じた資質・能力の向上を図るための研修体系の見直しと実施	A	教育センター
校内研修充実に向けた支援	A	教育センター
学校図書館担当者等を対象とした研修や連絡会の実施	A	中央図書館
学校図書館補助員のための初任者向けマニュアルの作成	A	中央図書館
「博物館利用講座」「教材利用のための研修」の実施（1件）	B	博物館

■5-1-2 これからの学校教育を担う教職員の人材確保

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4年度取組内容	評価	担当
教員採用選考試験志願者を確保するための広報活動の実施	A	教職員課
教員採用選考試験における大学推薦の実施	A	教職員課

《学校の取組》

(13)教職員の資質・能力向上のために、どのような取組をしましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt 以下同じ)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
学校全体でのOJTの実施	68.8	75.0	71.5	2.7	66.7	71.9	5.2	72.9	70.8	△2.1
「浜松市教員育成指標」に示されたキャリア段階に応じて求められる資質・能力教職員への周知	54.9	62.5	53.5	△1.4	57.3	58.3	1.0	50.0	43.8	△6.2
希望研修や自主研修への参加促進	75.7	76.4	90.3	14.6	78.1	91.7	13.6	70.8	87.5	16.7
各種研修参加者による校内での研修内容の共有	40.3	85.4	76.4	36.1	44.8	86.5	41.7	31.3	56.3	25.0
その他	6.3	0.0	2.8	△3.5	5.2	4.2	△1.0	8.3	0.0	△8.3

(14) 研修内容を共有するために、主にどのようなことを行っていますか(単一回答)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R3比	R3	R4	R4-R3比	R3	R4	R4-R3比
校内全体研修の中に、研修受講者が研修内容を伝達する時間を設定している	-	37.5	31.3	△6.2	46.9	41.7	△5.2	18.8	10.4	△8.4
研修推進委員会で共有した内容を、研修部員が学年会や教科部会等で教職員に伝達している	-	16.0	16.0	0	4.2	8.3	4.1	39.6	31.3	△8.3
研修資料を全教職員に回覧している	-	28.5	25.7	△2.8	31.3	34.4	3.1	22.9	8.3	△14.6
研修資料をミラロ掲示板上格納している	-	0.7	3.5	2.8	1.0	4.2	3.2	0.0	2.1	2.1
その他	-	4.9	2.8	△2.1	6.3	2.1	△4.2	2.1	4.2	2.1
選択していない	-	12.5	20.8	8.3	10.4	9.4	△1.0	16.7	43.8	27.1

《教員への調査》

31 「浜松市教員育成指標」に示された、キャリア段階に応じて求められる資質・能力を知っている

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	80.6	79.9	80.2	△0.4
小学校	83.4	84.1	83.8	0.4
中学校	75.6	72.9	74.1	△1.5

- ・ 小中ともに R2 から大きな数値の変化は見られない。
- ・ 小中の比較では約 10Pt の差が見られる。

32 校外の研修や研究会に参加した成果を教育活動に積極的に反映させている

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	91.1	91.7	91.9	0.8
小学校	93.7	93.7	93.9	0.2
中学校	86.5	88.1	88.4	1.9

- ・ 小中ともに R2 から大きな数値の変化は見られない。
- ・ 小中の比較では約 10Pt の差が見られる。

33 子供一人一人のよい点や可能性を見つけ、子供に伝えている

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	99.2	98.9	99.0	△0.2
小学校	99.5	99.4	99.2	△0.3
中学校	98.6	98.2	98.7	0.1

- ・ 小中ともに R2 から大きな数値の変化は見られず、高い数値が保たれている。

34 【新規】子供や保護者からのいじめ等の相談や気になる表れに対して、一人で抱え込まず、他の教職員と情報共有しながら対応している

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	-	-	99.5	-
小学校	-	-	99.5	-
中学校	-	-	99.6	-

- ・ 小中ともに約 100%に近い数値となっている。

35 【新規】校外でいじめや人権に関する研修を受講し、自らの資質向上に努めている

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	-	-	87.8	-
小学校	-	-	91.2	-
中学校	-	-	82.0	-

- ・ 小中の比較では、約 9Pt の差が見られる。

《児童生徒への調査》

30 先生はあなたのよいところをみとめてくれていると思いますか

成果指標 R6 年度 90%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2					
	全体		86.1		85.2		91.2	5.1					
小学校	4年	87.3		5年	84.1	6年	91.2	3.9					
	中学校	1年	84.9	2年	86.2	3年	91.0	6.1					
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに昨年度より数値の上昇が見られ、同様の数値となっている。 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の数値が約3~4Pt上回っている。 									
	全体		89.7										
小学校	4年	90.6											
	中学校	1年	88.7										
差	区分	G2-G1											
	全体		3.6										
小学校			3.3										
	中学校		3.8										

31 【新規】相談したときに、先生は真剣に話を聞いてくれますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2					
	全体		-		-		94.8	-					
小学校	4年	-		5年	-	6年	95.6	-					
	中学校	1年	-	2年	-	3年	93.9	-					
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 小中との比較、【G1】【G2】の比較において大きな差は見られない。 									
	全体		95.2										
小学校	4年	95.8											
	中学校	1年	94.4										
差	区分	G2-G1											
	全体		-										
小学校			-										
	中学校		-										

《保護者への調査》

19 学校や子供に関することを、教職員に気軽に相談できますか

成果指標 R6 年度 70%

(単位:%、比較:Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2					
	全体		69.4		70.7		72.4	3.0					
小学校	4年	76.6		5年	74.5	6年	77.9	1.3					
	中学校	1年	62.5	2年	66.8	3年	67.3	4.8					
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに昨年度より数値の上昇が見られる。小中の比較では、約11Ptの差が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校は低下が見られるものの、中学校は約3Pt上回っている。 									
	全体		70.6										
小学校	4年	74.9											
	中学校	1年	65.6										
差	区分	G2-G1											
	全体		1.2										
小学校			△1.7										
	中学校		3.1										



成果

○受講しやすい研修体制の構築・研修成果の反映

- ・ 学校への調査では、教員研修への積極的な参加呼びかけの項目において、大きく数値が上昇しました。教育センターでの研修は、コロナ禍や教員の負担軽減などを踏まえ、集合・オンライン・オンデマンド型など、研修形態を工夫し、研修に参加しやすい体制の取り組みによるものと思われます。

○児童生徒理解に努める教師の姿

- ・ 児童生徒への調査「先生はあなたのよいところをみとめてくれていると思うか」と、保護者への調査「学校や子供に関することを教職員に気軽に相談できるか」の項目は、ともに昨年度から数値が上昇(約5～7Pt)し、昨年度に引き続き指標を達成することができました。
- ・ 「相談したときに先生は真剣に話を聞いてくれるか」の項目では、9割を超える子供が肯定的な回答をしており、教員が子供に寄り添う姿が伺えます。
- ・ 教員は子供のがんばりや良さを見取り、子供にフィードバックしています。様々な機会や手段を通しての信頼関係の構築は、日々の授業実践での支援等に生かされたり、子供の学校に通うことができるといった心の安定を生み出したりすると考えられます。



課題

○研修内容の共有

- ・ 教員への調査では、研修の成果の反映の項目で約9割の教員が肯定的な回答をしている一方、学校の取組における研修内容の共有の数値は減少しています。特に中学校では、数値の低下した項目が多く、未回答の学校が約3割あることから、要因を確認する必要があります。

○教員育成指標の周知とそれに基づいた取組の充実

- ・ 学校の取組において、教員育成指標の周知に関する項目は5割程度の数値となっている一方、教員の調査では約8割の教育がキャリア段階に応じて求められる資質・能力を知っていると回答しています。
- ・ 令和5年度からは、国の動向や本市の状況を踏まえて改正した育成指標の運用が始まることから、充実した取組になるよう、教育委員会と学校が連携して推進していく必要があります。

政策 6

子供の生活や学びを支える教育環境づくりを進めます

施策 6-1 安全・安心で質の高い教育環境の整備

■6-1-1 学校施設の計画的な保全

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「浜松市学校施設長寿命化計画」に基づく緊急的な基幹設備の更新	A	教育施設課

■6-1-2 快適な学校生活に向けた整備

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
各学校単位での校舎棟児童生徒用トイレの洋式化（55%）	A	教育施設課

■6-1-3 機器や教材等の教育環境の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
特別教室への無線アクセスポイントの設置	S	教育施設課 (ICT 教育推進)
「SNS ノートはままつ」、「情報モラルスライド」の作成	A	教育施設課 (ICT 教育推進)
校務支援システム（新成績処理システム等）の導入	A	市立高等学校
「学校生活における一人一台タブレット利用のガイドライン」の策定	A	市立高等学校

■6-1-4 学校安全への対応

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「ながら見守り」活動への登録者（1,190人）※2月末時点	S	健康安全課
教職員の普通救命講習修了証の取得率（90.4%）	A	健康安全課
スクールガードリーダーによる見守り活動の実施	A	健康安全課
通学路整備要望調査の実施及び整備に向けた関係機関との連携	A	健康安全課
「こども110番の家」の事業周知及び啓発活動	S	青少年育成センター
登録業者や事業者へ「こども110番の家」ステッカー、活動手引きの送付	A	青少年育成センター

施策 6-2 学びを支える人材の充実

■6-2-1 きめ細かな指導・支援の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
校務アシスタント・図書館補助員の全校配置	A	教職員課
学習支援員・複式学級支援員・生徒指導支援員の適正配置	A	教職員課
養護教諭補助員の配置拡充（小中学校 19 校）	A	教職員課
小学校への理科支援員の配置（100%）	A	指導課
外国人児童生徒等が在籍する学校への支援員やサポーターの配置・派遣 （日本語の会話に支援が必要な外国人児童生徒の在籍数に応じた配置・派遣）	A	教育総合支援センター
外国人児童生徒等が在籍する学校への教科指導員の配置 （学習内容の理解に支援が必要な外国人児童生徒が 6 人以上在籍する学校を対象）	A	教育総合支援センター

■6-2-2 少人数指導の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「はままつ式少人数学級（30 人学級編制）」の実施（小学校 3 年生まで）	A	教職員課

施策 6-3 教育機会の確保に向けた支援

■6-3-1 教育費負担軽減のための経済的支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
経済的支援を要する家庭への就学に必要な費用の一部援助	A	教育総務課
経済的理由により修学が困難な学生に対する奨学金の貸与	A	教育総務課

■6-3-2 多様な学びの場の確保

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
県立夜間中学開校に向けた入学者募集の周知 庁内関係課による「夜間中学検討会」の開催	A	教育総務課

■6-3-3 遠隔教育の推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
学校のニーズに応じた遠隔合同授業、リモート授業への支援	A	教育施設課 （ICT 教育推進）

施策 6-4 学校規模の適正化

■6-4-1 小規模校・大規模校における教育環境の向上

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
小規模校全校への訪問及び必要に応じた保護者等との意見交換会の実施	A	教育総務課
大規模校（25 学級以上）の施設や学校運営等に対する課題への対応	A	教育総務課

■6-4-2 地域事情による通学等への支援

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
通園・通学バスの運行や交通費支給による通学支援	A	教育総務課
通園・通学バスを活用した校外学習等の移動手段への支援	A	教育総務課

施策 6-5 学校における働き方改革の推進

■6-5-1 子供も先生も笑顔あふれる学校づくり

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「学校における働き方改革のための業務改善方針」の取組推進及び周知啓発	A	教育総務課
「学校における働き方改革」推進部会の開催	A	教育総務課

《学 校の取組》

(15) 働き方改革に関する視点を盛り込んだ学校運営として、どのような取組をしていますか（複数回答）

（単位：％、比較：Pt）

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2 比	R2	R4	R4-R2 比	R2	R4	R4-R2 比
勤務時間を意識した登下校、部活動等の時間設定	75.7	72.9	78.5	2.8	80.2	80.2	0	66.7	75.0	8.3
学校事務職員の学校運営参画	80.6	77.8	80.6	0	79.2	80.2	1.0	83.3	81.3	△2.0
保護者・地域等と連携した登下校の安全確保	61.1	56.3	58.3	△2.8	69.8	74.0	4.2	43.8	27.1	△16.7
学校行事の精選・見直し	96.5	93.1	89.6	△6.9	97.9	92.7	△5.2	93.8	83.3	△10.5
校内業務の適正化、事務負担の見直し	66.0	73.6	74.3	8.3	64.6	80.2	15.6	68.8	62.5	△6.3
P T A の活動内容の見直し	72.9	76.4	78.5	5.6	74.0	75.0	1.0	70.8	85.4	14.6
定時退庁日の設定	83.3	79.9	68.1	△15.2	79.2	64.6	△14.6	91.7	75.0	△16.7
年次休暇の取得促進	79.9	75.0	82.6	2.7	81.3	79.2	△2.1	77.1	89.6	12.5
その他	4.2	0.7	2.1	△2.1	3.1	3.1	0	6.3	0.0	△6.3

《教員への調査》

36 時間の使い方を意識した働き方に努めている

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	86.3	86.0	85.0	△1.3
小学校	87.6	87.8	85.4	△2.2
中学校	84.3	83.1	84.5	0.2

・ 小学校は昨年度より数値の減少が見られ、中学校はほぼ横ばいとなっている。

37 効率よく業務を進めるため、常に自分の業務を見直し、改善を図っている

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	84.6	84.6	84.4	△0.2
小学校	85.0	85.5	84.0	△1.0
中学校	83.8	83.0	85.2	1.4

・ 小学校は昨年度より数値が減少し、中学校は数値の上昇が見られる。

《保護者への調査》

20 学校が、働き方改革に取り組んでいることを知っていますか

(単位:%、比較:Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2	
	全体		75.8		74.6		85.7		9.9
	小学校	4年	75.6	5年	74.1	6年	86.2	10.6	
	中学校	1年	76.0	2年	75.1	3年	85.2	9.2	
G2	区分	R4							
	全体		79.8						
	小学校	4年	77.7						
	中学校	1年	82.4						
差	区分	G2-G1							
	全体		4.0						
	小学校		2.1						
	中学校		6.4						

・ 【G1】小中学校ともに年々数値が上昇し、R2から約10Ptの上昇が見られる。
 ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の数値が見られる。

《地域住民への調査》

3 学校が、働き方改革に取り組んでいることを知っていますか

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	83.0	89.5	90.8	7.8
小学校	82.7	88.2	90.2	7.5
中学校	83.5	92.1	92.3	8.8

・ 小中ともに年々数値の上昇が見られる。

《学校における働き方改革のための業務改善方針 令和4年度における目標達成状況》

1 時間外在校等時間の削減

原則、月 45 時間以内・年 360 時間以内

時間外在校等時間 月 45 時間超教職員の人数と割合 (R5. 1 月末時点)

○小学校

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年360時間超
R2	人数	485	219	1,583	1,362	32	1,394	1,549	1,090	861	709	1,163	946	1,763
	割合	19.9%	9.0%	65.1%	56.1%	1.3%	57.6%	64.1%	45.2%	35.8%	29.5%	48.4%	39.4%	70.7%
R3	人数	1,646	1,217	1,569	816	5	1,158	1,251	1,095	585	594	900	599	1,731
	割合	67.7%	50.2%	64.8%	33.8%	0.2%	48.0%	52.0%	45.7%	24.4%	24.8%	37.5%	25.0%	69.6%
R4	人数	1,503	1,158	1,514	689	2	1,205	1,182	1,013	456	565	-	-	-
	割合	61.4%	47.5%	62.1%	28.3%	0.1%	49.5%	48.6%	41.7%	18.8%	23.3%	-	-	-

○中学校

年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年360時間超
R2	人数	228	89	1,104	1,084	378	1,069	1,129	989	860	850	916	822	1,186
	割合	15.3%	6.0%	74.0%	72.7%	25.3%	71.6%	75.4%	66.6%	58.1%	57.2%	61.6%	55.6%	77.8%
R3	人数	1,157	1,050	1,161	923	26	1,009	1,052	1,016	799	715	719	670	1,192
	割合	75.9%	69.0%	76.4%	60.9%	1.7%	66.5%	69.3%	67.1%	52.9%	47.3%	47.5%	44.5%	77.3%
R4	人数	1,147	1,067	1,129	815	60	996	1,029	934	668	738	-	-	-
	割合	75.1%	70.1%	74.2%	53.5%	4.0%	65.7%	67.8%	61.6%	44.1%	48.6%	-	-	-

2 心身の健康維持

受検率 100%

総合健康リスク 80 未満

高ストレス者（総合健康リスク 100 以上の割合） 5.0%未満

ストレスチェックの結果

項目	R2	R3	R4
受検率	95.2%	95.9%	96.1%
総合健康リスク	78	79	79
高ストレス者（総合健康リスク 100 以上）	5.0%	5.9%	6.5%

3 タイムマネジメントを意識した働き方の実施

肯定的な回答の割合 100%

教員への実態把握調査の結果

校種	R2	R3	R4
小学校	87.6%	87.8%	85.4%
中学校	84.3%	83.1%	84.5%
全体	86.3%	86.0%	85.0%



成果

施策 6-1

○学校施設の計画的な保全

- ・ 「浜松市学校施設長寿命化計画」に基づき、基幹設備である自動火災報知設備、非常放送設備、給水・消火栓ポンプ、管理教室・給食室空調設備の更新を 84 校で実施しました。

○快適な学校生活に向けた整備

- ・ 各小中学校単位での校舎棟児童生徒用トイレの洋式化を 96 校、385 器で実施し、洋式化率が 55% になりました。

○機器や教材等の教育環境の充実

- ・ 理科室や音楽室等の特別教室への無線アクセスポイントの設置、体育館用の無線アクセスポイントの配備を実施しました。（年度内に完了の予定）

○学校安全への対応

- ・ 「ながら見守り」活動への登録者が 1,190 人となり、学校安全体制の拡充を図りました。
- ・ 令和 4 年 8 月に「浜松市こども 110 番の家事業実施要綱」が施行されたことを受け、各健全育成会や小中学校に啓発チラシを送付しました。また、令和 5 年 2 月にイオンモール浜松市野で広報活動を実施しました。

施策 6-2

○学びを支える人材の充実

- ・ 校務アシスタント、図書館補助員を小中学校全校に、理科支援員を小学校全校に配置しました。また、児童生徒数の変動や学校の運営状況等を考慮し、97 人の学習支援員や複式学級支援員・生徒指導支援員を配置しました。
- ・ 増加傾向にある外国人児童生徒に対応するため、就学支援員を 14 人、教科指導員を 35 校に配置し、日本語指導等の充実を図りました。

○少人数指導の充実（はままつ式 30 人学級編制）

- ・ 「はままつ式 30 人学級編制」を 17 校で実施し（22 学級増）、教員が児童一人一人と向き合える教育環境を整えました。

施策 6-3

○教育費負担軽減のための経済的支援

- ・ 経済的支援を要する家庭への就学に必要な費用の一部援助を行い、小中学校への就学を支援しました。

○多様な学び場の確保（夜間中学）

- ・ 県立夜間中学校の開校に向け、「広報はままつ」への掲載や公共施設でチラシを配布することにより、入学者募集を市民に周知しました。また、関係課による「夜間中学検討会」を開催して情報共有を図りました。

施策6-4

○小規模校・大規模校における教育環境の向上

- ・ 小規模校27校、大規模校4校を訪問し、今後の児童生徒数の推計や学校や地域の状況について情報共有を図りました。また、保護者等との意見交換会を4校で開催し、学校規模適正化に関する取組を説明しました。

○地域事情による通学等の支援

- ・ 遠距離通学となる地域の通学支援として、通園・通学バスを48路線運行しました。また、通園・通学バス以外を利用する児童生徒112人に交通費を支給しました。

施策6-5

○子供も先生も笑顔あふれる学校づくり（学校における働き方改革）

- ・ 働き方改革に関わる学校の取組への理解と協力について、年度当初に保護者・地域宛ての周知文書を配付しました。これまでの継続した取組により、保護者や地域住民の認知が図られていることが確認できました。
- ・ 遠鉄システムサービス(株)及び(株)ガバメイツと業務量調査に関わる連携協定を締結し、調査報告をもとに今後の働き方改革の進め方について推進部会等で協議するとともに、効果が期待できるものについて実証研究を行いました。



課題

施策6-5

○学校における働き方改革の推進

- ・ 学校の取組では、業務の見直しに関する項目では数値の上昇が見られるものの、登下校の安全確保、学校行事の精選・見直し、定時退庁日の設定などの項目で低下が見られました。取組を形骸化させることなく、働き方改革の意識の向上に努めていく必要があります。
- ・ 様々な働き方改革の取組を進めていますが、教員の意識は、昨年度と数値に大きな変化は見られませんでした。今年度行った業務量調査の結果等を参考に、学校や教師が担うべき業務とそれ以外が担う業務を整理し、解決策を検討していく必要があります。



政策 7

家庭や地域の力を生かした取組を推進します

施策 7-1 家庭の教育力向上

成果指標


※R4 年度数値…G1全体の数値

子供のよい表れを見つけ、ほめている保護者の割合  R6 年度 90% R4 年度 → 95.9% 

一日の出来事について子供から話を聞いている保護者の割合

R6 年度 90% R4 年度 → 88.5%

子供が、規則正しい生活を送ることができるよう声掛けしている保護者の割合

 R6 年度 95% R4 年度 → 95.3%

■7-1-1 家庭の教育力向上に向けた支援

《関係課の取組》

※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組内容	評価	担当
入学予定児童及び小学校1年生の保護者に向けた家庭教育講座の実施（22校）	B	教育総務課
家庭における『はままつマナー』の活用事例の紹介	A	指導課
幼児教育の指針『幼児期に育てたい力』や『はますくファイル』の周知と活用の啓発	A	幼児教育・保育課
親子ひろば事業での子育て相談の実施	A	幼児教育・保育課
保健・医療・福祉・教育等へ『はますくファイル』の活用方法の周知	A	子育て支援課
『はますくファイル』をより使いやすい媒体とするための見直し 子育てポータルサイトのリニューアル	A	子育て支援課
保育所・認定こども園・市立幼稚園等での家庭教育講座の実施（20回）	A	次世代育成課

《学校の取組》

(16) 家庭の教育力を向上させるために、保護者に対し、どのようなことを働きかけましたか(複数回答)

(単位: %、比較: Pt)

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
「早寝・早起き・朝ごはん」や挨拶など基本的な生活習慣に関すること	88.9	90.3	88.9	0	96.9	94.8	△2.1	72.9	77.1	4.2
会話や悩み相談など、子供とのかかわり方に関すること	62.5	61.1	59.7	△2.8	69.8	66.7	△3.1	47.9	45.8	△2.1
テレビやゲーム、ICT機器の家庭での使い方に関すること	72.9	81.3	82.6	9.7	71.9	83.3	11.4	75.0	81.3	6.3
家族の一員としての在り方に関すること	26.4	34.0	34.0	7.6	28.1	38.5	10.4	22.9	25.0	2.1
地域行事やボランティア活動への参加に関すること	27.8	22.9	34.7	6.9	22.9	31.3	8.4	37.5	41.7	4.2
その他	5.6	0.7	2.1	△3.5	7.3	3.1	△4.2	2.1	0.0	△2.1

《教員への調査》

38 教育相談や家庭訪問、たより等を通して、家庭の教育力の重要性を保護者に伝えている

(単位:%、比較:Pt)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	90.1	88.2	86.6	△3.5
小学校	92.6	90.6	90.1	△2.5
中学校	85.5	84.2	80.8	△4.7

- ・ 小中ともに数値の減少が見られる。
- ・ 小中の比較では約9Ptの差が見られる。

《児童生徒への調査》

32 一日の出来事について、家族と話をしていますか

(単位:%、比較:Pt)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		80.9		78.3		77.2	
	小学校	4年	81.7	5年	80.8	6年	80.5	△1.2
	中学校	1年	80.1	2年	75.9	3年	73.9	△6.2
G2	区分	R4						
	全体	79.2						
	小学校	4年	79.9					
	中学校	1年	78.4					
差	区分	G2-G1						
	全体	△1.7						
	小学校	△1.8						
	中学校	△1.7						

- ・ 【G1】小中ともに数値の減少が見られる。R2との比較では、中学校において約6Ptの低下が見られ、小中の比較では、約7Ptの差が見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、小中ともに約2Ptの低下が見られる。

《保護者への調査》

21 お子さんのよい表れを見つけ、ほめていますか

成果指標 R6 年度 **90%**

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		94.4		95.0		95.9	
	小学校	4年	95.5	5年	96.3	6年	97.1	1.6
	中学校	1年	93.3	2年	93.5	3年	94.7	1.4
G2	区分	R4						
	全体	95.7						
	小学校	4年	96.7					
	中学校	1年	94.6					
差	区分	G2-G1						
	全体	1.3						
	小学校	1.2						
	中学校	1.3						

- ・ 【G1】小中ともに年々数値の上昇が見られ、成果指標が達成できた。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の方が若干数値が上回っているが、大きな差は見られない。

22 一日の出来事についてお子さんから話を聞いていますか

成果指標 R6 年度 90%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		90.9		88.5		88.5	
	小学校	4年	93.6	5年	93.0	6年	92.4	△1.2
	中学校	1年	88.3	2年	83.7	3年	84.8	△3.5
G2	区分	R4						
	全体		91.5					
	小学校	4年	93.0					
	中学校	1年	89.8					
差	区分	G2-G1						
	全体		0.6					
	小学校		△0.6					
	中学校		1.5					

- ・ 【G1】小学校は年々数値にわずかであるが減少が見られる。中学校は、昨年度から数値が上昇したが、R2との比較では約4Pt低下が見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差は見られない。

23 お子さんが、規則正しい生活を送ることができるよう声かけしていますか

成果指標 R6 年度 95%

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		97.6		96.4		95.3	
	小学校	4年	98.3	5年	97.7	6年	97.1	△1.2
	中学校	1年	96.9	2年	95.1	3年	93.6	△3.3
G2	区分	R4						
	全体		97.0					
	小学校	4年	97.2					
	中学校	1年	96.8					
差	区分	G2-G1						
	全体		△0.6					
	小学校		△1.1					
	中学校		△0.1					

- ・ 【G1】小中ともに年々数値の減少が見られるが、成果指標は達成することができた。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、大きな差は見られない。



成果

○家庭教育力(情報モラル)

- ・ 学校の取組では、テレビやゲームなどICT機器の家庭での使い方に関する保護者への働きかけの項目で、中学校の数値に上昇が見られ、小中ともに肯定的回答が8割を超えました。保護者への調査(施策3-3)においても、「家庭内での使い方を子供と決めている」「情報モラルについて話すことがある」の項目への肯定的回答は8割以上となっています。
- ・ 社会全体のデジタル化が進む中で、家庭でのルールや情報モラルについて子供と保護者が一緒に考える機会はとても重要であり、今後も継続した働きかけをしていく必要があります。



課題

○子供と保護者の関わり

- ・ 今年度の調査においても、一日の出来事についての会話の項目で、子供と保護者の認識に10Pt以上の差がありました。保護者は3年間であまり変化は見られませんが、中学校で約6Pt低下しており、令和4年度は小学校と約7Ptの差が見られます。
- ・ 発達段階によるところが大きいと推測されますが、グループ2についても数値の変化に注目していく必要があります。



施策 7-2 地域との連携・協働の推進

成果指標

ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わる人が多いと思う人の割合

※学校評議員、学校運営協議会委員を対象とした調査



R6 年度 80% R4 年度 → 88.4%

学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思う人の割合

※学校評議員、学校運営協議会委員を対象とした調査

R6 年度 95% R3 年度 → 94.7%

■7-2-1 コミュニティ・スクールの推進

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
コミュニティ・スクールの本格導入（市立小中学校 130 校）	S	教育総務課
教職員、学校運営協議会委員等への研修会の開催	A	教育総務課
リーフレット、出前講座等を活用した地域住民・保護者への周知	A	教育総務課

■7-2-2 園・学校評価の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
学校運営改善のための学校関係者評価の充実に向けた支援	A	教育総務課
学校HP、学校便り、コミスク便り等を通じた学校関係者評価の結果の公表	A	教育総務課
自己評価の結果を公表し、園運営の改善を図ることを周知・啓発	A	幼児教育・保育課

■7-2-3 「はままつ人づくりネットワークセンター」の充実

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4 年度 取組 内容	評価	担当
「職業・生き方」に関連した内容を中心に 32 講座の新規登録	A	教育総務課
研修会等において、「はままつ人づくりネットワークセンター」のウェブサイトを紹介・周知	A	教育総務課

■7-2-4 放課後の居場所づくり

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4年度取組内容	評価	担当
「浜松市子ども・若者支援プラン」に基づく放課後児童会の定員拡大	B	教育総務課
放課後児童会支援員等の資質向上等に向けた研修実施及び情報提供	A	教育総務課
「放課後子供教室」の実施（19か所うち放課後児童会未開設地域型10か所）	B	教育総務課

■7-2-5 青少年健全育成会との連携

《関係課の取組》 ※評価：S…計画より進んでいる A…計画どおり B…遅れている C…未実施

R4年度取組内容	評価	担当
各地域青少年健全育成会における、11月11日を基準日とした「ひとりひとりにいい声掛けデー」の実施率（96%）	B	青少年育成センター

《学校の取組》

(17) 地域との連携・協働の推進のために、どのような取組をしましたか（複数回答）

（単位：％、比較：Pt）

取組内容	全体				小学校			中学校		
	R2	R3	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比	R2	R4	R4-R2比
地域人材を活用した授業の実施	86.1	81.9	87.5	1.4	88.5	97.9	9.4	81.3	66.7	△14.6
地域のボランティア活動への参加促進	39.6	38.2	47.2	7.6	33.3	35.4	2.1	52.1	70.8	18.7
学校評価をもとにした、学校運営の改善	78.5	80.6	88.9	10.4	78.1	91.7	13.6	79.2	83.3	4.1
はままつづくりネットワークセンターを活用した教育活動の実施	13.2	23.6	22.2	9.0	15.6	27.1	11.5	8.3	12.5	4.2
その他	9.7	4.2	1.4	△8.3	6.3	2.1	△4.2	16.7	0.0	△16.7

《教員への調査》

39 学習のねらいに基づいた、保護者や地域の人材を活用する授業を実施している、または予定している

（単位：％、比較：Pt 以下同じ）

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	80.4	76.9	82.1	1.7
小学校	86.2	83.4	90.5	4.3
中学校	70.1	66.0	67.5	△2.6

- ・ 小中ともに昨年度から数値に上昇が見られる。
- ・ 小中の比較では、23Ptの差が見られる。

40 保護者や地域住民と、学校の教育目標や課題を共有した学校運営ができている

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	82.6	84.1	1.5
小学校	-	85.5	88.4	2.9
中学校	-	77.6	76.6	△1.0

- ・ 小学校で数値の上昇が見られる。
- ・ 小中の比較では、約8Ptの差が見られる。

41 地域の人材や素材の活用により、教育活動が充実している

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	77.8	81.8	4.0
小学校	-	82.7	89.3	6.6
中学校	-	69.4	68.9	△0.5

- ・ 小学校では数値が上昇した。
- ・ 小中の比較では、約 20t の差が見られる。

42 保護者や地域住民の学校支援活動により、子供と向き合う時間の確保につながっている

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	58.8	62.1	3.3
小学校	-	60.6	66.0	5.4
中学校	-	55.7	55.2	△0.5

- ・ 小学校では数値が上昇した。
- ・ 小中の比較では、約 11Pt の差が見られる。

《児童生徒への調査》

33 学習ボランティアなど、地域の人が学習に関わってくれている(手助けしてくれている)と思いますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		85.7		84.3		82.8	
	小学校	4年	88.9	5年	89.3	6年	90.3	1.4
	中学校	1年	82.4	2年	79.3	3年	75.0	△7.4
G2	区分	R4						
	全体		86.6					
	小学校	4年	91.1					
	中学校	1年	81.5					
差	区分	G2-G1						
	全体		0.9					
	小学校		2.2					
	中学校		△0.9					

- ・ 【G1】小学校では年々数値の上昇が見られるが、中学校は数値が減少している。小中の比較では、約 15Pt の差が見られる。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の小学校が若干数値が上回っているが、中学校はほぼ同様の数値となっている。

34 家族や地域の方から学ぶことは、自分のためになると思いますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		93.7		93.7		92.8	
	小学校	4年	96.0	5年	95.6	6年	94.5	△1.5
	中学校	1年	91.5	2年	91.6	3年	91.0	△0.5
G2	区分	R4						
	全体		94.6					
	小学校	4年	95.7					
	中学校	1年	93.4					
差	区分	G2-G1						
	全体		0.9					
	小学校		△0.3					
	中学校		1.9					

- ・ 【G1】小中ともに数値に大きな変化は見られない。
- ・ 【G1】【G2】の同一学年比較では、小学校はほぼ同様の数値となっているが、【G2】中学校は若干数値が上回っている。

《保護者への調査》

24 学校は、地域人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		82.8		83.7		81.2	△1.6
	小学校	4年	87.0	5年	87.2	6年	85.5	△1.5
	中学校	1年	78.7	2年	80.0	3年	77.2	△1.5
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小中ともに昨年度から数値に低下が見られる。小中の比較では、約8Ptの差が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、【G2】の数値が3Pt程度下回っている。 				
	全体		79.7					
小学校	4年	83.4						
中学校	1年	75.3						
差	区分	G2-G1						
	全体		△3.1					
	小学校		△3.6					
	中学校		△3.4					

25 地域の中で子供が育てられていると感じていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		74.0		69.5		69.5	△4.5
	小学校	4年	74.2	5年	70.5	6年	71.5	△2.7
	中学校	1年	73.8	2年	68.4	3年	67.6	△6.2
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は昨年度から数値に上昇が見られたが、中学校は年々数値に減少が見られる。 【G1】【G2】の同一学年比較では、小中とも【G2】の数値が低下している。 				
	全体		65.5					
小学校	4年	66.9						
中学校	1年	63.8						
差	区分	G2-G1						
	全体		△8.5					
	小学校		△7.3					
	中学校		△10.0					

26 体験活動や、地域ボランティア活動などへの参加をお子さんに促していますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R2
	全体		66.6		60.6		62.6	△4.0
	小学校	4年	67.2	5年	62.5	6年	62.7	△4.5
	中学校	1年	66.0	2年	58.6	3年	62.4	△3.6
G2	区分	R4		<ul style="list-style-type: none"> 【G1】小学校は昨年度から横ばいの状況だが、中学校は、数値に上昇が見られる。 【G1】【G2】の同一学年と比較して、全体で約9Pt低下している。 				
	全体		57.3					
小学校	4年	59.1						
中学校	1年	55.2						
差	区分	G2-G1						
	全体		△9.3					
	小学校		△8.1					
	中学校		△10.8					

27 コミュニティ・スクールとは、「地域住民や保護者が学校の運営や支援について協議する『学校運営協議会』を設置している学校」であることを知っていますか

G1	区分	R2		R3		R4		R4-R3
	全体	-	-	31.3	41.0	9.7		
小学校	4年	-	5年	33.3	6年	43.3	10.0	
中学校	1年	-	2年	29.4	3年	38.8	9.4	

G2	区分	R4	
	全体	34.3	
小学校	4年	33.7	
中学校	1年	35.1	

差	区分	G2-G1	
	全体	-	
小学校	-		
中学校	-		

・ 【G1】小中ともに約10Ptの数値の上昇が見られる。

《地域住民への調査》

4 学校は、地域人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていますか

成果指標 R6年度 95%

(単位:%、比較:Pt 以下同じ)

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	92.2	93.6	94.7	2.5
小学校	94.4	94.7	96.1	1.7
中学校	87.7	91.6	91.9	4.2

・ 小中ともに高い数値が保たれている。

5 地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか

成果指標 R6年度 80%

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	90.4	92.7	88.4	△2.0
小学校	89.9	91.4	88.3	△1.6
中学校	91.5	95.3	88.8	△2.7

・ 小中ともに数値に減少が見られ、同様の数値となっている。

6 コミュニティ・スクールとは、「地域住民や保護者が学校の運営や支援について協議する『学校運営協議会』を設置している学校」であることを知っていますか

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	94.1	96.6	2.5
小学校	-	93.6	97.7	4.1
中学校	-	95.3	94.2	△1.1

・ 小学校では数値が上昇、中学校は数値に減少が見られる。

7 子供たちは、地域の行事やボランティア活動に積極的に参加していると思いますか

対象	R2	R3	R4	R4-R3
全体	-	86.7	83.4	△3.3
小学校	-	84.9	82.1	△2.8
中学校	-	90.0	86.1	△3.9

・ 小中ともに数値の低下が見られる。

8 【新規】地域で育つ子供に温かい気持ちで接し、いじめを行うことがないよう、積極的に関わっていますか

対象	R2	R3	R4	R4-R2
全体	-	-	87.2	-
小学校	-	-	86.7	-
中学校	-	-	88.4	-

・ 小中ともに同様の数値となっている。

 成果

○コミュニティ・スクール（CS）の導入効果

- ・ 今年度、新たに54校が学校運営協議会を設置し、全体の導入校は130校(導入率90.3%)となりました。
- ・ 教員への調査では、地域の人材や素材の活用による教育活動の充実の項目において、8割以上の教員が肯定的回答をします。
校種間で差が見られますが、教職員・学校運営協議会委員・学校支援コーディネーター・CSディレクターへの研修会を充実させたことで、制度理解が深まり、学校のニーズに応じた学校支援活動が展開され、教育活動の充実につながっているものと考えられます。
- ・ 学校支援活動による、子供と向き合う時間の確保に関する項目でも、6割以上の教員が肯定的回答をしており、小学校は約5Ptの上昇が見られました。多くの学校で学校運営協議会の設置が進んだことで、徐々に教員の負担軽減や子供と向き合う時間の確保につながっていると認識する教員が増えていることが確認できました。
- ・ 学校運営協議会委員や学校評議員などが主な対象となっている地域への調査では、CSの定義の理解に関する項目において、9割以上が肯定的回答をしており、制度を十分に理解した上で学校運営に参画している状況が確認できました。

【コミュニティ・スクール（CS）とは】

学校・家庭・地域が力を合わせて学校の運営に取り組む仕組みである「学校運営協議会」を設置した学校のことです。

学校運営協議会では、学校運営の基本方針や目指す子供の姿、学校の課題などを学校と保護者、地域住民が共有し、その実現や解決に向けた取組について話し合います。

保護者や地域住民の声を学校運営に生かすことで、地域と一体となって「特色ある学校づくり」を進めることができます。





課題

○保護者へのコミュニティ・スクール（CS）周知

- ・ 保護者への調査では、CSの定義の理解に関する項目において、約10Pt上昇してはいるものの、肯定的回答は約4割と他の項目と比較して未だ低い状況となっています。一方で、「学校が地域人材や素材を積極的に活用した教育活動を行っているか」の項目では、令和2年度から8割以上の高い値で推移しています。
- ・ CSの導入によって、これまで以上に地域人材や素材の活用による教育活動の充実が図られている現状が、保護者にまで届いていないと推測されます。学校と協議会が連携し、PTA総会などを活用してCSの制度や取組を説明するなど、より一層の周知啓発に努めていくことが必要だと考えます。

○地域と子供との関わり

- ・ 学校の取組では、地域のボランティア活動への参加促進の項目において、肯定的回答をした小学校は約35%、中学校は約71%で約19Pt上昇しています。
- ・ 保護者への調査では、地域との関わりに関する項目「地域の中で子供が育てられていると感じているか」「体験活動や地域ボランティア活動などへの参加を子供に促しているか」の項目に肯定的回答をした保護者は、6割～7割台となっております。令和2年度のG1と令和4年度のG2の同一学年を比較すると、小中学校ともに7～11Ptの低下が見られます。
- ・ コロナ禍のため、地域の祭りやイベントが数年開催されなかったり、ボランティア活動への参加が難しくなったりしている影響から、地域と子供との関わりが希薄になっていると感じている保護者が多いと推測されます。

浜松市のCSの3つの特徴

①学校支援コーディネーターの配置

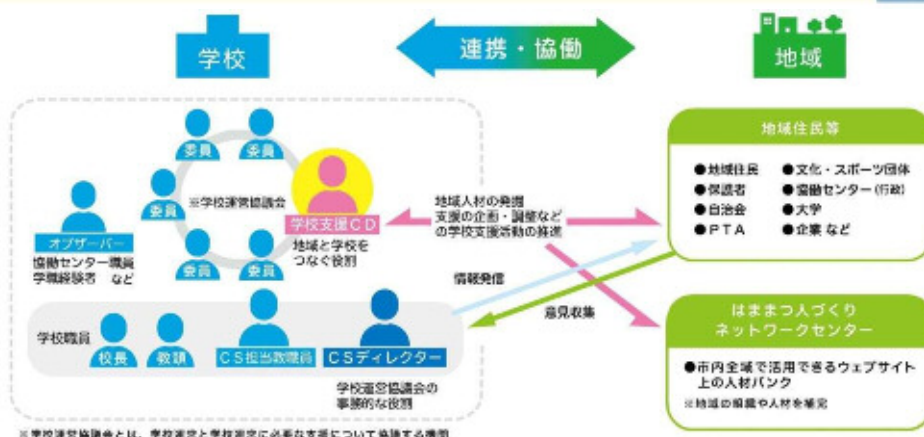
学校運営協議会で熟議した「学校運営に必要な支援」を実現するため、地域人材の発掘、支援の企画・調整などを行います。

②CSディレクターの配置（任意）

CS導入により増加する教職員の業務負担を軽減するため、学校運営協議会の会議運営にかかる事務作業を担います。また、学校運営協議会に関する情報発信や、保護者・地域住民からの意見収集を担います。

③はままつくりネットワークセンターによる補完

学校支援活動（講座）を実施できる団体・個人を登録して、ウェブサイト上で公開し、学校支援活動を行う地域人材を補完します。



3 重点施策に関する調査結果の分析

児童生徒及び教員、保護者、地域住民に対して行った実態把握調査のうち、重点施策に係る施策1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」、施策3-3「情報社会を生きる能力の育成」、施策7-2「地域との連携・協働の推進」について、静岡大学教育学部講師 村井大介氏に分析・検証していただきました。

《検証の方法》

教員、児童生徒及び保護者、地域住民に対して行った実態把握調査では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の4件法での回答となっており、前者2つを「肯定群」として集計しています。

今年度は、「令和2年度との比較」と「成果指標の達成校と未達成校の比較」の観点から分析しました。「令和2年度との比較」では、同グループ内の経年での比較、異年度同学年の比較の2種類を行いました。「成果指標の達成校と未達成校の比較」は、一昨年度、昨年度と同様に、各施策の成果指標を達成した学校の特徴を把握するために、各成果指標の達成校と未達成校を比較し、 χ^2 検定※1で有意な差（5%水準）が生じている項目を明らかにしました。

※1 χ^2 検定…2つの変数の間に関係があるかどうかをみる分析法

(1) キャリア教育

施策1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」における分析は以下のとおりです。

ア 令和2年度との比較

【表1：同一グループでの経年比較（児童生徒質問）】

成果指標	目標値 (R6年度)	肯定的回答割合の割合〈校種別〉			
		G1 小学校		G1 中学校	
		R2(4年)	R4(6年)	R2(1年)	R4(3年)
どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか／将来の夢を持っていますか	90%	91.8%	87.7%	78.6%	67.5%
自分にはよいところがあると思いますか	85%	83.7%	77.8%	77.9%	78.0%
自分のよいところを生かしながら活動していますか	80%	81.2%	75.6%	72.9%	73.7%

【表2：異なるグループの異年度同一学年の比較（児童生徒質問）】

成果指標	目標値 (R6年度)	肯定的回答割合の割合〈校種別〉			
		小学校		中学校	
		G1 R2(4年)	G2 R4(4年)	G1 R2(1年)	G2 R4(1年)
どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか／将来の夢を持っていますか	90%	91.8%	89.3%	78.6%	71.7%
自分にはよいところがあると思いますか	85%	83.7%	80.1%	77.9%	74.3%
自分のよいところを生かしながら活動していますか	80%	81.2%	81.6%	72.9%	72.1%

【表1】

令和2年度と比べ、令和4年度は、肯定的回答の割合はいずれも減少しました。

また、中学校の結果が、小学校の結果よりも低くなっていることからもうかがえるように、児童生徒の発達段階による影響が考えられます。

【表2】

令和2年度（対象：G1の小学4年生及び中学1年生）と比べ、令和4年度（対象：G2の小学4年生及び中学1年生）は、肯定的回答の割合はいずれも減少しました。

同学年であるため発達段階の影響は関係していませんが、令和2年度と令和4年度の新型コロナウイルス感染症等による社会状況の違いを反映している可能性が考えられます。

イ 成果指標の達成校と未達成校の比較

【児童生徒】

成果指標「どんな大人になりたいのかという目標をもっていますか」「自分にはよいところがあると思いますか」「自分のよいところを生かしながら活動していますか」において達成校と未達成校とで有意差が見られた児童生徒の他の項目

他の成果指標

- ・自分が決めたことは最後までやりとげるようにしていますか
- ・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか
- ・地域や社会をよりよくすることを考えることがありますか

他の質問項目

- ・キャリア・パスポートを活用したことで、新たな学習や生活の意欲につながったり、将来の生き方を考えたりすることができたと思いますか

【教員】

成果指標「自分にはよいところがあると思いますか」「自分のよいところを生かしながら活動していますか」において達成した中学校と未達成の中学校とで有意差が見られた教員の項目

- | |
|---------------------------------------|
| ・自校のキャリア教育で育てたい力を子供と共有し、実践していますか（中学校） |
|---------------------------------------|

児童生徒の実態把握調査の結果では、成果指標の達成校は、他の成果指標においても優れたあらわれがみられました。また、成果指標の達成校は、未達成校よりも、児童生徒がキャリア教育について理解し、意義を実感していることがうかがえます。

教員の実態把握調査の結果では、キャリア教育に関する3つの成果指標の達成校と未達成校とでは、顕著な差のみられた項目は一部の項目に限られました。このことは、成果指標の達成校も未達成校も、教員は同等の高い意識をもって実践していることを示していると推察されます。

今後、教員の意識に留まらず、児童生徒がキャリア教育の意義を実感できるようにしていくことが、より重要であると考えられます。

(2) 教育の情報化

施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」における分析は、以下のとおりです。

ア 令和2年度との比較

【表3：同一グループでの経年比較（児童生徒質問）】

成果指標	目標値 (R6年度)	肯定的回答割合の割合〈校種別〉			
		G1 小学校		G1 中学校	
		R2(4年)	R4(6年)	R2(1年)	R4(3年)
自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞にまとめ発表することができますか	70%	66.1%	81.6%	71.8%	80.4%
インターネットやゲームをする（情報をやり取りする）ときのルールやマナーを守ることができますか	100%	89.2%	91.0%	96.2%	98.0%

【表4：異なるグループの異年度同一学年の比較（児童生徒質問）】

成果指標	目標値 (R6年度)	肯定的回答割合の割合〈校種別〉			
		小学校		中学校	
		G1 R2(4年)	G2 R4(4年)	G1 R2(1年)	G2 R4(6年)
自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞にまとめ発表することができますか	70%	66.1%	70.0%	71.8%	77.1%
インターネットやゲームをする（情報をやり取りする）ときのルールやマナーを守ることができますか	100%	89.2%	91.0%	96.2%	97.1%

【表3】 【表4】

すべてにおいて値が上昇しています。

施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」は、この3年間で大きく向上したと考えられます。

【表5：授業でのタブレット端末の使用に対する実感（生徒質問）】

質問項目	達成校（肯定的回答割合の割合〈中学校〉）			
	G1の経年比較		異年度同一学年の比較	
	R2(1年)	R4(3年)	G1 R2(1年)	G2 R4(1年)
タブレット端末を使う授業はわかりやすいと思いますか	92.8%	86.1%	92.8%	84.4%

【表5】

中学校では、ICTを活用する授業のわかりやすさにはつながりにくくなっていることを示しています。

ICTの活用が高度化・複雑化している可能性があると考えられます。

イ 成果指標の達成校と未達成校の比較

【児童生徒】

成果指標「自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができますか」において達成校と未達成校とで有意差が見られた児童生徒の他の項目

- ・情報を活用した場面（情報を集める・まとめる・発表する）を振り返り、次にやってみたいことを考えることができましたか／よりよい活用方法を考えることができましたか
- ・授業では、課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、振り返ったことを次に生かしたりしていますか

成果指標「インターネットやゲームをするとき（情報をやり取りするとき）のルールやマナーを守ることができますか」において達成校と未達成校とで有意差が見られた児童生徒の他の項目

- ・自分で決めた時間に勉強していますか（自分で計画を立てて勉強していますか）
- ・自分の考えや思いを、パソコンを使った資料や新聞などにまとめ発表することができますか

【教員】

成果指標を達成した小学校と未達成の小学校とで有意差が見られた教員の項目成

- ・教科指導において、単元の中で計画的に子供がタブレット型端末を活用する授業を実施している（小学校）
- ・授業において、ICT支援員を活用している（小学校）

児童生徒については、ICTが学習のまとめや発表だけでなく、次につながる情報の活用の仕方の振り返りまで学習がなされていることを示しています。また、インターネットやゲーム、情報のやり取りを守ることが学びの自己調整につながっている可能性があることがうかがえます。

小学校の教員については、上記に挙げた項目以外にもキャリア教育に対する質問項目でも有意な差がみられました。キャリア教育が「情報社会を生きる能力の育成」と結びついて取り組まれている可能性も考えられます。

保護者については、達成校と未達成校の間で、施策 3-3 に関連する項目に有意な差は見られませんでした。

(3) コミュニティ・スクールの推進

施策 7-2「地域との連携・協働の推進」における分析は、以下のとおりです。

ア 令和2年度との比較

【表6：経年比較（地域住民質問）】

成果指標	目標値 (R6年度)	達成校（肯定的回答割合の割合〈校種別〉）			
		小学校		中学校	
		R2	R4	R2	R4
学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか	95%	94.4%	96.1%	87.7%	91.9%
地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか	80%	89.9%	88.3%	91.5%	88.8%

【表6】

「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか」については、小中学校とも肯定的回答の割合は増加しています。

一方で、「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか」については、肯定的回答の割合は減少しています。

イ 成果指標の達成校と未達成校の比較

【児童生徒】

成果指標「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか」「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか」において達成校と未達成校とで有意差が見られた児童生徒の項目
・学習ボランティアなど、地域の人が学習に関わってくれていると思いますか

【教員】

成果指標「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか」「地域には、ボランティアで学校を支援するなど、地域の子供の教育に関わってくれる人が多いと思いますか」において達成校と未達成校とで有意差が見られた教員の項目
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や素材の活用により、教育活動が充実している <p>《小学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のねらいに基づいた、保護者や地域の人材を活用する授業を実施している、または予定している ・保護者や地域住民の学校支援活動により、子供と向き合う時間の確保につながっている <p>《中学校》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が地域の魅力を発見する、または、地域の将来を考える機会を設けている

【保護者】

成果指標「学校は、地域の人材や素材などを積極的に活用した教育活動を行っていると思いますか」において達成校と未達成校とで有意差が見られた保護者の項目
<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる地域の行事に参加するようお子さんを促していますか ・体験活動や地域のボランティア活動などへの参加をお子さんに促していますか

成果指標の達成校では、未達成校と比べて、地域住民だけでなく、児童生徒や教員、保護者も地域との連携・協働を実感できていると考えられます。

中学校では、生徒の地域行事への参加の項目にも差がみられました。

地域の人材や素材を活用したり地域に参画する機会を設けたりする教員の授業での取組や、子供へ地域活動への参加を促す保護者の声かけも重要であると考えられます。

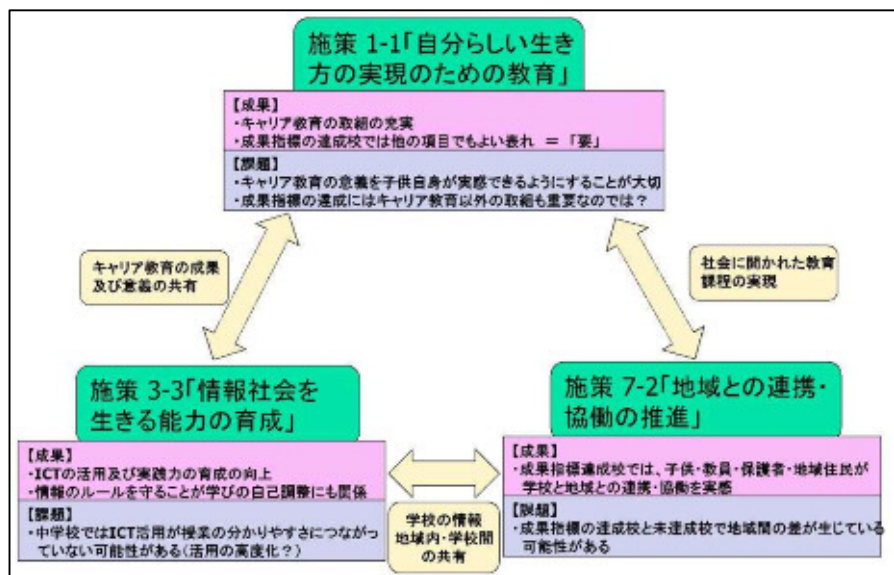
(4) 全体のまとめ

今回の調査結果では、施策1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」の成果指標の達成校の児童生徒は、未達成校の児童生徒より、他の成果指標においても優れたあらわれを示していました。

キャリア教育を軸とした「自分らしい生き方の実現のための教育」は、他の成果指標を達成する上でも要になると考えられます。

図1で示したとおり、今後の取組の中で、各施策を関連づけながら「キャリア教育の成果及び意義の共有」「社会に開かれた教育課程の実現」

「学校情報の地域内・学校間での共有」を意識して進めていくとよいと考えます。



【図1：3つの施策の成果・課題・相互関係】

IV 教育長・教育委員、有識者の意見

1 教育長・教育委員の意見

宮崎 正 教育長

本年度の課題の一つであるいじめ防止対策については、「浜松市いじめの防止等のための基本的な方針」の改定、各学校における「いじめ防止等のための基本的な方針」の見直しなどにより、いじめ対策に関する校内体制の整備が図られ、来年度以降の充実した取組が期待されます。

また、本年度、教員免許更新制が廃止され、主体的な姿勢で学び続ける教師が求められる状況において、希望研修や自主研修への参加が著しく伸びたことは良い傾向です。

キャリア教育の推進については、教科学習や教科外での指導の充実が図られました。今後は、保護者も巻き込んだキャリア・パスポートの有効な活用に努める必要があります。教育の情報化については、ICT活用の充実が図られる中、特に、「SNSノートはままつ」等を用いた情報モラル教育の実施が高まったことは評価できます。コミュニティ・スクールについては、地域人材を活用した授業や学校運営の改善等、コミュニティ・スクールが定着し始めましたので、今後、学校・地域の特色がどのように生かされていくか期待しています。

令和5年度に向けて、本年度の成果と課題をもとに、三つの柱のかかわりについても検証する必要があると考えます。

安田 育代 委員

第1回移動教育委員会では、外国人児童生徒の指導を担当している先生方と意見交換をしました。個々の考え方を伺い、まさに個別最適な学びを保障しようと努力されていることがわかり、頼もしく感じました。

また、第3回では市民の皆様からICTの活用について学校間、教師間で大きな差があるのではないかと、オンライン授業を実施できないか等のご意見をいただきました。先生方にあれもこれも望むことはとても苦しいことですが、こういう声があることは受け止めなければなりません。そして、こういう声に応えるために教育委員会がどんな支援をしていくのか議論することの必要性を感じています。

総合教育会議では「いじめ問題への対応」「放課後の居場所づくり」等を議論しました。子供も先生も楽しく充実した学校生活を送るために、人員配置や業務削減等、知恵を出し合わなければなりません。教育委員として微力ながら努めていきたいと思えます。

黒柳 敏江 委員

コロナ禍で脅かされた学校生活もようやく落ち着き、子供たちに活力と笑顔が戻ってきたことに大変うれしく思います。

今年度の総合教育会議では、その子供たちの放課後の居場所づくりについて議論しました。保護者のニーズに合わせた子供の居場所づくりを地域と連携して、さらなる議論を重ねていく事が必要だと感じました。

また、ICT教育に関しましては、導入から約3年が経ち、各学校での取り組みが見られ、様々な観点から期待が寄せられています。まだ、学校間での温度差はありますが、個別最適な学びの支援として充実した活用ができるよう期待しています。

私自身、教育委員として5年が過ぎました。自身の姿勢を見直すと共に「浜松市の目指す子供の姿」を常に念頭に置き、より一層職務に励みたいと思います。そして、学校・保護者・地域の声に耳を傾け更なる教育の推進に尽力していきたいと思えます。

田中 佐和子 委員

いまだ教育活動に制約の多い状況の中、子供達に寄り添っていただいた皆様に感謝申し上げます。

コミュニティ・スクールやキャリア教育では、学校の独自性と主体性を尊重しつつ、今後ますます共通理解が図られていくことを期待しています。「リアル」な人間関係を築く上では、家庭や地域との連携が大切であると感じています。ICT教育においては、今後、対面の機会が増え、授業改善や働き方改革の観点から、取り組みを推進していただきたいと思えます。

一方で、昨今の「コロナ禍」での子供達の抱える潜在的な問題を把握し、喫緊と思われる事柄に対する感度をどのように高めていくのか、その在り方に目を向けていかなければならないと感じています。

また、移動教育委員会における保護者や先生方の貴重な意見に対しては、丁寧に回答・対応することが必要だと思えます。

今後も、教育の現況を見据えて見識を深め、努めて参りたいと思えます。

神谷 紀彦 委員

ビジネスの世界では、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一、生き残るのは変化できる者である。」というダーウィンの言葉が頻繁に使われます。

私たちを取り巻く環境は、かつてないほどのスピードで、経験したことがないほどの大きな変化をしています。

しかしながら、子供たちが学ぶ学校現場や教職員の働く環境などは、そのスピードと比較して残念ながらとても遅く環境に適応しているとは言えない状況です。問題が起きてから対処したり、ただ単に指示を待たたりするだけではなく、子どもに近い現場で判断し、もっともっと大胆でスピードのある変革が必要だと考えます。

また、会社経営とは異なり効率性や生産性を求めない教育界で、より一人ひとりにあった教育を実施するには、学校が何のために存在するのか、先生はどんな役割を果たすべきなのか深く考えることが大事かと思われます。

鈴木 重治 委員

教育委員として2年目となりました。

「第3次浜松市教育総合計画 後期計画『はままつ人づくり未来プラン』で触れられている施策、今の教育が抱えている課題を解決することの必要性を実感しています。

日本の教育現場では、いじめや不登校、発達支援教育といった子供に関する課題、労働時間などの教職員に関する課題、時代の進歩に応じた教育に関する課題などの様々な課題を抱えています。これらの課題に優先順位は付けられないとは思いますが、教員の働き方改革を迅速に進めることが、人格を形成し、社会を担う力を持った人を育てるためには不可欠であると考えます。

教員の多忙化を解決し、教員の質を低下させない、教員の不足を招かないようにしなければなりません。児童生徒と教員、さらに、教育委員会、保護者、地域が一体となって、教員の働き方改革を進めることができるよう努力していきたいと思えます。

2 有識者の意見

はままつ人づくり未来プラン推進委員会（総括）

文部科学省 国立教育政策研究所 初等中等教育研究部長 藤原 文雄 氏

児童生徒に育成すべき資質能力について、現行の学習指導要領は「これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにする。」と述べています。すなわち、豊かな人生と持続可能な社会の創り手としての資質能力を育成することが学校の任務です。

こうした豊かな人生と持続可能な社会の創り手としての資質能力の育成に向けて、浜松市教育委員会が重視している、①キャリア教育、②教育の情報化、③コミュニティ・スクールという三つの取組は今後とも重要であり、是非その推進に努めていただければと思います。

① キャリア教育

キャリア教育とは、将来自分らしい人生を実現する力を育成することを念頭に教育を行うことです。自分らしい人生を実現するとは、夢（目標）の実現に向け、自分の強みを生かし、他者と協働して努力し、強みを高めていくことです。そのためには、夢を膨らませるとともに、夢を実現する力を高める努力が必要です。キャリア教育の推進においては、多くの人とのかかわりが有効ですが、コロナ下においては、他者とのつながりが減少したことにより、キャリア教育の推進が難しい時期がありました。今後は、離れていてもつながることを可能にするICTを活用して、児童生徒の他者とのつながりを豊かにし、キャリア教育の充実を図られることを期待します。

② 教育の情報化

GIGAスクール構想により実現したネットワークに接続された1人1台端末は、豊かな人生と持続可能な社会の創り手としての資質能力の育成において大きな力を発揮するものです。端末は、授業改善や生徒指導改善の手段であり、使用すること自体が目的ではありませんが、導入されたばかりの今日においては、学校における端末活用の量的拡大を図りながら、質的向上を図ることが必要です。そこで、教員が端末を活用した授業や生徒指導のイメージを理解できるよう工夫するとともに、学校における様々な取組を共有する仕組みや、全市的にGIGAスクール構想を総括する責任者を明確化するなどの機構改革等を進め、改革をより加速化させることを期待します。

③ コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールは、学校運営協議会を設置することによって、児童生徒のためによりよい意思決定ができる、地域の教育資源を生かしたよりよい教育が実現する、対話を通じて学校、保護者、地域住民の役割分担を見直す、などの成果を目指すものです。コミュニティ・スクールという手段を活用して、これまでの教育の在り方を見直し、持続可能な教育を創造し、地域創生につなげていただくことを期待します。

以上の取組はあくまでも手段です。児童生徒に豊かな人生と持続可能な社会の創り手として資質能力を育むべく、児童生徒にかかわる大人自身が「創り手」として活躍できるような条件整備にも積極的に取り組んでいただけることを期待しています。

「キャリア教育、コミュニティ・スクール」推進部会

筑波大学 人間系教授 藤田 晃之 氏

まず、「第15回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA 団体等文部科学大臣表彰」の受賞校として浜松市立細江中学校が選定されましたことに心からご祝辞を申し上げます。

細江中学校では、これまで学校教育目標「夢実現へ挑戦する生徒の育成」の具現化に向け、生徒の皆さんの実態に即してキャリア教育で育てたい力を明確にし、全体計画、年間指導計画をもとにすべての教育活動を通してキャリア教育の実践を重ねていらっしゃいました。このような取組を可能とするキャリア教育推進体制を構築し、PDCAサイクルを確立させた上で不断の評価・改善を継続されていることが高く評価されています。また、学校運営協議会を中核とした地域連携の枠組みを活用しつつ、地元企業・大学・自治体と連携した「ふるさとキャリア教育」の実践を続けていらっしゃることは、社会との連携及び協働により各学校の教育理念・目標の実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」を具現化したものであり、全国的にも注目されるべき取組であると確信いたします。

浜松市において細江中学校のような優れた取組が継続的に可能となる背景には、浜松市が独自に選任している「キャリア教育推進教師」の存在が大きく貢献しているものと存じます。一人一人の児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図るためには、全校的な体制作りが不可欠であるにとどまらず、管理職との緊密な連携の下で中核として全校を牽引する「キャリア教育推進教師」の存在が極めて重要です。今後、この浜松市独自の「しくみ」の成果と課題を分析し、広く発信して下さることを強く期待しております。

最後に、「令和4年度 評価・検証報告書【資料編①】」に示された、市内各学校のキャリア教育実践の成果に触れたいと存じます。各調査項目に対する肯定的回答割合の前年度調査からの増減率を拝見しますと、新型コロナウイルスの全国的な感染拡大の波が繰り返される中であって、小学校・中学校ともに増加している項目が多く見られたことは特筆されるべきであると存じます。例えば、「キャリア教育年間指導計画に位置付けられている教科学習や教科外活動の中で、子供にキャリア教育で育てたい力を育む指導を行った」の肯定的回答率は、令和2年度72.2%、令和3年度82.6%でしたが、令和4年度には90.3%となっています。また、「子供が、新たな学習や生活の意欲につながり、将来の生き方を考えたりすることができるよう、キャリア・パスポートを活用した」については77.8%→84.0%→93.1%、「家庭や地域と連携・協働しながら、キャリア教育を推進した」については33.3%→40.3%→51.4%とそれぞれ大幅な増加となっている点も広く注目されるべきであると考えます。

困難な状況の中にあっても、市内各学校の先生方の真摯なキャリア教育実践は一層充実してきています。令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行されることを受け、学校教育活動の在り方も新たな局面を迎えることとなります。「ウィズ・コロナ」ともいうべき時代の中で、キャリア教育の実践方策についても各学校・地域での創意工夫が一層必要となるでしょう。キャリア教育推進教師の先生方を中核としつつ、市内各学校でキャリア教育の更なる活性化が図られますことを心から願っております。

「キャリア教育、コミュニティ・スクール」推進部会

特定非営利活動法人スクール・アドバイザー・ネットワーク

理事長 生重 幸恵 氏

去年の出生数が80万人割れで過去最小となり、「危機的な状況であると認識」と政府の発表がメディアで連日流れています。

この問題はかなり以前から取り組むべき問題として議論されてきたはずです。

2004年の国民生活白書で、当時の合計特殊出生率の1.29が続くと西暦3300年には日本人は0になると試算されており、国として効果のある政策と予算増は必須であるとともに国民一人一人が我が事として議論して考えていくことが必要となります。

なぜ少子化の問題を取り上げたかという、子供を産みたくなる地域と関連するからです。乳児から幼児教育、義務教育と子供の発達段階と関わる大人の存在と地域活動は深く関わりがあり、令和の子育てには欠かせない環境を提供することが大切だからです。

特に、学びを深めていく義務教育の9年間で、いかに効果があるかという事を考えていただきたいと思います。

地域とともに協働することで安心・安全で魅力のある学びの場が提供されることで子供達の成長により影響が現れてきます。

コミュニティ・スクールになるということは、一緒に考え、行動するパートナーを得ることです。

コミュニティ・スクールは、魅力ある学校経営を実現していくことです。

社会とつながり、地域住民の協働していく学びを経験することは児童、生徒の自尊感情、自己効力感を高め、生きる力を育みます。

浜松市では、いち早く教育委員会がリードする計画的な関わりが出来たことで実施校の数も飛躍的に伸び、それぞれの学校の特性を活かした活動となっています。

合わせて学校運営協議会設置校にアンケートを通して効果測定をしてきたことで、年々理解が進み、効果の確かさが実証できています。

一点気掛かりなことは、関係者の熱心な活動を保護者の多くが、よくわかっていないのではないかということです。次年度は、学校教育の特色とそこに熱心に関わるコーディネーターの頑張りを広く伝えていくという課題に取り組むべきだと思います。

保護者や地域が興味を持ち、理解を進めていくことが今後のコミュニティ・スクールへの意識が定着して子供を産みたい、育てたい地域作りにつながると考えます。

「教育の情報化」推進部会

静岡大学 教育学部 准教授 塩田 真吾 氏

2022年度は、多くの小中学校で1人1台端末を「使い始めた」年度であったと言える。今年度の実態把握調査結果を見てみると、「教科指導において、単元の中で計画的に子供がタブレット型端末を活用する授業を実施している」という質問に対して、「1回以上」と回答した割合は、R3:69.7%→R4:80.2%と増加している。特に中学校において「1回以上」と回答した割合は、R3:52.2%→R4:68.3%と大きく増加している。小学校でも中学校でも1人1台端末の活用が広がり、定着してきたという点は高く評価できる。

また、それに合わせて情報活用能力の育成、特に情報モラル教育の実施が広がっていることも高く評価できる。取組状況調査結果では、小中学校の情報モラル教育の実施率に関する項目において、R2:63.2%→R3:86.8%→R4:96.5%と実施が広がっている様子が見てとれる。今後も情報モラル教育を含む浜松市情報活用能力育成目標の着実な実施に期待したい。

一方、1人1台端末をただ「使う」だけでなく、「使いこなす」という点については課題も見られる。例えば、児童生徒への調査結果を見てみると、「タブレット型端末（タブレット）を使う授業はわかりやすいと思いますか」に対しての肯定的回答では、全体でR3:90.4%→R4:88.0%、小学校でR3:90.9%→R4:89.8%、中学校でR3:89.8%→R4:86.1%と減少傾向が見られる。特に、同一学年（中学1年生）での比較ではR2:92.8%→R4:84.4%と減少が明らかである。

1人1台端末の活用が広がり、定着してきた一方で、1人1台端末を活用した授業への目新しさがなくなった今、子供たちのシビアな意見に耳を傾け、授業でただ「使う」だけでなく、いかに目的を持ってどう「使いこなす」か、今後の教師と子供のICT活用についての取組に期待したい。

資料2 実態把握調査をもとに

第2章 教員への調査

施策1 自分らしさを大切にする子供を育てます

(1)～(5)については、肯定的な回答の割合が高く、前年度比についても上昇していることは評価できる。

しかしながら(6)子供が、子供同士や大人(教員・保護者等)と対話的に関わり、成長を促すことができるようキャリア・パスポートを活用している、については肯定的回答の割合が低い。中学校においてはここ3年間60%台である。

ここでの質問は、「子供が大人と対話的に関わり」と「キャリア・パスポートを活用する」ことの2要素が盛り込まれているが、どちらが影響しているのかデータからは読み取れない。

前述の(1)～(5)における肯定的な回答を支える教育活動及びその効果は、キャリア・パスポートの活用によるものではないことが考えられる。検証の必要があるのではないかと。

資料2(P25(3))の結果にも反映していると思われる。

施策3 これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供を育てます

施策3に該当する(10)～(24)については、肯定的回答の割合が80%～95%と十分に高い。しかし、いずれの項目も4件法の肯定的2番目(どちらかといえば当てはまる)の割合が40%後半から50%後半となっている。最も肯定的回答(当てはまる)の割合が低い。したがって総合の割合は「当てはまる」の高低に左右されていると言える。

本来は、施策の実施をとおして「当てはまる」の割合を高くしていかななくてはならない。そのための具体的な働きかけは妥当なものか、検証する必要がある。

一方、(25)いじめはどんな理由があってもいけないことだと指導している、については「当てはまる」の割合が非常に高く、肯定的回答の割合のほとんどを占めている。「どちらかといえば当てはまる」をさらに減らしていきたい。(26)についても同様と考える。

施策4 一人一人の可能性を引き出し伸ばします

(30)は、肯定的回答の割合が高い。質問項目(資料1、P14)をみると「支援が必要な子供に対するフォローアップ的な事柄」に関する質問が半数以上を占めている。「子供のよい現れを情報共有すること」等は挙げられているものの、「可能性を伸ばす」ことについて何ら具体的な質問項目がない。施策として働きかけができていないことを表しているのではないかと。

施策5 園・学校や教職員の力を向上させます

資料2、P18(35)についても、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が12.2%もある。研修を受講していない教職員がいることを表しているのか、研修そのものに疑問を抱いているのか、いずれかを表していると思われる。この項目は12.2%について注視すべきだ。

第3章 児童生徒への調査

資料2、P43 施策3(21)いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

非肯定的回答の割合が4.6%は悲しい結果といえる。(22)先生に相談しやすいですか、については非肯定的回答の割合が30%を超える。具体的な対策が必要と思われる。

「教員育成」推進部会

浜松学院大学 現代コミュニケーション学部 教授 竹本 石樹 氏

1. 取組状況と教師のアップデート

未来を創造できる子供、すなわち「自分らしさを大切にする子供」「夢と希望を持ち続ける子供」「これからの社会を生き抜くための資質・能力を育む子供」を市民が協働して育成する取組が「はままつ教育」です。「はままつ教育」の第3次計画は、前期から後期を経て、その取組が年々充実し、全体的に見れば、取組状況は良好であると捉えることができます。

さて、このような表れが見られるのは、日々子供たちと向き合い、地道な教育活動を続けておられる教師の力によるところが大きいのではないのでしょうか。本部会で検討してきた教師の養成や育成は、取組状況の充実度に直結すると考えます。取組状況をさらに充実させるためには、教師が自身をアップデートし続け、新しい視点を持って「はままつ教育」を推進していくことが大切だと考えます。新しい視点を持つ教師は、子供のために何をすればよいのか、子供をどのように育てていけばよいのかを自律的に考えるからです。

2. アップデートできる教師へ

私は、Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学・ものづくり)、Art (芸術・リベラルアーツ)、Mathematics (数学) を総合的に学ぶ STEAM 教育について研究しています。STEAM 教育の究極のねらいは、子供たちが 21 世紀を生きる力を育てることであり、「はままつ教育」で言えば、「自分らしさ」「夢や希望」「資質・能力」を育てることになるでしょう。STEAM 教育は、子供を育てる大きな可能性を有しますが、教師が新しい視点を持って取り組むことが難しいようです。実際、私が視察した STEAM 教育先進地の国々においても教師のアップデートが進まなかった場合、創造的な取組が実現しないことがあるようでした。

アップデートできる教師とそうでない教師の違いは何なのでしょう。STEAM 教育先進地のリーダーたちからは、頻繁に「マインドセット (Mindset)」というワードを聞きました。これは、簡単に言うと、人がそれまでの経験の中で培ってきた思考様式です。キャロル S. ドウエックは、グロースマインドセット (Growth Mindset) とフィックスドマインドセット (Fixed Mindset) の 2 つを紹介しています。前者は、能力は努力することで伸びるという思考様式です。そして、このような Mindset を持っている人は、成長意欲や向上心があり、自律的に課題に向き合うことができます。一方、後者は、持って生まれた能力は変化しないと考える思考様式です。この Mindset を持っている人は、挑戦を避けたり、できないとすぐに諦めたりしてしまいます。

浜松の教師には、グロースマインドセットを持ってほしいと考えます。常に自身をアップデートし、「はままつ教育」をさらに推進していく教師になってほしいです。まさに「やらまいかスピリット」です。

3. グロースマインドセットと「教員育成指標」

本部会で検討してきた「教員育成指標」には、自身をアップデートする方向性が示されています。是非、それを参考にし、グロースマインドセットを持って、自分自身に必要なアップデートをしてほしいと思います。また、教師に共通的に求められる資質の具体的内容として新たに「ICT や情報・教育データの利活用」、「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」が加わりました。これは、今後の「はままつ教育」において重視すべきことです。これについてもグロースマインドセットを持った教師へのアップデートを期待します。

引用：キャロル S. ドウエック『マインドセット「やればできる！」の研究』(草思社)

「学校における働き方改革」推進部会

常葉大学教職大学院 教授 紅林 伸幸 氏

2022年度、学校現場は、2019年から続くコロナ禍がワクチン接種の普及やウイルスの度重なる変異により重症化の抑制が可能になった一方で、感染者の規模が拡大し、子どもたちの感染が増加するとともに、育児期にある多くの教職員が感染者・濃厚接触者として欠勤しなければならなくなるという不安定な一年を送ることになった。感染者を出さない対応から、感染者に対応する「Withコロナ」への転換に、柔軟に対応し、ほぼ例年通りの教育効果を上げてきた学校現場に、心から敬意を表したい。

筆者が静岡県教育委員会と共同して行った働き方改革に関する調査結果によれば、教師の多忙は、業務の絶対量と現場でのイレギュラーな業務や不測の事態への対応の二つによって生じている。この1年の学校現場の状況は、まさにイレギュラーな業務や不測の事態への対応が常態化した状況だったと言える。本報告書における浜松市の業務量調査によれば、教育効果も業務改善も飛躍的な向上よりは、概ね昨年通りと言える結果がでていますが、上記の状況を勘案するならば、間違いなく学校現場の底力を示してくれたものと理解することができるだろう。

さて、2022年度浜松市の「学校における働き方改革」は、二つの大きな課題に向けてのものであった。一つ目は教育効果を維持向上させる働き方改革の実現であり、二つ目は2017年から進めてきた働き方改革の客観的な検証である。一つ目については、キャリア教育の推進を軸に、ICTの積極的活用や地域連携型の学校運営の実現を図ってきた。二つ目については、(株)ガバメイツと遠鉄システムサービス(株)の2社と「市立小中学校の業務量調査等に関する連携協定」を結び、調査の実施と共に、その結果の第三者的な評価を委託した。これらの取組において興味深い示唆が得られた。

まず、一つ目については、報告には、教育委員会が推進している教育課題に関して一定の成果があり、教育現場がそれらの課題に向けて積極的に取り組んだ姿が示されている。ただし、そのことに伴って研修の必要と一定の業務量の増加も確認される。それらの負担増は一時的なもので、現場の対応が常態化すれば落ち着くだろう。しかし、新しい教育課題が出てくれば同様の対応が求められることが予想され、不断の更新が求められる教育現場では同じ状況が繰り返されていくと思われる。調査結果には、研修を個人対応・自己責任で行う研修履歴管理システムへの移行が進められていることも示されているが、こうした個人の資質能力の向上に関わる研修と、現場の教育改善という組織的に焦点化すべき教育課題への研修の二つをどのようにバランス良く実施していくかは、大きな課題となるだろう。

二つ目については、調査研究の専門機関が関わってくれたことで、ビッグデータ型のデータ分析が可能になったことを高く評価したい。教職員の多忙の原因は、一対一の原因—結果関係で成り立っているわけではない。原因も、結果も、複合的に成り立っている。こうしたものを読み解いていくためには、多くのデータを複合的に取り扱い、総合的に判断するビッグデータ型の分析が必要である。縦割りの断片的なデータの取り扱いをするのではなく、専門機関が一括して総合的にデータを取り扱った今回の試みは、今後も定期的の実施していく必要があるだろうし、今回の実施をモデルとして同水準の調査の実施や考察のより一層の充実、結果の現場への還元がスムーズに進められるように、今後の調査の実施計画の見直しを図ることも必要だろう。

教職員の多忙は様々な要因が絡んでいる。ある結果が別の多忙の要因になるという連関も生じる。これは、「学校における働き方改革」が多面的に取り組まなければならない課題であることを意味する。それを実現するためには、現場がこの問題に全体的に取り組む姿勢を共有することが必要だ。教職員、学校関係者が共有しているもの、それは「子供たちのために」という思いだ。「子供たちのために」という目的のために実現すべきことが、「時間を減らす」ことではなく、「時間を作る」ことであることは明らかだ。子供たちのために、時間を作り、教育を充実させ、問題が起これらならないような学校にすることを目指して、学校、保護者、地域が一体となって、キャリア教育の推進、ICTの積極的活用や地域連携型の学校運営の実現を図っていきたい。

「評価・検証推進部会」

静岡大学 教育学部 准教授 島田 桂吾 氏

令和4年度の「はままつ人づくり未来プラン」(以下「未来プラン」)における評価・検証部会は、令和5年1月30日に開催され、取組状況調査結果、実態把握調査結果及び村井大介氏(静岡大学教育学部講師)による専門的分析結果をふまえ、学校関係職員と保護者代表と現状認識や改善方策について意見交換を行った。今年度の実態把握調査は全校調査の年であり、「未来プラン」の進捗状況をより詳細に把握することができた。また、過去2年間のグループ1(小6、中3)とグループ2(小4、中1)と経年比較ができる工夫もされていた。

教育施策の評価・検証をここまで丁寧を実施していることは賞賛に値する。この結果を学校で活かせるようになるとよいと考えたため、その観点から2点指摘したい。

1. 施策の「つながり」を伝える工夫

今年度の実態把握調査は、キャリア教育、確かな学力の育成、教育の情報化、コミュニティ・スクールの推進、の4施策について、個別に実態把握調査結果をふまえながら意見交換を行った。この中で専門的分析結果から「確かな学力」(特に「学びに向かう力」)や「地域との連携・協働の推進」の各項目の達成には、「キャリア教育への取組が鍵になっている可能性がある」という指摘がなされたことは「重要な発見」であると考えている。つまり、キャリア教育を「確かな学力」(特に「学びに向かう力」)につながるように情報化も適宜活用しながら展開し、コミュニティ・スクールの協議事項でも取り上げることが全体の教育活動の発展につながる可能性が示唆されたといえる。

現在の学校は多くのことを抱えており、教育施策の遂行も個別に対応していると「負担感」や「やらされ感」がまん延していくことが懸念される。そのため、各学校ではキャリア教育を軸としながら施策の「つながり」をもたせる工夫ができるように教育委員会としてできる支援を展開していただきたい。

2. 「評価・検証サイクル」を学校でも活用できる工夫

浜松市は先述のように、取組状況調査結果、実態把握調査結果及び専門的分析を毎年度実施しており、現状認識と改善方策について意見交換を行っている。この規模でPDCAサイクルが機能するシステムを構築したことは評価に値する。資料も実態が詳細に記されており、教育委員会事務局内ではしっかり共有され、各部局の施策の見直しや運用の改善などがはかられており、大変有効であると考えている。

この調査結果について、学校や保護者、地域にも把握してもらう工夫ができるとなるとよいと考えている。『点検・評価報告書』がホームページ等で公開はしているが、大変詳細で行政や議会への説明資料としてはとてもよいと思うが、学校や保護者、地域の立場ではなかなか理解が難しいと思われる。浜松市ではほとんどの学校がコミュニティ・スクールへ移行しつつあるため、学校運営協議会でも協議ができるように『点検・評価報告書』のポイントを絞って学校等へ伝える工夫をご検討いただくと有り難い。

多大な労力をかけて実施した調査の活用方策を関係者間で協議することで、教育施策の改善につながることを期待したい。

今年度の「評価・検証」推進部会では、昨年までと同様に、主に施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」、施策 3-1「確かな学力の育成」、施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」、施策 7-2「地域との連携・協働の推進」に関する実態把握調査の結果を分析し、検証しました。今年度は、成果指標の達成校と未達成校を比較して両者の違いを明らかにするとともに、後期計画の中間年（3年目）として、初年度（令和2年度）との比較を行いました。

施策 1-1「自分らしい生き方の実現のための教育」については、令和2年度より学校でのキャリア教育の取組は大きく向上していました。その一方で、「どんな大人になりたいのかという目標を持っていますか（小学生）／将来の夢を持っていますか（中学生）」「自分にはよいところがあると思いますか」といった成果指標に関する結果は、令和2年度より低くなっていました。この背景には、新型コロナウイルス感染症の影響で地域での活動機会が減ってしまったことも影響していると考えられます。成果指標の達成校の児童生徒は、未達成校に比べて、他の成果指標においても優れた結果を示していました。このようにキャリア教育は学校教育の要になっています。学校内では、キャリア教育の意義を子供自身が実感できるように実践すること、学校外では、子供が夢を持ち、自己肯定感を育むことのできる機会を増やすことが重要になっています。

施策 3-1「確かな学力の育成」についても、成果指標の達成校の児童生徒は、未達成校に比べて、他の成果指標においても優れた結果を示していました。令和2年度よりも、子供が自己の考えを広げ深めることができるように学習過程を工夫する教員の取組が向上していました。成果指標の達成校と未達成校を比べると、小学校では、キャリア教育の取組や、教員・保護者が児童に自分で決めた時間に勉強するように支援することが重要であることがわかりました。

施策 3-3「情報社会を生きる能力の育成」の成果指標に関する結果は、令和2年度よりも大きく向上していました。また、インターネットやゲームをするときのルールやマナーを守ることが、自分の決めた時間に勉強するといった、学習の自己調整につながっていると考えられる結果も見られました。学校でのICT活用が大きく進展する一方で、活用の仕方が高度化しつつあるためか、中学校ではICT活用が授業のわかりやすさには必ずしもつながっていない結果がみられました。ICTを児童生徒の実態や学習の目標にに応じて、適切に使用することが重要になっています。

施策 7-2「地域との連携・協働の推進」については、成果指標の達成校は、未達成校に比べて、児童生徒も、保護者も、教員も、地域住民も、学校と地域との連携・協働が充実しているという実感を得ていることが明らかになりました。地域の人材や素材の活用といった教員の取組だけでなく、地域の行事や活動への参加を促す保護者の声掛けも重要であることがわかりました。

以上のように、今年度の調査では、キャリア教育、教育の情報化、コミュニティ・スクールの推進といった取組が、令和2年度よりも大きく進展していることが明らかになりました。今後は、施策同士を関連づけて高めていくことが重要になると考えられます。例えば、「地域との連携・協働の推進」によって、社会に開かれた教育課程を実現しながら「自分らしい生き方の実現のための教育」を深めることが考えられます。また、ICTとのつきあい方といった「情報社会を生きる能力の育成」により、「確かな学力の育成」にもつながる学習の自己調整力を育み、「自分らしい生き方の実現のための教育」へとつなげていくことが考えられます。「情報社会を生きる能力の育成」を通して、学校での取組を地域内で共有し、「地域との連携・協働の推進」を進めることも考えられます。こうした取組を支える上でも、教員や保護者だけでなく、地域が一体となって、公共の財産として、誰もが教育に関心を持ち、関わる大切になっています。

V 令和4年度の評価と今後の方向性

今年度は、第3次浜松市教育総合計画 後期計画の中間年となることから、第4次計画策定を見据えて市立小中学校の全校を対象に調査を実施し、有識者の意見を踏まえて評価・検証を実施しました。

今年度も、コロナ禍によって行動の制限を受ける中、タブレット型端末の効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実や、コミュニティ・スクールの導入による特色ある教育活動など、計画に掲げる施策が着実に推進できたと考えます。

(1) 取組状況調査について

関係課へ実施した取組状況調査では、172の取組内容のうち、154の取組が「計画より進んでいる」、「計画どおり進んでいる」という結果となり、昨年度より8増加しました。

また、「遅れている」という11の取組は、昨年度と同様に、音楽鑑賞などの芸術を親しむ機会や外部講師を招いた講座など、コロナ禍による中止や自粛によるものでした。

学校の取組状況調査では、令和2年度と比較して多くの取組に進捗が見られ、特に重点施策であるキャリア教育と教育の情報化は、多くの取組で数値が上昇するなど、学校の重点施策に対する取組意識の向上が確認できました。

(2) 実態把握調査について

児童生徒及び教員、保護者、地域住民へ実施した実態把握調査では、26項目の成果指標のうち、9項目の指標で目標値を達成しました。さらに、目標値を達成できていないものの、昨年度より数値が上昇した指標が11項目確認でき、昨年度より6項目増加しました。

一方で、昨年度と同様に、子供の自己肯定感や郷土愛など11項目の指標において数値の低下が見られる結果となりました。重点施策であるキャリア教育に関連した将来の夢や自己肯定感に関する数値の低下については、有識者からコロナ禍による家庭の経済状況の変化や地域とのふれあいの減少のほか、発達段階などの影響が推測されることから、数値に一喜一憂することなく、今後も子供たちに寄り添っていくことが重要であるとの助言をいただきました。教育の情報化に関しては、情報モラルに関する取組などが大きく進んだ一方で、タブレット型端末の活用が進むにつれ学校間の差を懸念する意見が保護者などから挙げられています。また、コミュニティ・スクールは、導入率が約9割となり、保護者や地域住民と教育目標などを共有した学校運営が約8割の学校において推進されていることが確認できました。

(3) 評価と今後の方向性

重点施策であるキャリア教育では、細江中学校が学校運営協議会を活用した取組が評価され、文部科学大臣表彰を受けることができました。その他の施策についても、コロナ禍の影響を受けた取組もありましたが、関係課や各学校の取組が着実に推進されている状況が調査から確認できたことから、**令和4年度の取組状況は概ね良好**であると考えます。

今年度の調査では、施策や取組を進めていくうえで家庭や地域との連携・協働を更に深めていくことが課題として挙げられています。今後は、取組について分かりやすい言葉で説明や周知などを行いながら、保護者や地域と連携を深めていくことが求められます。また、本市は、発達障害や不登校など、支援を必要とする子供が増加傾向にあることから、ICT活用をはじめとした支援の更なる充実が求められています。誰一人取り残さず、すべての人の可能性を引き出す共生社会の実現や、一人一人のウェルビーイングの実現に向けて、支援の拡充を図っていく必要があります。

Ⅵ【参考】教育委員会議案等と附属機関及び庁内会議

1 教育委員会議案・報告事項

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
4月26日（火） 傍聴1人	議案	1	浜松市立小学校、中学校及び高等学校の教育職員の勤務時間の割振り等に関する基準の一部改正について	教職員課	③
	議案	2	浜松市いじめ問題第三者委員の委嘱について	指導課	②
	議案	3	第37期浜松市社会教育委員の委嘱について	創造都市・文化振興課	②
	議案	4	教職員の人事について	教職員課	②
	議案	5	退職手当の支給制限について	教職員課	②
	報告	1	令和4年度全国学力・学習状況調査について	指導課	
	報告	2	令和3年度浜松市立高等学校の部活動と進路等の状況について	市立高等学校	
	報告	3	令和4年度浜松市立幼稚園園児数について	幼児教育・保育課	
	報告	4	令和4年度浜松市立小中学校児童・生徒数について	教育総務課	
	報告	5	博物館の事業について	文化財課	
5月25日（水） 傍聴3人	議案	6	令和4年度5月補正予算（案）の議会提案について		①
	議案	7	工事請負契約締結の議会提案について （浜松市立神久呂小学校校舎改築工事（建築工事））	教育施設課	①
	議案	8	工事請負契約締結の議会提案について （浜松市立神久呂小学校校舎改築工事（機械設備工事））	教育施設課	①
	議案	9	物品購入契約締結の議会提案について （小中学校特別教室用無線アクセスポイント機器）	教育施設課	①
	報告	6	令和4年度浜松市奨学生（継続貸与者）の選考結果について	教育教務課	
	報告	7	令和4年度浜松市放課後児童会登録児童数及び待機児童数について	教育教務課	
	報告	8	令和3年度「学校における働き方改革のための業務改善方針」取組状況について	教育総務課	
	報告	9	令和3年度「はままつづくり未来プラン 教育の情報化編」取組状況について	教育総務課	
	報告	10	令和3年度学校施設等の被害状況について	教育施設課、幼児教育・保育課	
	報告	11	令和3年度教職員の体罰・不適切な言動に関する調査結果について	教職員課	
	報告	12	令和5年度採用浜松市立小・中学校教員採用選考試験志願状況について	教職員課	
	報告	13	令和3年度問題行動、不登校及びいじめの実態について	指導課	
	報告	14	令和3年度園児・児童・生徒の交通事故状況と不審者情報について	健康安全課、幼児教育・保育課	
	報告	15	令和3年度通学路整備要望等に関する対応状況について	健康安全課、幼児教育・保育課	
	報告	16	博物館資料（備品）の紛失について	文化財課	
	報告	17	博物館の事業について	文化財課	
	6月29日（水） 傍聴2人	議案	10	浜松市博物館協議会委員の委嘱及び解嘱について	文化財課
議案		11	浜松市立図書館協議会委員の委嘱について	中央図書館	②
報告		18	美術館の事業について	美術館	
7月25日（月） 傍聴2人	議案	12	令和5年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について	指導課	④
	議案	13	令和5年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について	市立高等学校	④
	報告	19	令和5年度入学者選抜について	市立高等学校	

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
8月24日(水) 傍聴4人	議案	14	令和4年度9月補正予算(案)の議会提案について		①
	議案	15	浜松市職員の定年等に関する条例等の一部改正等の議会提案について	教職員課	①
	議案	16	浜松市教育委員会事務局事務分掌規則の一部改正について	教育総務課	③
	報告	20	浜松市いじめの防止等のための基本的な方針の改定について	指導課	
	報告	21	紛失した浜松市博物館資料(備品)の一部発見について	文化財課	
9月22日(木) 傍聴1人	議案	17	浜松市立小学校、中学校及び高等学校の教職員の人事評価に関する規則等の一部改正について	教職員課	③
	議案	18	浜松市教育職員の期末手当及び勤勉手当に関する規則の一部改正について	教職員課	③
	議案	19	浜松市立高等学校学則の一部改正について	市立高等学校	③
	議案	20	浜松市埋蔵文化財保護事務に関する規則の一部改正について	文化財課	③
	議案	21	令和4年度末 教職員人事異動方針について	教職員課	②
	議案	22	令和4年10月1日付教育委員会事務局職員人事異動(案)について	教育総務課	②
	報告	22	令和5年度放課後児童会運営委託事業者の特定について	教育総務課	
	報告	23	令和4年度全国学力・学習状況調査「浜松市の結果(概要)」について	指導課	
	報告	24	令和4年度全国・東海中学校総合体育大会結果について	指導課	
	報告	25	令和4年度浜松市立高等学校の部活動の状況について	市立高等学校	
	報告	26	美術館の事業について	美術館	
10月25日(火) 傍聴2人	議案	23	令和4年度11月補正予算(案)の議会提案について		①
	議案	24	浜松市教育職員の給与に関する条例について	教職員課	①
	議案	25	指定管理者の指定の議会提案について(浜松市立可新図書館他1施設)	中央図書館	①
	議案	26	指定管理者の指定の議会提案について(浜松市立舞阪図書館他2施設)	中央図書館	①
	報告	27	令和5年度浜松市奨学生の選考結果について	教育総務課	
	報告	28	令和5年度採用浜松市立小中学校教員採用選考試験の結果について	教職員課	
	報告	29	博物館の事業について	文化財課	
11月22日(火) 傍聴5人	議案	27	浜松市教育職員の期末手当及び勤勉手当に関する規則の一部改正について	教職員課	③
	議案	28	浜松市校長及び教員育成指標の改正(案)について	教育センター	⑤
	議案	29	令和4年12月1日付教育委員会事務局職員人事異動(案)について	教育総務課	②
	議案	30	教職員の人事について	教職員課	②
	報告	30	移動教育委員会「語り合おう!はままつの教育」“外国人児童生徒への支援充実に向けて”の意見交換結果について	教育総務課	
	報告	31	文化財サポーター事業について	文化財課	
12月21日(水) 傍聴5人	報告	32	令和4年度浜松市優秀教職員表彰について	教職員課	
	報告	33	博物館資料紛失再調査委員報告書について	文化財課	
	報告	34	博物館の事業について	文化財課	

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
1月27日(金) 傍聴4人	議案	31	令和4年度2月補正予算(案)の議会提案について		①
	議案	32	令和5年度当初予算(案)の議会提案について		①
	議案	33	浜松市区及び区協議会の設置等に関する条例の一部を改正する条例の施行に伴う関係条例の整理に関する条例制定の議会提案について	教育総務課	①
	議案	34	浜松市放課後児童健全育成事業手数料徴収条例制定の議会提案について	教育総務課	①
	議案	35	浜松市立幼稚園条例の一部改正の議会提案について	幼児教育・保育課	①
	議案	36	浜松市博物館条例の一部改正の議会提案について	文化財課	①
	議案	37	浜松市美術館条例の一部改正の議会提案について	美術館	①
	議案	38	工事請負契約の一部変更の議会提案について(浜松市立可美小学校校舎改築第2期工事(建築工事))	教育施設課	①
	議案	39	工事請負契約の一部変更の議会提案について(浜松市立西部中学校校舎改築工事(建築工事))	教育施設課	①
	報告	35	第15回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰について	教育総務課	
	報告	36	学校ホームページのリニューアル(CMS化)について	教育施設課	
	報告	37	令和4年度幼稚園教諭・保育士採用試験結果について(令和5年度採用)	幼児教育・保育課	
	報告	38	学校開放事業スマート化について	スポーツ振興課	
	2月21日(火) 傍聴3人	議案	40	教職員の人事について	教職員課
議案		41	退職手当の支給制限について	教職員課	②
報告		39	令和5年度発達支援学級新設予定校について	教育総務課、指導課	
報告		40	適応指導教室の呼称変更について	指導課	
報告		41	「令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果(概要)について	指導課	
報告		42	博物館の資料管理に係る職員の処分について	文化財課	
報告		43	令和5年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制の基準について	教職員課	
報告		44	令和5年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制基準日について	教職員課	
3月2日(木) (臨時) 非公開	議案	42	令和4年度末市立幼稚園関係職員人事異動(案)について	幼児教育・保育課	②
	議案	43	令和4年度末教職員人事異動(案)について	教職員課	②
	議案	44	令和4年度末学校関係職員(給食員・用務員)人事異動(案)について	教職員課	②
	報告	45	令和4年度末永年勤続表彰について	教職員課	

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
3月15日(水) 傍聴2人	議案	45	浜松市教育委員会事務局事務分掌規則の一部改正について	教育総務課	③
	議案	46	浜松市教育センター等業務規則の一部改正について	教育総務課	③
	議案	47	浜松市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について	教育総務課	③
	議案	48	浜松市教育委員会職員補職名規程の一部改正について	教育総務課	③
	議案	49	浜松市教育委員会職員のうち特殊な勤務に従事するものの勤務時間等に関する規程の一部改正について	教育総務課	③
	議案	50	浜松市教育委員会職員安全衛生規程の一部改正について	教育総務課	③
	議案	51	浜松市立幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教職員の職務に専念する義務の特例に関する規程の一部改正について	教職員課	③
	議案	52	浜松市教育職員の給与に関する規則の一部改正について	教職員課	③
	議案	53	浜松市教育職員の給与に関する規則等の一部改正について	教職員課	③
	議案	54	浜松市立幼稚園園則の一部改正について	幼児教育・保育課	③
	議案	55	博物館の登録に関する規則の一部改正について	文化財課	③
	議案	56	令和4年度教育委員会点検・評価報告書(案)について	教育総務課	⑥
	議案	57	令和4年度末学校関係職員(市立高校)人事異動(案)について	教職員課	②
	議案	58	令和4年度末教育委員会事務局職員人事異動(案)について	教育総務課	②
	報告	46	令和4年度文部科学大臣優秀教職員表彰について	教職員課	
	報告	47	令和4年度「浜松市児童生徒文化・スポーツ賞」受賞者の決定について	指導課	

2 教育委員会の活動状況

月	定例会・協議会	会議出席	会議以外の活動
4	26 定例会 協議会	26 浜松市奨学生選考委員会	8 校長会議 教育会館 26 総合教育会議勉強会
5	25 定例会 協議会		6 総合教育会議勉強会 10 浜松教師塾開講式 教育センター 25 総合教育会議勉強会 25 三遠南信教育サミット 実行委員会
6	29 定例会 協議会	14 第1回移動教育委員会(第1部) 江南中	16 ピア・サポート研修 東小 29 総合教育会議勉強会 29 三遠南信教育サミット 実行委員会
7	25 定例会 協議会	8 第26回三遠南信教育サミット ホテルクラウン パレス浜松 11 第1回浜松市総合教育会議	25 三遠南信教育サミット 実行委員会
8	24 定例会 協議会		25 人事関係業務 クリエイト浜松 26 人事関係業務 クリエイト浜松
9	22 定例会 協議会	3 第2回移動教育委員会 教育会館	22 総合教育会議勉強会
10	25 定例会 協議会	11 浜松市奨学生選考委員会 19 第1回はままつ人づくり 未来プラン推進委員会 24 第1回移動教育委員会(第2部) 教育センター	25 総合教育会議勉強会
11	22 定例会 協議会	25 指定教育研究報告会 教育会館 30 第61回静岡県市町教育委員 会研修会 WEB会議	22 総合教育会議勉強会

月	定例会・協議会	会議出席	その他
12	21 定例会 協議会	6 第3回移動教育委員会 東区役所 15 第2回浜松市総合教育会議	7 人事関係業務 教育センター 9 人事関係業務 教育センター 9 総合教育会議協議関連視察 (子ども食堂・学習支援教室) 11 人事関係業務 地域情報センター
1	27 定例会 協議会		8 浜松市はたちの集い 市内各会場 24 指定研修幼稚園 万斛幼稚園 初生幼稚園
2	21 定例会 協議会	14 第2回はままつ人づくり 未来プラン推進委員会	3 研究員研究発表会 WEB視聴 24 浜松教師塾発表会・修了式
3	2 臨時会 15 定例会 協議会		13 臨時校長会議 教育会館
計	定例会 12回 臨時会 1回 協議会 12回	会議出席 13回	その他 24回



3 附属機関及び庁内会議

(1) 附属機関 8機関 (R3: 7機関)

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
1	浜松市学校運営協議会	令和2年4月1日	保護者及び地域住民等の対象学校の運営への参画を促進し、当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図ることを目的とする。 (1)対象学校の校長が作成する学校経営に関する基本的な方針の承認 (2)対象学校の運営及び当該運営への必要な支援についての協議 (3)対象学校の運営及び対象学校の職員の採用その他任用に関する意見の申出（任意）	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5 浜松市学校運営協議会規則	教育総務課
2	浜松市いじめ問題第三者委員会	令和4年4月1日	いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第14条第3項の規定に基づき設置し、委員会は、次に掲げる事項について、教育委員会の諮問に応じ調査審議する。 (1)法第14条第3項に規定するいじめの防止等のための対策に関すること。 (2)重大事態の調査に関すること。	いじめ防止対策推進法第14条第3項 浜松市いじめ問題第三者委員会条例	教育総務課
3	浜松市スポーツ推進審議会	昭和37年4月1日	スポーツ基本法第35条の規定による諮問に対する答申を行うほか、次に掲げる事項について、教育委員会の諮問に応じ調査審議し、又は意見を述べる。 (1)スポーツ基本法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること (2)スポーツの施設及び設備の整備に関すること (3)スポーツの指導者の養成及び資質の向上に関すること (4)スポーツの事業の実施及び奨励に関すること (5)スポーツの団体の育成に関すること (6)スポーツの技術水準の向上に関すること (7)前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること	スポーツ基本法第31条 浜松市スポーツ推進審議会に関する条例	スポーツ振興課
4	浜松市社会教育委員会	昭和25年2月1日	社会教育に関する諸計画の立案及び調査研究を行うとともに、教育委員会の諮問に応じ意見を述べる。	社会教育法第15条第1項 浜松市社会教育委員条例	創造都市・文化振興課
5	浜松市文化財保護審議会	昭和52年4月1日	教育委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項について教育委員会に建議する。	文化財保護法第190条第1項 浜松市文化財保護条例	文化財課
6	浜松市博物館協議会	昭和54年4月1日	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。	博物館法第20条第1項 浜松市博物館条例	文化財課（博物館）
7	浜松市美術館協議会	昭和46年7月1日	美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。	博物館法第20条第1項 浜松市美術館条例	美術館
8	浜松市立図書館協議会	昭和25年9月5日	図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる。	図書館法第14条第1項 浜松市立図書館協議会条例	中央図書館

開催回数		R4 平均 開催 時間	委員数				情報公開			令和4年度の主な審議・活動内容	No.
R3	R4		学識 経験者	市民 委員	行政 職員等	計	傍 聴	会 議 録	会 議 資 料		
263	469	1時間 30分	0	1082	0	1082	公開	公開	公開	(1)学校運営の基本方針について (2)学校支援活動について (3)学校関係者評価 (4)学校運営協議会自己評価 ※学校運営協議会設置校（130校125協議会）にて実施	1
-	23	2時間 48分	10	0	0	10	非公開	非公開	非公開	(1)「浜松市いじめの防止等のための基本的な方針」の見直し (2)いじめの重大事態事案に関する調査 ・教育委員会からの諮問に対する調査の実施、答申（報告書）の作成 ・いじめの事実の全容解明、再発防止策の提言のため関係者からの 聴き取り調査、資料調査	2
4	3	分	9	0	0	9	公開	公開	公開	(1)第2期浜松市スポーツ推進計画の令和4年度の取り組みについて (2)スポーツ大会激励金の見直しについて (3)スポーツ大会開催事業費補助金の見直しについて (4)ブラインドサッカートップリーグ2022について (5)第19回浜松シティマラソンについて	3
4	4	1時間 30分	1	9	0	10	公開	公開	公開	(1)生涯学習の主要事業等の2021年度実績及び2022年度計画について (2)生涯学習事業について ・生涯学習講師スキルアップ講座・気軽に♪生涯学習ボランティア講座について ・「浜松科学館」の取り組みについて ・「子どもの才能を伸ばす課外講座」等について (3)視察研修 ・浜松科学館（10月） ・浜松市と大学との連携事業成果報告会（2月）	4
3	3	2時間 5分	9	0	0	9	公開	公開	公開	(1)令和3年度文化財保護事業報告について (2)令和4年度文化財保護事業計画について (3)文化財の現況調査と報告、協議 (4)浜松市地域遺産（認定文化財）について	5
3	4	1時間 45分	8	0	0	8	公開	公開	公開	(1)令和3年度博物館事業報告について (2)令和4年度博物館事業計画について (3)令和4年度博物館事業評価項目について (4)令和5年度博物館事業予定について (5)史跡蜷塚遺跡整備基本計画について (6)浜松市博物館条例の改正について	6
3	3	1時間 30分	6	0	2	8	公開	公開	公開	(1)令和3年度浜松市美術館事業報告について (2)令和3年度浜松市秋野不矩美術館事業報告について (3)外部評価について (4)施設運営について (5)浜松市秋野不矩美術の指定管理について (6)令和5年度浜松市美術館事業計画について (7)令和5年度浜松市秋野不矩美術館事業計画について	7
3	3	2時間	8	0	0	8	公開	公開	公開	(1)令和3年度図書館事業報告について (2)令和4年度図書館事業計画について (3)令和3年度図書館評価について (4)令和4年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果について (5)令和5年度図書館評価指標について	8

(2) 庁内会議 13組織 (R3:16組織)

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
1	はままつ人づくり未来プラン推進委員会	平成27年4月1日	第3次浜松市教育総合計画 後期計画の円滑な進行管理と、本市の教育のさらなる発展に向けた改善策等について協議する。 (1)第3次浜松市教育総合計画 後期計画に基づく取組の進捗管理と評価・検証 (2)教育施策の改善策等に関する協議	はままつ人づくり未来プラン推進委員会設置要綱	教育総務課
2	浜松市教員育成協議会	令和4年4月1日	市立小中学校等の校長・教員の職責、経験及び適性に応じて向上を図るべき校長及び教員としての資質に関する指標の策定又は変更に関する必要な事項を協議するため設置する。 (1)校長及び教員として資質向上に関する指標の策定及び変更に関すること (2)指標に基づく校長及び教員等の資質・能力向上に関すること (3)上記に掲げるもののほか、必要な事項	浜松市教員育成協議会設置要綱	教育総務課
3	浜松市学校施設整備適正化推進本部	令和3年3月26日	市立小中学校における施設整備の適正化を図るため、教育体制の変化や社会的ニーズ、法改正、局所的な人口増加など、様々な課題を教育委員会全体で共有し、総合的かつ計画的な整備方針の策定に向けた協議を行う。	浜松市学校施設整備適正化推進本部設置要綱	教育施設課
4	浜松市教職員健康審査会	平成19年4月1日	市立小中学校及び高等学校に勤務する教職員の健康管理の適正を図るため、必要事項について審査する。 (1)教職員の健康管理に関すること (2)教育長が必要と認めたと者の休職の要否又は復職の可否について、病状の審査及び判定 (3)職員として採用しようとする者の健康状態に係る審査及び判定 (4)その他教育長が必要と認めたと	浜松市教職員健康審査会実施要綱	教職員課
5	浜松市指導力向上教員審査委員会	平成20年4月1日	幼児・児童・生徒に対する教員の指導力向上を図るため、必要事項について審査する。 (1)指導力向上教員の判定に関すること (2)精神的な疾患の疑いのある教員の医療機関への受診の要否に関すること (3)職場復帰に関すること (4)上記に掲げるもののほか、指導力向上教員への対応に関すること	浜松市指導力向上教員審査委員会設置要綱	教職員課
6	浜松市立小中学校統括安全衛生委員会	令和3年4月1日	市立小中学校の安全衛生管理の円滑な推進を図るため、教職員の安全及び衛生に関する重要事項について協議する。 (1)教職員の健康の保持増進に関すること (2)教職員の職場における危険又は健康障害の防止に関すること (3)公務災害上の原因及び再発防止対策に関すること (4)上記に掲げるもののほか、教職員の安全及び衛生管理上必要な事項に関すること	浜松市立小中学校統括安全衛生委員会設置要綱	教職員課

開催回数		R4 平均 開催 時間	委員数			情報公開			令和4年度の主な審議・活動内容	No.
R3	R4		有識者等	行政職員等	計	傍聴	会議録	会議資料		
2	2	2時間	-	7	7	公開	公開	公開	(1)教員の資質能力の向上 ※浜松市教員育成協議会と合催 ・浜松市校長・教員に求められる資質能力の明確化について（育成指標の改正） ・令和5年度教職員研修計画について (2)第3次浜松市教育総合計画 後期計画に係る令和4年度の評価・検証	1
-	1	1時間 30分	3	9	12	公開	公開	公開	教員の資質能力の向上 ・浜松市校長・教員に求められる資質能力の明確化について（育成指標の改正） ・令和5年度教職員研修計画について ※第1回はままつづくり未来プラン推進委員会と合催	2
6	6	1時間	-	14	14	非公開	非公開	非公開	【審議事項】 (1)放課後児童会における整備の進め方 (2)学校給食室における整備の進め方 (3)発達支援学級等の設置方針 【活動内容】 ・発達支援学級等の位置づけ、法令確認、整備内容等に関する基盤整備、設置方針作成 ・全小中学校教室所有状況の整理 ・教室等の兼用利用の可能性の検討	3
11	15	1時間	4	0	4	非公開	非公開	非公開	(1)審査部会 ・第1部会：結核性疾患に係る事項（該当者なしのため開催せず） ・第2部会：精神・神経系障害に係る事項（11回開催） ・第3部会：生活習慣病等に係る事項（4回開催） (2)審議内容等 ・書類審査 診断書・観察報告書・経過報告書・休職日数計算書等 ・所属長等から病状についての報告 ・委員等からの質疑応答 ・職務復帰、復職に係る審査及び判定 ・判定や指示事項の所属長への伝達 ・採用予定者への健康状態にかかる審査及び判定	4
0	0	-	4	3	7	非公開	非公開	非公開	※会議に諮る事項が生じなかったため開催せず	5
1	1	2時間	1	10	11	非公開	非公開	非公開	(1)時間外在校等時間の状況 ・時間外在校等時間の報告、改善が見られる学校の取組み事例の共有等 (2)ストレスチェックの結果報告 ・ストレスチェックの実施状況及び分析結果の報告、メンタルヘルス不調者への対策等 (3)公務災害発生状況等報告 ・公務災害の発生状況、発生事例の共有、事故防止対策等	6

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
7	浜松市就学支援委員会	平成16年4月1日	特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適正な就学支援を行い、発達支援教育の推進を図るため、必要事項について協議する。 (1)特別支援学校入学者及び発達支援学級入級者の判断と就学支援に関すること (2)障害のある幼児・児童・生徒の就学支援に関する諸問題、研究に関すること (3)その他目的を達成するために必要な事項に関すること	浜松市就学支援委員会規則	指導課 教育総合支援センター
8	浜松市不登校対策推進協議会	平成28年4月1日	本市の小中学校に在籍している不登校児童生徒等に対する指導の充実及び不登校対策について協議する。 (1)市内9か所の校外適応指導教室「ふれあい」「かやの木」「すぎのこ」「おれんぢ」「とびうお」「くすのき」「くろーばー」「ひまわり」「まつのき」及び市内30か所の校内適応指導教室の運営及び協議 (2)不登校対策についての情報交換及び協議	浜松市不登校対策推進協議会設置要綱	指導課 教育総合支援センター
9	浜松市外国人子供支援協議会	平成22年4月1日	外国につながる子供への教育支援を充実させるため、外国人児童生徒の現状把握及び必要な教育支援等について協議する。 (1)外国人子供教育支援の現状把握に関すること (2)外国人子供教育支援の改善充実に関すること (3)その他必要な事項に関すること	浜松市外国人子供支援協議会設置要綱	指導課 教育総合支援センター
10	浜松市学童等災害共済会議	平成22年4月1日	浜松市学童等災害共済条例施行規則第6条に規定する見舞金の支給決定に関する意見を聴取する。 (1)会員より請求があり事務審査が完了した傷害見舞金に関すること (2)会員より請求があった障害見舞金及び特別見舞金に関すること (3)共済に関する基本的な施策について必要な事項の調査審議に関すること (4)上記に規定するもののほか、共済見舞金について必要な事項	浜松市学童等災害共済会議設置要綱	健康安全課
11	浜松市子ども読書活動推進会議	平成19年4月1日	本市における子ども（0歳からおおむね18歳まで）の読書活動が「浜松市子ども読書活動推進計画」を指針として積極的に推進されるよう進捗状況を管理する。 (1)子ども読書活動推進計画の推進に関すること (2)子ども読書活動推進計画の進行管理に関すること (3)その他必要な事項に関すること	浜松市子ども読書活動推進会議設置要綱	中央図書館

開催回数		R4 平均開催時間	委員数			情報公開			令和4年度の主な審議・活動内容	No.
R3	R4		有識者等	行政職員等	計	傍聴	会議録	会議資料		
3	3	3時間	4	17	21	非公開	非公開	非公開	(1)幼稚園・学校等の支援が必要な子供の実態把握 ・幼稚園、保育園、施設等で「支援の必要な子供」についての実態調査実施 ・小学校、中学校で「支援の必要な子供」についての実態調査実施 ・保護者へ就学教育相談の案内送付 (2)就学教育相談の実施 ・幼児就学教育相談の実施 ・小学校、中学校を訪問し、実態調査並びに就学教育相談実施 (3)就学先の判断と就学支援の実施 ・第1回浜松市就学支援委員会：新学齢児の就学先の判断 ・第2回浜松市就学支援委員会：学齢児の就学先の判断 ・第3回浜松市就学支援委員会：本年度の活動総括	7
2	2	2時間	5	6	11	非公開	非公開	非公開	(1)不登校児童生徒の現状について ・不登校児童生徒数の現状 ・不登校の要因・背景について (2)浜松市における不登校対策について ・不登校児童生徒の居場所づくり（校外・校内適応指導教室）、状況調査について ・こころの健康観察を含めた客観的指標の活用について ・小学校への支援強化について ・ICTを活用した支援について ・自立支援における校外適応指導教室以外の支援について	8
2	2	2時間	7	8	15	非公開	非公開	非公開	(1)外国人児童生徒等の現状と課題の検証 ・外国人児童生徒等の現状説明 ・課題についての協議 ①日本語指導の必要な外国人児童生徒等への「特別の教育課程」の編成・実施 ②外国につながる子供への母国語支援の在り方 (2)外国人の子供の教育の在り方 ・日本語指導の必要な全ての外国人児童生徒等への支援の拡充について ・母国語・母文化の継承の意味や、母国語指導教室の支援の方向性	9
6	6	1時間	3	6	9	非公開	一部公開	一部公開	(1)事務局が行った事務審査（会員の請求に基づき、診断証明書等による災害の認定と傷害見舞金を確定）の審査決定に関する意見聴取 (2)会員の請求に基づく障害見舞金及び特別見舞金の審査決定に関する意見聴取 (3)その他共済見舞金に関する必要事項について ※デジタル化・ペーパーレス化推進の一環として配付資料を紙媒体から電子データに変更 ※令和5年3月支給分から保護者の指定口座へ直接支給	10
3	3	2時間	4	4	8	公開	公開	公開	(1)令和3年度の活動報告及び令和4年度の取組について確認 ・市立図書館の実績と計画 ・学校図書館の実績と計画 ・リニューアル後の中央図書館見学 (2)読書活動推進校（西小）の施設見学 (3)令和4年度の活動報告及び令和5年度の取組について	11

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
12	浜松市幼児教育推進協議会	平成29年8月31日	<p>幼児教育への社会的関心及び関連する教育・保育施設等の需要が高まる中で、国や県の動向を踏まえ、幼児教育の目指すべき姿を全市で共有し、本市幼児教育のより良い環境を構築することにより、未来を担う人材を育成していくため、必要事項について協議する。</p> <p>(1)浜松市教育総合計画及び浜松市子ども・若者支援プランの幼児教育推進に関すること (2)関連施設における課題の共有と解決に向けた取組に関すること (3)その他就学前における教育・保育の振興と充実に関すること</p>	浜松市幼児教育推進協議会設置要綱	幼児教育・保育課
13	浜松市立幼稚園・保育園適正化等検討会	令和4年5月16日	<p>少子化や人口減少が進行するとともに、幼児教育・保育に対する市民のニーズが多様化する中、一律の基準ではなく地域性等を考慮し、社会動態や保育需要の変化に合わせた持続可能で質の高い幼児教育・保育を実現していくための「浜松市立幼稚園・保育園の適正化等に関する方針」を策定することを目的とした検討会を設置する。</p> <p>(1)方針策定に関する事項 (2)その他、浜松市立幼稚園・保育園に関し必要な事項</p>	浜松市立幼稚園・保育園適正化等検討会設置要綱	幼児教育・保育課

開催回数		R4 平均 開催 時間	委員数			情報公開			令和4年度の主な審議・活動内容	No.
R3	R4		有識者等	行政職員等	計	傍聴	会議録	会議資料		
3	3	2時間	8	6	14	公開	公開	公開	(1)幼児教育・保育の質の向上について ・浜松市幼児教育の指針の浸透及び教職員用指導資料の活用促進について ・研修の実施について ・幼児教育アドバイザー派遣モデル事業について ・「幼児期に育てたい力」の育みについて （マーガレット保育園の保育参観を通して） (2)幼児期の教育と小学校教育の接続について ・浜松市版幼少接続期の教育・保育実践の参考資料（案）について (3)「第3次浜松市教育総合計画後期計画」及び「第2期浜松市子ども・若者支援プラン」に係る実施状況について	12
-	5	2時間	6	6	12	公開	公開	公開	浜松市立幼稚園・保育園の適正化等に関する方針（案）について	13

令和4年度
教育委員会点検・評価報告書
令和5年3月

浜松市教育委員会 教育総務課
〒430-0929
浜松市中区中央一丁目2番1号
イーステージ浜松オフィス棟 6F
TEL : 053-457-2401 FAX : 053-457-2404
Email : somu@city.hamamatsu-szo.ed.jp